



The National Association of Racing
地方競馬全国協会
畜産振興事業

令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会 《 第65回農林水産祭参加行事 》

令和7年11月28日

主 催
後 援

公益社団法人中央畜産会
農 林 水 産 省
地 方 競 馬 全 国 協 会

はじめに

畜産会組織は、昭和30年の設立から70年にわたり、畜産経営に対する経営・技術の指導・助言（いわゆる畜産コンサルタント事業）を組織の中核的事業として実施してまいりました。

その間、多くの畜産経営が畜産会の指導・助言により経営改善を果たしています。その中には、地域の中核的なリーダーとして活躍されている経営、先進的な技術や経営管理により全国のモデル的経営として評価されている経営、多額の負債を抱えながらも技術や財務管理の改善により健全経営として再建を図った経営など多様な経営があり、地域の畜産振興に大きな役割を果たしてきました。

中央畜産会では、畜産会の指導により経営改善を図り、優秀な実績を収めている畜産経営、グループで課題解決に取り組んでいる事例などを広く求め、全国優良畜産経営管理技術発表会を開催してきました。この発表会において、優秀な事例を表彰するとともに、その経営成果とそれを支えた経営管理技術の普及拡大を図ることで、わが国の畜産の振興に資してきました。

本年度の発表会は第65回農林水産祭参加行事として開催しております。発表会で表彰した多くの経営が天皇杯をはじめ三賞受賞の榮譽に浴しており、わが国を代表する畜産経営を表彰する行事といえます。

今回、会員の方々からご推薦をいただいた事例は、いずれも優秀な実績を挙げている経営であり、それぞれさまざまな工夫や努力を積み重ねられた特徴のあるすばらしい経営ばかりです。

本資料は本年度の発表経営の取り組みをまとめたものであり、畜産経営、経営支援の現場で広く活用していただけると幸いです。

この行事の開催に当り、多大なご協力をいただきました審査委員、会員団体・関係者の皆様、そして、後援いただいた農林水産省、地方競馬全国協会に厚くお礼申し上げます

令和7年11月28日

公益社団法人 中央畜産会

令和 7 年度全国優良畜産経営管理技術発表会

第65回農林水産祭参加行事

主 催 公益社団法人中央畜産会

後 援 農 林 水 産 省
地 方 競 馬 全 国 協 会

開催日時 令和 7 年11月28日（金） 13：00～17：00

開催場所 都市センターホテル

= 次 第 =

13：00～ 開 会

13：05～ 業績発表

15：40～ 審査講評

16：00～ 表 彰 式

17：00 閉 会

目次

はじめに

I	令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員	2
II	発表事例（最優秀賞・優秀賞候補）の概要	3
1	家族団らんで営む低投資のタイストールによるメガファームの実現 －自分で考えた酪農経営の追求とその実践－ 藤田 貴良・麻奈美（酪農経営 岩手県）	4
2	大手との価格競争の中、生き残りをかけて6次産業化に挑戦した採卵鶏経営 株式会社半澤鶏卵（採卵鶏経営 山形県）	10
3	アニマルウェルフェアへの取り組みと共に安全・安心を追求した 甲州牛生産の匠 －八ヶ岳の大地で牛と歩む未来へ－ 原 廣一・奈美（肉用牛一貫経営 山梨県）	16
4	先進技術とこだわりの技で牛、人、町の幸せがギュッと詰まった酪農経営 －父の夢を兄妹で実現 さらに飛躍する酪農を目指して－ 株式会社ミルクファームすぎやま（酪農経営 京都府）	22
5	地域に根ざした家族経営で、安全・安心でおいしい備中牛生産 江草 孝一・真弓（肉用牛一貫経営 岡山県）	28
6	シン・タマゴ －鶏糞を信じ切れるか－ 有限会社グリーンファーム久住（採卵鶏経営 大分県）	34
7	地域に愛されるブランドポークはまゆう豚 －人材は宝－ 有限会社ハマユウ尾鈴ポーク（養豚経営 宮崎県）	40
8	家族一体で突き進むポジティブ肉用牛経営 －人と牛をハッピーにしたい－ 株式会社窪田畜産（肉用牛一貫経営 鹿児島県）	46
III	これまでの受賞事例	53
IV	令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領	71
	協賛企業・団体一覧	

I

令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員

● 審査委員長

眞鍋 昇 東京大学 名誉教授

● 審査委員（五十音順）

安藤 光義 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

叶 拓斗 農林水産省畜産局企画課 課長補佐

栗原 伸一 千葉大学大学院園芸学研究院 教授

小迫 孝実 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター 研究開発監

齋藤 武至 元日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 専任講師

松田 二子 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

近藤 康二 公益社団法人中央畜産会 専務理事



発表事例の概要

家族団らんで営む低投資の タイストールによるメガファームの実現

—自分で考えた酪農経営の追求とその実践—

藤田 貴良・麻奈美（酪農経営・岩手県八幡平市）

地域の概況

藤田貴良氏・麻奈美氏が酪農を営む八幡平市は、岩手県の北西部に位置し、西は秋田県、北は青森県と隣接し古くから交通の要所として発展している。中でも、牧場がある松尾地区は八幡平市の南西部に位置し、岩手の最高峰岩手山や八幡平、奥羽山脈に囲まれた中山間地域であるが、比較的広大な畑地が広がり、気候・地形を生かした高冷地野菜等の耕種農業と酪農および肉用牛の大家畜を主とした畜産が基幹産業である。酪農家の1戸当たり飼



（写真1）藤田夫妻（右 貴良氏、左 麻奈美氏）

養規模は中規模であり、高齢化や労働力不足、農家戸数の減少などが課題となっている。

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
平成6年	酪農 稲作	経産牛16頭 水稲3ha	17ha	父が酪農経営と稲作を営み、貴良氏は農協職員、酪農ヘルパーとして就職
平成16年	酪農 稲作	経産牛16頭 水稲3ha	17ha	農協職員、酪農ヘルパーとして10年間従事後、28才で就農
平成18年	酪農 稲作	経産牛40頭 水稲3ha	30ha	牛舎を増築し、経産牛24頭増頭、牧草地30haに拡大
平成25年	酪農専業	経産牛60頭	60ha	搾乳牛舎を増築し、経産牛20頭増頭。水田を無くし、牧草地を60haに拡大
令和元年	酪農専業	経産牛60頭	60ha	岩手県農業農村指導士の認定を受ける
令和2年	酪農専業	経産牛73頭 育成牛40頭	60ha	近代化資金を借り入れ、搾乳牛舎とバルク機械室を増築し、100頭搾乳の体制整備
令和3年	酪農専業	経産牛73頭 育成牛40頭	60ha	いわて農林水産振興協議会（会長：岩手県知事）主催の意欲ある担い手賞を受賞
令和6年	酪農専業	経産牛114.1頭 育成牛76.8頭	90ha	牧草地を90haに拡大し増頭
令和7年	酪農専業	経産牛114.1頭 育成牛76.8頭	90ha	酪農雑誌が開催した、「第43回オールニッポン・ホルスタインコンテスト」において、2歳経産ジュニアクラス準オールニッポンを受賞

経営・活動の推移

父が酪農と水稻経営をする中、平成6年、貴良氏は高校卒業後農協に就職し、畜産指導と酪農ヘルパーとして10年間従事後、「自分で考えた酪農経営の可能性を追求したい」と考え平成16年に就農した。翌年麻奈美氏と結婚し、平成18年に経営承継後、計画的な牛舎の増築や草地拡大を重ね、現在は経産牛平均飼養頭数114.1頭、育成牛76.8頭を家族4名体制（本人夫婦と妻の弟妹（パート））で飼養しており、子供たちも積極的に作業に加わっている。

粗飼料はほぼ自給し、堆肥は草地還元および稲作農家との稲わら交換等を通じて地域内での循環型酪農・耕畜連携を実践している。

（表2）経営実績（令和6年）

経営概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族・構成員	23人
		雇用・従業員	1.1人
	経産牛平均飼養頭数		114.1頭
	飼料生産	実面積	9,000a
	年間総販売乳量		1,045,248kg
	年間子牛販売頭数		36頭
	年間育成牛販売頭数		13頭
	年間経産牛販売頭数		22頭
収益性	所得率		25.9%
	経産牛1頭当たり生産費用		1,158,476円
生産性	牛乳生産	経産牛1頭当たり年間産乳量	9,161kg
		平均分娩間隔	14.3ヵ月
		受胎に要した種付回数	2.6回
		平均産次数（期首）	2.6産
		平均産次数（期末）	2.5産
		牛乳1kg当たり平均価格	143.3円
		牛乳1kg当たり生産費用	126.5円
		乳脂率	3.94%
		乳蛋白質率	3.42%
		無脂乳固形分率	8.79%
		体細胞数	7.4万個/ml
		借入地依存率	91.0%
		飼料TDN自給率	52.6%
		乳飼比（育成・その他含む）	38.8%

貴良氏は、酪農ヘルパー業務の経験を生かし、計画的な牧草地の面積拡大および増頭と牛舎内作業のルール化で、人にも牛にも無理のないゆとりある酪農経営を実践している。

良質な生乳の生産を目指した取り組みが管理全体の改善につながり、その結果、収益の安定化を実現した。また、令和6年の成績は、個体乳量9,161kg、体細胞数7.4万/ml、細菌数0.5万/mlと極めて高品質な生乳となり、岩手県乳質改善大賞を平成28年から9年連続、合計11回受賞するなど、地域を牽引する担い手となっている。

経営・技術の特色等

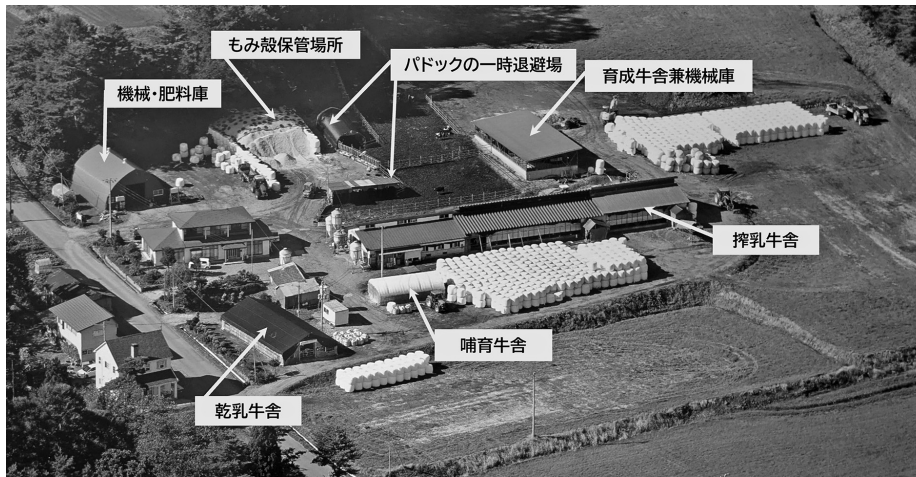
【草地面積の拡大に伴った無理のない投資による段階的な規模拡大】

平成16年に就農後、既存の繋ぎ牛舎を3回にわたり増築し、現在の経産牛114頭まで拡大した。近隣の営農中止等による農地の集積により牧草地を確保し、その面積は就農時の17haから現在90haとなった。草地面積の拡大に伴い計画的に自家産後継牛も増頭しながら経営の規模拡大を行ってきた。

牛舎内は省力化のための機械投資は最小限とし、既存の労働力・施設を有効活用することで家族労働によるタイストールメガファーム（年間出荷乳量1,045トン）を実現した。近年、100頭規模のタイストール牛舎では自動給餌機等の省力化機器やTMR給餌器を整備しているが、投資抑制の観点などから、導入していない。

【牛舎作業の効率化とキャトルセンター利用による省力化】

牛舎は対頭式（牛の頭が向かい合う）のため、効率的に粗飼料摂取量をまかなう給与が可能であり、濃厚飼料に頼らず高い個体乳量を実現している。



(写真2) 牛舎等配置

牛舎作業はルール化し、2～3人で作業を短時間でできる体制を整え、繁忙期でも定時で作業を終了することができる。妻の弟妹（パート）に加えて、現在は農業高校に通う娘が作業に加わり大きな労働力となっている。

経営拡大と父母の高齢化による引退を契機に育成牛



(写真3) 乳質改善大賞受賞



(写真4) ジェラート店のぼり

は全て地元のキャトルセンターに預託し、労働力は搾乳牛の飼養管理と粗飼料生産に集中している。妻の哺乳作業が軽減された分、販売子牛（和牛受精卵移植含む）の管理に集中することができたため、増体が向上し、販売額が増加した。また、旧育成牛舎を乾乳牛管理に活用し、搾乳頭数を増加することで生乳販売量を拡大しながら、さらに自給飼料の余剰分や、初妊牛の販売によって、生乳以外の販売収入も確保されている。

【乳質へのこだわり】

良質乳生産を目標に乳房炎対策を徹底した結果、周産期疾病の減少、乳量の増加、繁殖成績の改善等が図られた。その結果、岩手県乳質改善協議会（全農岩手県本部）主催の岩

手県乳質改善大賞を平成28年から9年連続、合計11回受賞し、現在も継続して受賞を目指している。

また、高い乳質が評価され地元のジェラート店へ生乳の一部を出荷している。

自ら6次産業化しなくても、地元業者との連携を通じてやりがい・喜びを得ており、さらなる高品質な生乳生産への意欲につながっている。

【家族団らんの家族労働】

現在、家族労働力は夫婦2人とパート雇用の弟・妹の他に子供たちが加わる。

対頭式牛舎の真ん中の広い飼槽通路は小さい時から子供たちの遊び場でもあり、家族団らんの場となっているため、自然に牛舎仕事

を手伝い、小学生の次女も給餌作業から搾乳作業までできるようになった。

家族の意見は否定せずに取り入れており、全員のモチベーションとスキルの向上が図られている。

【優れた搾乳衛生】

良質乳生産のため、搾乳衛生の基本を徹底し、搾乳機器部品の早期交換や岩手県畜産協会が実施するミルクシステム診断を定期的に受診し、不具合の有無を確認している。また、牛床には稲わらやもみ殻、ドロマイト石灰などの資材を毎日散布し、乾燥状態を保ち、さらに乾乳中の乳房炎対策のため外部乳頭シール（ティートナー）を活用している。乳房炎の発生は数ヵ月に1頭程度で、搾乳作業時間の短縮と高品質乳の生産につながっている。

【飼養・衛生管理について】

給与飼料は、牧草、発酵飼料、配合飼料、トウモロコシ圧片、添加剤のみで、乳量・コンディションに応じて配合飼料のみ3段階で変更している。高泌乳でも濃厚飼料の給与量上限を11kg/頭/日と設定し、牛に無理をさせないため疾病の発生はほぼ無く、年間個体乳量は1万kg前後で推移している。発酵飼料は自給牧草の品質変化の影響を緩和するために

一定量給与している。

牛舎内は毎月3回、専門業者による煙霧消毒を実施することでウイルス性疾病の拡大が抑えられ、害虫も減少し、牛と人のストレス低減につながっている。

【繁殖管理の省力化】

繁殖管理を担っていた母のリタイアを契機に発情発見装置（ファームノートカラー）を導入し、獣医師のプログラム授精を併用することで繁殖管理の省力化が図られている。

【牛群改良について】

3年前からはゲノム検査を開始し、高能力牛には雌選別精液、低能力牛には和牛受精卵を用いることで、改良と販売の両立を図ってきた。

こうした取り組みの結果、酪農雑誌が開催する第43回オールニッポン・ホルスタインコンテストにおいて、2歳経産ジュニアクラスで準オールニッポンを受賞するなど、改良の成果が表れている。

【粗飼料生産について】

飼料収穫は家族全員で協力して行い、大型機械の導入により広い面積でも短期間で適期収穫が可能となっている。全圃場で年3回の刈り取りとロールラップサイレージの調製に



（写真5）清潔な搾乳処理室



（写真6）ミルキングシステム診断結果（適合シール）

より、自家給与分に加えて販売分も確保することで、飼料コストの削減と、圃場ごとの飼料分析や草地の更新・追播、堆肥の還元により、収量向上と肥料費削減を実現している。



(写真7) 収穫後のロール

【耕畜連携について】

敷料や堆肥の水分調整材として必要な稲わら・もみ殻は、近隣の稲作農家から堆肥と交換で確保している。10ha分は稲作農家の水田へ堆肥散布を行い、稲わらを収集し、さらに水田100ha分のもみ殻を譲り受け、年間通して使用する量を十分確保できている。



(写真8) 稲作農家の稲わら収穫作業

地域に対する貢献

貴良氏は、これまで新しいわて農業協同組合八幡平酪農生産部会副会長をはじめとする役職を勤め、関係機関と酪農家の橋渡し役や酪農振興の旗振り役として活動してきた。

近年は子供たちとともに共進会等に参加し、地域コミュニティの構築に取り組んでいる。

優良経営の酪農家として、県内外から視察研修を積極的に受け入れ、農場経営のノウハウについて隠さず紹介するとともに、視察訪問者との情報交換により自らの経営発展につなげている。

また、地元中学校の職場体験を受け入れるなど、酪農に対する理解醸成に努めている。



(写真9) 研修の受け入れ

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

【妻の経営参画】

妻の麻奈美氏も飼養管理の改善について提案するなど経営に積極的に関わっている。

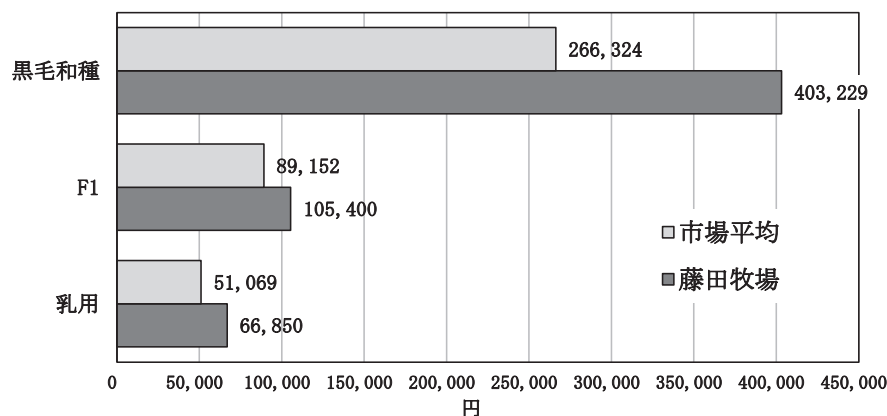
販売向け子牛の哺育を担当している麻奈美氏は、他の農家との情報交換などにより、自ら哺育方法を工夫し、増体を向上させ、岩手県の市場平均価格より高値で販売している。

【SNSによる情報発信】

麻奈美氏はSNSを活用し、子供たちが牛と関わる様子や牛舎内外の作業風景などの日常を配信することで、酪農の楽しさややりがいを伝えとともに、牧場の認知度向上にも寄与している。

【働きやすい職場づくり】

平成19年3月に家族協定を締結し、家族の役割や報酬を明確にして、働きやすさに重点を置いた経営を確立している。さらにより優



(図1) スレ子・スモール子牛価格の比較 (令和6年)



(写真10) 藤田牧場Instagram

れた労働環境の構築のために、今後法人化も視野に入れている。

酪農ヘルパーは、不在時に起こるトラブルに対応するため、夫婦別々に月3～4回定期的に利用し、旅行や子供の県内外のスキー大会へ必ず同行するなど、必要な休息や家族との時間を大切にしながら、ゆとりある経営を実践している。

将来の方向性

【次世代への継承】

長男は現在帯広畜産大学に入学し酪農の知識を習得中であり、長女は盛岡農業高校の3年生として在学中で、10月に北海道で開催された、第16回全日本ホルスタイン共進会の全国高校生リードマンコンテストに本県代表として参加し、卒業後は酪農経営を手伝う意向である。



(写真11) 県共進会への出品

北海道で勉強中の長男は、牛群改良や共進会に興味があり、他地域の若手酪農家ともSNS等を通じて情報交換している。

昨年、県の共進会で活躍した藤田牧場の牛が前述のコンテストで受賞した出来事が、共進会に出場した長男にとって大きな励みとなった。

貴良氏は、子供の就農後に提案があれば積極的に意見交換し、飼養管理の改善や新たな取り組みを柔軟に取り入れようとしている。

【今後の経営計画】

現状の頭数を上限とし、人にも牛にも負担をかけない規模での酪農経営を継続し、良質乳の安定出荷を目指している。近隣農家の牧草地管理を請け負うことで収入を得るとともに、農地の荒廃防止にも寄与したい。過剰な投資を避け、後継者が就農しやすい環境づくりを進めながら、法人化など経営上の利点について税理士と相談し、検討していくこととしている。

大手との価格競争の中、生き残りをかけて 6次産業化に挑戦した採卵鶏経営

株式会社半澤鶏卵（採卵鶏経営・山形県天童市）

地域の概況

（株）半澤鶏卵が所在する天童市は、山形県のほぼ中央に位置している。山に囲まれた盆地特有の気候であるため、夏と冬、そして1日の昼夜の寒暖差が大きく、冬の降雪量は県内では少ない地域である。

農業は果樹栽培が盛んな地域であり、農業産出額の約78%を占める。畜産は、農業産出額が果樹、米に次ぐ第3位（7.3%）で、畜産戸数は、肉用牛10戸、乳用牛9戸、豚2戸、鶏1戸となっている。

経営・活動の推移

【経営の推移】

現会長の父が昭和35年に創業し、約500羽の採卵養鶏と卵の販売を開始したが、昭和45

年に養鶏業を廃業し卸し専門に特化した。平成4年に有限会社半澤鶏卵を設立し法人化した。

父から経営移譲を受けた前年の平成16年に鶏卵生産調整が撤廃され、大手の県外採卵鶏業者が安値で山形県に参入し価格破壊が起き、県内の採卵鶏業界は大混乱に巻き込まれた。

これまで同様に、鶏卵の消費県というメリットを活かした卸業だけでは会社経営が成り立たず、付加価値の高い鶏卵生産を行い、流通・販売することが必要と考えた。

また、県内の養鶏会社より廃業による農場譲渡の相談があり、そこで働く従業員を引き受けることで、生産体制は早期に整えることができると考え、採卵鶏経営を再開することで生き残りを賭けようと決断した。



（写真1）社員との集合写真、前列右から5人目が半澤社長

【採卵鶏経営の再開】

～大手に対抗するため、付加価値の高い鶏卵生産に活路を～

大手との価格競争に対抗するため、付加価値の高い鶏卵を生産することが重要と考え、平成19年に東根市の羽入農場を取得し、採卵鶏飼育規模約2万羽で再スタートした。地域の名前と携わる全ての人と、ここで生産した卵を食べた消費者がしあわせになるようにと願いを込めて、「出羽の郷しあわせファーム」と名付けた。

その後、平成30年に河北農場を引き受け、令和元年に村山農場、東根大森農場を開設し、現在の生産基盤を確立した。

経営・技術の特色等

【卵の高付加価値化の取り組み】

～純国産鶏種への転換～

大手採卵鶏業者は、生産性が高い外国産鶏種を飼養し、低コスト・大量生産を行っている。当社では自社生産卵のブランド価値を高めるため、純国産鶏種の「さくら」と「もみ

（表1）経営活動の推移

年次	作目構成	飼養羽数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和35年	採卵鶏	採卵鶏500羽		・父（現会長）が半澤鶏卵を創業し、採卵鶏経営と卵の卸販売を開始
昭和45年				・養鶏業を廃業し、卸販売に事業転換
昭和56年				・現社長が大学卒業後、半澤鶏卵に就職
平成4年				・法人化し、有限会社半澤鶏卵を設立
平成17年				・会社の経営を父（現会長）から引継ぎ代表取締役役に就任
平成18年				・鶏卵の6次産業（加工）の開始 ・スモッチ（半熟燻製）の製造・販売
平成19年	採卵鶏	採卵鶏20,000羽		・出羽の郷しあわせファーム（東根羽入農場）で採卵鶏経営の再スタート決定
平成28年	採卵鶏	採卵鶏19,856羽	飼料用米7.0ha	・有限会社から株式会社に移行 ・耕畜連携により飼料用米の利用を開始 ・後継者が大学を卒業後、関連業種の経験のため鶏卵メーカーに就職
平成30年	採卵鶏	採卵鶏26,968羽	飼料用米3.7ha	・河北農場、いではCOCCO、スモッチファクトリー開設 ・河北農場及びいではCOCCOに卵の自動販売機を設置
令和元年	採卵鶏	採卵鶏34,610羽	飼料用米5.4ha	・香港での商談会に参加し、輸出の取り組みを開始 ・村山手づくり平飼い農場・東根大森育成農場開設 ・自社農場の採卵鶏構成が純国産鶏種100%となる
令和2年	採卵鶏	採卵鶏34,637羽	飼料用米14.0ha	・経済産業省から地域未来牽引企業に選定される
令和3年	採卵鶏	採卵鶏37,854羽	飼料用米13.5ha	・食品産業優良企業等表彰の食品産業部門で農林水産大臣賞受賞 ・東根農場及び河北農場で農場HACCP認証を取得 ・香港へ本格的に輸出開始 ・後継者が事業継承と経営者のスキルを身につけるため、会社（株）RISEを設立し、代表取締役役に就任
令和4年	採卵鶏	採卵鶏39,361羽	飼料用米15.9ha	・後継者が、日本卵業協会が認定するタマリエ（たまごのソムリエ）検定で最高峰となる「五ツ星タマリエ」の資格を史上最年少で取得
令和5年	採卵鶏	採卵鶏43,014羽	飼料用米18.1ha	・高橋テラスオープン ・スモッチファクトリーが食品安全管理規格JSF-Bを取得
令和6年	採卵鶏	採卵鶏43,086羽	飼料用米18.1ha	・後継者が第4回アトツギ甲子園で優秀賞を受賞
令和7年	採卵鶏	採卵鶏45,000羽		・後継者が鶏卵メーカーの「会社員」×RISEの「経営者」×半澤鶏卵の「事業継承」の3足の草鞋を経験し、年内に半澤鶏卵に就職予定



(写真2) 村山農場の平飼いの様子

じ」の2品種に注目し、外国産鶏種から徐々に切り替え、令和元年に純国産鶏種100%となった。

～飼養環境のこだわり～

自社4農場において、それぞれの立地や施設の特徴を生かして、鶏卵の生産を行っている。鶏にストレスを与えないように配慮することで、新鮮で美味しい卵を生産している。

河北農場では、県内唯一の「エンリッチャブルケージシステム」(アニマルウェルフェアに配慮した飼育)を導入した。さらに「パドクーリングシステム」を導入したことで、ケージ内の温度が上昇する夏場も鶏舎内を一定温度に保ち、快適な環境で卵を生産している。

また、村山農場では、鶏が自由に動き回れる平飼いで飼育し、1坪(3.3m²)当たり10羽という広いスペースでアニマルウェルフェアに配慮した飼養環境となっている。

～飼料のこだわり～

「さくらたまご」については、遺伝子組換え作物の混入を排除した原料を使用し、さらに「平飼い卵 高揃」は抗酸化作用の高いアスタキサンチンや、卵に味とコクを与える成分を加え、黄身の色が濃いのが特徴のブランド卵として商品化している。

また、トウモロコシの代替として、県内産の飼料用米を給与したものは、黄身が白いの



(写真3) こだわりの原料を使った飼料

が特徴で、「いではのさくら白(別名:お米卵)」として食味および栄養価を高めた付加価値の高いブランド卵として販売を拡大している。

【生産性の高い経営】

鶏種、飼養環境、飼料にこだわって生産しているが、生産技術についてもより高いレベルを目指して、日々の飼養管理にあたっている。

令和6年度の実績は、採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量1,858kg、飼料要求率2.08と高い成績であった。また鶏舎1m²当たり採卵鶏飼養羽数が9.1羽と非常に少なく、ゆったりとした飼養環境において、高い生産性を実現している。

～幼雛導入から大雛導入への転換～

令和3年までは、自社で幼雛育成をしていたが、120日齢の大雛導入に変更したことで、育成鶏の事故率改善が図られた。さらに導入から産卵開始までの期間が短縮したことで、生産性も改善された。

【耕畜連携による飼料用米利用拡大】

平成29年に村山地域採卵鶏生産強化クラスター協議会を設置し、地域の稲作農家や農協、民間業者と連携し飼料用米の利用拡大を促進した。河北農場では地元の稲作農家2件と農協、民間業者が飼料用米の流通契約を締結し、令和2年度には目標値の6haを達成した。東

(表2) 経営実績 (令和6年度)

経営概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族・構成員	0.6人
		雇用・従業員	13.3人
	採卵鶏平均飼養羽数		43,086羽
	年間鶏卵生産量		800,378kg
	年間鶏卵出荷量		800,378kg
収益性	所得率		12.2%
	採卵鶏100羽当たり売上原価		536,831円
生産性	採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量		1,858kg
	採卵鶏100羽1日当たり産卵量		5.1kg
	鶏卵1kg当たり平均販売価格		
	GP		243.8円
	産直		421.6円
	直販割合		100.0%
	採卵鶏100羽1日当たり飼料消費量		10.6kg
	飼料要求率	農場	—
		採卵鶏	2.08
	育成率(初生雛)		—%
	育成率(中大雛)		—%
	採卵鶏淘汰率		—%
	採卵鶏へい死率		19.50%
	採卵鶏補充率		—%
	鶏舎1m ² 当たり年間鶏卵生産量		170kg
	鶏舎1m ² 当たり採卵鶏飼養羽数		9.1羽

根農場についても民間業者の仲介のもと農家と契約した。その結果、令和6年度は2農場合計で18.1haの飼料用米の契約を締結した。

【安全安心への取り組み】

鶏卵の生産から加工販売までを行う企業として、安全性の確保と消費者からの信頼を得られるように努めている。農場部門においては、令和3年に東根羽入農場と河北農場の2農場で農場HACCPを取得した。他の2農場においても、農場HACCPに準じた管理を行っている。

加工部門においては、令和5年にスモッチファクトリーがHACCPに準ずる食品安全管理規格JFS-B認証を取得した。

【新鮮で美味しい鶏卵の販売体制の確立】

鶏卵の美味しさは、新鮮な流通が第一と考え、自社にGPセンターを2カ所に設置し、生産した鶏卵は全自動で洗卵・選別され、その日のうちに自社直売所での販売や加工原料に振り向けられている。

(表3) 飼料用米の作付け面積の推移

(単位: ha)

区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
河北農場	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	6.0	6.4	6.4	6.4
東根農場	7.0	5.0	3.7	5.4	7.6	7.5	9.5	11.7	11.7
合計	7.0	5.0	3.7	5.4	14.0	13.5	15.9	18.1	18.1



(写真4) 自社GPセンターによる迅速な流通



(写真5) 新鮮な卵を購入できる自動販売機

また、消費者が新鮮な卵をいつでも購入できるように、卵の自動販売機を設置した。

このように生産から流通まで一貫しており、新鮮な卵を消費者へ届けることができるのが経営の強みである。

【6次産業化への挑戦】

～半熟燻製卵「スモッチ」の誕生～

卵の付加価値を追求する中で、卵の加工に取り組み、半熟燻製卵「スモッチ」を開発した。国際特許の燻製機を使い、じっくり燻製、熟成させることで、黄身の中まで風味がある商品に仕上がった。

全国放送のテレビ番組で取り上げられるなど、評判となり当社の看板商品に成長した。

その後も地域の企業と協力しながら、さまざまな商品開発を進め、卵かけしょう油やチキンジャーキーなど特徴のある商品が誕生している。



(写真6) 半熟燻製卵「スモッチ」

～加工品の製造・直営販売店の整備～

自社のこだわりの卵を販売する拠点として、平成30年に「いではCOCCO」をオープンした。鮮度の高い卵を販売しているほかに、カフェでは自社卵を使った料理やスイーツを提供している。また併設された加工施設では、ガラス越しにスモッチの製造の様子を見学することができる。



(写真7) 直営販売店「いではCOCCO」

令和5年には、地元の天童市に地域の活性化を図るため2店舗目の「高掬テラス」をオープンした。高掬テラスでは平飼い卵のPR・販売を行っているほかに、アニマルウェルフェアの取り組みについて消費者へ普及啓発している。

6次産業化を進める中で、大きな投資判断も必要であったが、自社ブランドを高め、付加価値の高い卵や加工品を販売し、消費者に直接アピールできる場を持てたことは当社にとって大きな財産となった。

【海外輸出の取り組み】

令和3年から海外輸出を本格的に開始した。日本食ブームを追い風に、香港やハワイ、シンガポールへスモッチを輸出しているが、特にシンガポールは高度な衛生管理が必要であり、当社は鶏卵加工品を輸出できる数少ない企業の一つとなっている。



(写真8) 輸出先の販売店にて

地域に対する貢献

【県内養鶏農家の所得向上支援】

県内の養鶏農家は小規模経営が多く、鶏卵生産の多寡が農家経営の不安定さに影響を及ぼしている。当社ではこのような小規模農家を支援するために、鶏卵の需要減少の場合は買い取りを行い、需要増加で鶏卵が不足する場合は他県から購入し、農家へ提供する取り組みを進めており、県内の養鶏農家が健全な経営を営めるよう調整弁の役割を果たしている。

【地域の雇用創出】

従業員75名のうちほとんどが地元採用で、女性の割合が約6割となっている。また、当社養鶏場の増加や自社直売所の整備等もあり、毎年のように職員採用を行っており、過去3年間で29名の従業員を採用している。

【耕畜連携による地域農業への貢献】

前述のように耕畜連携による飼料用米の利用拡大を促進している。

また、農場で発生した鶏糞については、堆肥化して、地域の農家に安価に販売している。

【地域の賑わいの創出】

地域の賑わいを創出したいという思いから、いではCOCCOでは「休日マルシェ」を開催し、多種多様な業態のお店が参加し、地域交流の場を提供している。

また、直営2号店の高櫓テラスでは、県内外から観光客を呼び込み、賑わいの創出を図るため、キッチンカーを呼んだマルシェや、地元の農業者が出店する軽トラ市を開催している。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

当社では男性より女性の割合が高く、働き

やすい職場づくりのため、年代や生活スタイル、家庭の事情に応じて勤務時間を決めている。

また、実績のある女性は、役員や特別販売課長、農場の管理責任者として登用し、各部門のリーダーとして活躍してもらっている。

【定年制と再雇用の整備】

平成28年に就業規則を改正し、再雇用しやすい環境づくりに取り組んだ。働く意欲のある従業員の希望を叶えるとともに、技術や経験の継承を通じて会社の発展に貢献してもらっている。

【チャレンジできる社風】

「卵を通して地域社会へ貢献する」という挑戦を歓迎する社風を大切にしている。それが社員のチャレンジしやすさにつながり、数多くのアイデアが生まれ、スイーツなどの商品開発につながっている。

将来の方向性

【持続可能な採卵鶏経営を目指して】

持続可能な採卵鶏経営を目指して、外的要因に左右されない強い経営基盤が必要であると考えている。これまで、自社農場で生産したこだわりのある卵を中心に、加工、販売、海外輸出と展開してきたことで、強固な経営基盤が構築できた。さらに6次産業化を進めてきたことで、消費者との接点を拡大することができ、市場価格に左右されない自社ブランドの確立ができたと考えている。

経営の理念として掲げている『卵で人と社会を幸せにする』を実現していくために、これからも新しいことにチャレンジし続け、時代に左右されない独自性のある経営スタイルを確立させていきたい。

アニマルウェルフェアへの取り組みと共に 安全・安心を追求した甲州牛生産の匠

ー八ヶ岳の大地で牛と歩む未来へー

原 廣一・奈美（肉用牛一貫経営・山梨県北杜市）

地域の概況

原氏の農場がある北杜市は県北西部に位置し、八ヶ岳や南アルプスの豊かな自然に囲まれた地域である。標高が高く、清涼な気候と長い日照時間を生かした農業が盛んで、特に



（写真1）家族写真

水稻栽培が中心となっている。

畜産業では、乳用牛と肉用牛の飼育および鶏卵やブロイラーの生産も行われ、農業産出額に占める畜産の割合は約16.1%となっている。畜産は耕種農業と密接に連携し、粗飼料の生産や堆肥の活用を通じて循環型農業の一翼を担っている。

経営・活動の推移

【夫妻そろって「和牛肥育の匠」】

和牛肥育に40年間取り組んできた先代が令和元年に急逝し、廣一氏が経営を引き継いで今年で7年目を迎える。廣一氏は山梨県立農業大学校（現山梨県立農林大学校）で畜産を4年間学び、山梨県酪農試験場（現山梨県畜産酪農技術センター長坂支所）に4年間勤務。その後（公財）山梨県子牛育成協会に20年間勤めた。

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和53年	肉用牛一貫 稲作（214a）	繁殖牛5頭 肥育牛15頭	116.9a	廣一氏のご両親が32歳で就農 廣一氏の父は農協勤務との兼業
平成27年	肉用牛一貫 稲作（214a）	繁殖牛25頭 肥育牛50頭	467.6a	結婚と同時に奈美氏が経営に参画
平成29年	肉用牛一貫 稲作（214a）	繁殖牛25頭 肥育牛50頭	467.6a	畜産クラスター事業で繁殖牛舎を増設
令和元年	肉用牛一貫 稲作（214a）	繁殖牛30頭 肥育牛50頭	467.6a	廣一氏が経営を継承
令和7年	肉用牛一貫 稲作（214a）	繁殖牛42頭 肥育牛98頭	467.6a	自己資金の中で規模拡大

また、妻の奈美氏も鯉渕学園農業栄養専門学校で畜産を学んだ後、同協会に7年間勤務。夫妻ともに家畜人工授精師および受精卵移植師の資格を有しており、飼養管理技術に優れている。大型特殊免許を取得しており、高度な飼養管理技術と給餌および自給飼料生産作業において高い効率性が実現している。

【飼養管理の見直しと作業効率の向上】

令和4年から稲WCSを育成段階に給餌することが増体に効果があるという研究結果を参考に育成牛にも稲WCSを給餌し、良好な体格づくりを目指している。



(写真2) 首に装着したウェアラブルデバイス

また夫妻で(株)ファームノートの「Farmnote Color」を活用し、労働時間の省力化と繁殖台帳の共有による成績の向上を図っている。さらに繁殖管理にだけでなく、育成・肥育の出荷・治療に関する記録データの蓄積・活用にも取り組み、総合的な生産性向上を実現している。

また、自給飼料をコーンサイレージから牧草に転換することで作業効率を高め、飼養管理に集中できる環境を整えている。

経営・技術の特色等

【県内産にこだわる「甲州牛」生産】

出荷牛のうち98%以上が「甲州牛」認定という好成績を誇り、枝肉共進会では優秀賞等を多数受賞、令和5年には最優秀賞を受賞した県内トップクラスの生産者として高く評価されている。安全・安心への取り組みとして、自給牧草と稲わらを給餌し、粗飼料の自給率は80%に達している。また地域の粗飼料活用にこだわり、地元の稲WCSを積極的に活用している。安全性が担保された粗飼料を給餌しており、県内産にこだわってこそ「真の甲州牛」という信念を持っている。



(写真3) 金賞受賞



(写真4) 牧草地と牛舎から富士山を望む

【自給飼料の取り組み】

圃場が7ヵ所あり、すべて車で5分以内の距離に位置している。多年草は5月～10月にかけて4番草まで収穫し、単年草のライ麦は収穫量が落ちるため3番草以降の刈り取りはしない。草地の管理ではギシギシ防除や15cmの高刈りで再生促進、秋の強度更新など草地の安定的維持に向けた工夫を凝らしている。

【高度な人工授精技術】

令和2年に家畜人工授精所を開設しており、県内では唯一生産者による開設事例として、地域の畜産の中核を担っている。地域の酪農家のホルスタインを借り腹とした和牛の受精卵移植を実施し、生後70日で買い戻す仕組みを導入している。毎年数頭を買い戻し、令和6年は2頭を繁殖牛として飼養している。出荷した牛はすべて甲州牛の認定を受けた。酪農家は子牛販売で安定的な収入を得ることができ、本経営では分娩・子牛育成管理に係るリスクの削減や市場等に頼らない望ましい産子の確保が可能となっている。

廣一氏は協会勤務時代から血統の研究に取り組み、現在の繁殖牛の基礎を構築した。現在は時代のニーズに合わせた血統を選別し、人工授精を自身で行うことにより自家産の肉質向上を図っている。受精卵移植にも取り組み（全体の約30%）、新たな血統の繁殖牛を残すため日々研究を重ねている。

また「Farmnote Color」からの通知を元に、獣医師等に依頼することなく迅速に人工授精を行うことで空胎期間および分娩間隔の短縮を実現している。令和6年の受精卵の販売収入は全体の約13%（約700万円）に達し、安定的な収入源となっている。

【「健全経営」の取り組み】

先代の急逝後、コロナ禍による枝肉価格の急落から経費削減の課題に直面したが、一貫

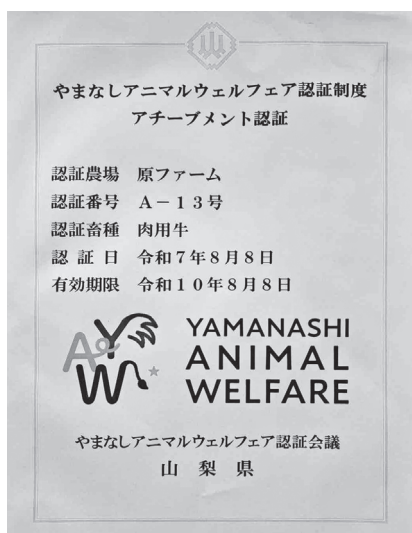
（表2）経営実績（令和6年）

経営の概要	労働力員数 （畜産・2000hr換算）		家族・構成員	2.5人
			雇用・従業員	0.7人
	成雌牛平均飼養頭数			39.5頭
	飼料生産		実面積	468a
	年間子牛分娩頭数			30頭
	肥育牛 平均 飼養頭数	肉用種		101.5頭
		交雑種		0.0頭
		乳用種		0.0頭
	年 間 肥育牛 販売頭数	肉用種		41頭
		交雑種		0頭
		乳用種		0頭
収益性	所得率			23.0%
	出荷肥育牛1頭当たり生産費用			1,634,862円
生産性	繁殖	成雌牛1頭当たり年間子牛分娩頭数		0.76頭
		成雌牛1頭当たり年間子牛販売頭数		0.00頭
		平均分娩間隔		12.7ヵ月
	肥育（品種・肥育タイプ） （黒毛和種去勢若齢）	肥育開始時	日齢（月齢）	360日
			体重	（―）kg
		肥育牛 1頭当たり	出荷時	840日
			出荷時生体重	710kg
		平均肥育日数		480日
		販売肥育牛1頭1日当たり増体重（DG）		（―）kg
		対常時頭数事故率		3.9%
		販売肉牛1頭当たり販売価格		1,003,962円
		販売肉牛生体1kg当たり販売価格		2,246円
		肉質等級4以上格付率※		98.0%
		もと牛1頭当たり導入価格		（―）円
		もと牛生体1kg当たり導入価格		（―）円

経営の強みを生かして自家産牛の増頭に取り組み、外部導入費用の削減を実施した。もと畜費の軽減により経費削減を達成し、借入金に頼ることなく健全経営を維持している。また奈美氏は農業簿記を活用し、毎年の経営状況を把握。課題の改善に努めながら経営の安定化に貢献している。

【肉質の高品質化とアニマルウェルフェア】

新たな取り組みとして令和7年8月に「やまなしアニマルウェルフェア認証制度」を取得。山梨県は令和3年に全国自治体の中では



(写真5) やまなしアニマルウェルフェア認証制度

初のAW認証制度を設立し、現在本経営を含めて12農場が認証されている。認証はエフォート（取組（計画））認証とアチーブメント（実績（成果））認証の2段階認証で知識、取り組み宣言および現地調査でエフォートおよびアチーブメント基準を満たした農場が認証される。牛にストレスを与えないよう飼養管理および環境に配慮しており、暑熱対策や飼養環境向上のため肥育牛舎に設置されていた扇風機を令和4年から5年にかけて育成および繁殖牛舎に増設した。また、子牛には痛みを伴わない離乳用鼻かんをつけている。通常、離乳は親牛と子牛を物理的に離すことで行うが、この鼻かんを付けることでお乳を飲もうとすると口がガードされ飲めなくなり、代わ



(写真6) 廣一氏と牛

りに飼料を食べるようになる。スムーズに離乳ができるため子牛のストレスが軽減される。離乳部屋のスペースがない時にも離乳できる利点もある。

日々の観察と愛情を込めた飼養管理および飼養環境向上により牛へのストレス軽減を実現している。

地域に対する貢献

【地域農業の発展支援】

山梨県肥育牛研究会（YHK）に所属。会員の14名はすべて甲州牛を生産している肥育および一貫経営者である。令和6年度は、南信州の味覚センサー施設の見学や、全農くみあい飼料が所有する農場の視察に参加。廣一氏はこれらの機会を通じて積極的に交流を図り、知識や技術の共有を通じて地域全体の飼養技術および出荷成績の向上に貢献している。

また、堆肥は地域のニーズに応じて製造され、水稻栽培への活用や地元耕種農家と稲わらとの交換を通じて100%利用されている。稲わらの回収場所は大小合わせて73ヵ所に及



(写真7) もみ殻牛床

び、重労働ではあるが地元産資材の利用に加え、北杜市の方針である地域資源循環の観点からも重要な取り組みと捉えている。さらに、水稻栽培で生じるもみ殻については、耕種農家から提供を受け、牛床資材として活用。焼却するしかなかったもみ殻を有効活用することで、地域資源循環の推進に寄与している。

【地域雇用の創出】

地元のハローワークに求人掲載を実施し、雇用（1名）につながった。令和5年には地元の獣医師志望高校生の実習を受け入れ、進学支援にも貢献。今年度は中学生の見学も受け入れ、地元学生のインターンも継続的に実施している。

【食育活動による次世代支援】

地元小学校の2年生の社会科見学を受け入れ、牛舎見学、給餌体験、稲わらロールクイズ、牛の一生を描いた手作り紙芝居などの食育講座を実施している。紙芝居では「牛の命をいただくことに感謝し『いただきます』、『ごちそうさま』というありがとうの気持ちをもってほしい」と語り、子どもたちは真剣な表情で耳を傾けていた。見学後には子ども

たちから「牛がかわいかった」、「餌やり体験が楽しかった」、「牛に触れてうれしかった」などの素直な感想文が毎年届けられ、楽しみのひとつになっている。

農場は地元保育園児のお散歩コースになっており、園児に積極的に話しかけ、日々の交流を通じて畜産の魅力を伝えている。

女性活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

奈美氏は子育てと仕事を両立しながら、県内の全畜種を対象とした「やまなし畜産女性の会」と肉用牛の女性の会「やまなしCOWOMAN」の主要メンバーとして活躍。やまなしCOWOMANは奈美さんが命名した会で、会員からはとても好評を得ている。令和5年から全国畜産縦断いきいきネットワークに加入。1年目は息子の広武君とともにいきいきネットワーク会員の「お友達」として参加。令和6年の2年目は会員として参加し、2分間スピーチでは牛に対する熱い思いを語った。令和6年には担い手育成事業として山形で開催された現地見学会にも参加。県外の生産者とも積極的に交流を深めている。



（写真8）社会科見学



（写真9）奈美氏作業



(写真10) やまなし畜産女性の会研修

また、家族で全国和牛能力共進会の見学にも出かけ、情報収集も積極的に行っている。奈美氏は県内外の研修に意欲的に参加し、幅広い知見を得る行動力がある魅力的な女性である。

さらに奈美氏を支える廣一氏と理解ある廣一氏の母も頼もしく温かみのある存在である。廣一氏の母が担う給餌作業は、体を動かすことで健康維持にもつながっており、牛とのふれあいは日々の喜びとなり、牛に関する話題は家族の食卓でも自然と共有され、一家団らの時間をより豊かなものにしている。家族が週末に休暇を取得できるようパートを雇用し、仕事・子育て・県内外研修の時間を確保することでワークライフバランスが整った働きやすい環境を実現している。

将来の方向性

【持続可能な畜産業を目指して】

日々の飼養管理に真摯に取り組み、特に子牛の健康維持を目的として、適切なワクチン接種を含む徹底した管理を行っていきたいと考えている。加えて、持続可能な畜産経営の実現に向けて、自家産牛の増頭を進めること

で経営基盤の安定化を目指している。

また、地球温暖化など気候変動が懸念される中、今後も安定した牧草生産が可能となるよう牧草管理にも一層力を入れていく。

【畜産の魅力を次世代へ伝えたい】

廣一氏（53歳）と奈美氏（38歳）は県内では若手の畜産経営者として注目されている。次世代への継承を見据え、廣一氏は「甲州牛」の知名度向上を目指し、多くの人にその魅力を知ってもらいたいと考えている。YHK等県内の研究会に参加し、関係者と交流を深めながら情報交換と技術研鑽に励んでいる。奈美氏は県内外の生産者と交流しつつ、学生のインターン受け入れを継続的に実施しており、中学生・高校生等次世代の子どもたちに畜産の魅力を伝えていくことを大きな目標としている。さらに山梨県内では牛グッズを身に着ける等「牛好き」で知られており、SNSの活用や大好きな牛グッズの収集にも力を入れ、全国の牛好きとつながる夢を描いている。



(写真11) 牛と微笑むふたり

先進技術とこだわりの技で 牛、人、町の幸せがギュッと詰まった酪農経営

—父の夢を兄妹で実現 さらに飛躍する酪農を目指して—

株式会社ミルクファームすぎやま（酪農経営・京都府京丹波町）

地域の概況

京丹波町は京都府中部にあたる由良川水系上流部に位置し、東西約20km、南北約28kmの広がりを持ち総面積は303km²（京都府の6.6%）で丹波高原にあり、長老ヶ岳（917m）のほか標高400～900mの緑深き山々に囲まれ、南側の山地は分水嶺の一部を成している。

気象条件は、年平均気温13.5℃、年間降水量1579mmと比較的冷涼で近年はやや降水量が多いが、降雪量は少ない。

産業では、明治9年に全国的に最も早く京都府農牧学校が創設されるなど農林業に力が注がれ、今日では丹波高原の気候、風土を生かした質の高い農林産物の生産地、府内有数の畜産・酪農地帯として、農業産出額（含む畜産）は746千万円で京都府の9.8%と府内3位の位置にある。さらに畜産は府内有数の産



（写真1）集合写真

地で生産額545千万円と京都府の32.1%と府内1位である。

経営・活動の推移

戦後開拓として現経営主である裕亮^{ゆうすけ}氏の祖父が入植し昭和33年ごろに乳牛を導入したのが酪農の始まりで、近隣の牧場10数戸と酪農団地を形成。裕亮氏の父が高校卒業後、酪農の本場北海道で研修し最新の酪農の知識と技術を学び、帰郷。昭和50年に搾乳牛50頭規模のつなぎ牛舎を新設し、牧場の基礎を築いた。

父は、常々「酪農を後継者が育つ憧れの職業にする」という夢を持ち、平成4年には搾乳牛100頭のフリーストール牛舎を新築し、着実に規模拡大を進めた。

さらに平成17年には京都府内で初めてロボット搾乳牛舎を新築し、労働負担が大きい搾乳作業をロボット搾乳に切り替えることにより、高齢者でも従事できる近代的な酪農スタイルを導入し、飼養頭数150頭に規模拡大したが、父の大病が発覚した。

当時、裕亮氏は24歳で、酪農とは縁のない会社員であったが、平成18年に急遽帰郷し酪農に従事した。当時は、酪農の知識・技術は全くなく、父のそばで基礎から酪農技術や経営のノウハウをすべて継承することとなった。

平成17年には農事組合法人丹波ユーキが設

(表 1) 経営の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和48年	畜産業開始			現代表（裕亮氏）の祖父が昭和25年頃当地に入植 この年、現代表の父が搾乳牛6頭から酪農をスタート
昭和50年	酪農	50頭	6 ha	50頭のつなぎ式牛舎新築 現在、飼料庫として活用中
平成4年	酪農	100頭	6 ha	100頭フリーストール牛舎新築 現在、フリーバーン方式に変更
平成15年	酪農	100頭	6 ha	攪拌発酵たい肥化処理施設設置 (事業主体：丹波町)
平成17年	酪農	150頭	6 ha	ロボット牛舎新築
平成18年	酪農	150頭	6 ha	現代表が24歳で就農 丹波町内の畜産農家で（農）丹波ユーキ設立
平成23年	酪農	150頭	15ha	（農）丹波ユーキが町内で稲WCSの取り組み開始
平成25年	酪農	150頭	15ha	妹が帰郷しチーズ工房を計画
平成26年	酪農	150頭	15ha	㈱ミルクファームすぎやま発足 チーズ販売開始
平成30年	酪農	150頭	15ha	父の他界により、現経営者が経営を継承

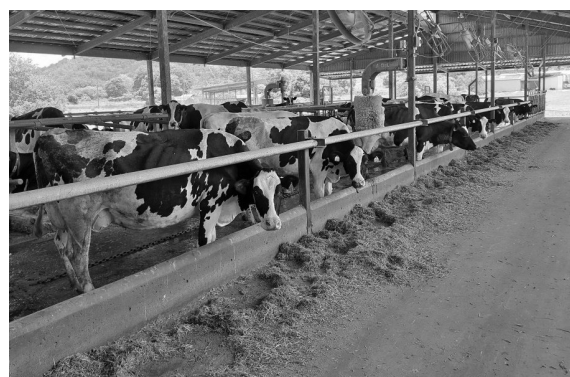
立されその構成員として、ふん尿を発酵処理し有機堆肥生産を行う傍ら、町内の耕種農家と連携し、ほ場への還元利用、稲WCS生産により飼料費の低コスト化と資源循環型農業を実現。平成25年には妹の^{まき}牧氏が、牧場に隣接してチーズ工房を新設し、乳製品の加工をスタートさせた。

平成26年には、株式会社ミルクファームすぎやまを設立。同30年、父の他界により、裕亮氏が2代目代表に就任し、父の「酪農を後継者が育つ憧れの職業にする」との言葉とおり、従来方式のミルカーを装着するパーラー搾乳60頭と、ロボットが赤外線カメラとロボットアームを使って搾乳するロボット搾乳50



(写真2) 牧場遠景

頭を軸に、地元農業協同組合等の技術者の助言、支援を受けながら、牛にも人にもやさしい飼養管理を実現している。



(写真3) 搾乳牛舎内部



(写真4) 清潔なミルクパーラー

経営・技術の特色等

【搾乳ロボット】

現在の搾乳ロボットは3代目で、トラブルも非常に少なく順調に稼働している。

また、ロボット搾乳では機械により常時1

(表2) 経営実績 (令和6年度)

経営概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族・構成員	3.2人
		雇用・従業員	2.4人
	経産牛平均飼養頭数		125.0頭
	飼料生産	実面積	1,500a
	年間総販売乳量		1,422,399kg
	年間子牛販売頭数		89頭
	年間育成牛販売頭数		0頭
	年間経産牛販売頭数		13頭
収益性	所得率		10.6%
	経産牛1頭当たり生産費用		1,627,838円
生産性	牛乳生産	経産牛1頭当たり年間産乳量	11,379kg
		平均分娩間隔	15.0ヵ月
		受胎に要した種付回数	3.3回
		平均産次数(期首)	2.4産
		平均産次数(期末)	2.5産
		牛乳1kg当たり平均価格	141.8円
		牛乳1kg当たり生産費用	143.0円
		乳脂率	3.90%
		乳蛋白質率	3.46%
		無脂乳固形分率	8.93%
		体細胞数	18.0万個/ml
		借入地依存率	0.0%
		飼料TDN自給率	27.0%
		乳飼比(育成・その他含む)	56.9



(写真5) 搾乳ロボット

分房ごとの乳量や電気伝導率が測定され、毎日の乳量等のデータが数年分蓄積されいつでも欲しいデータを個体ごとや全体で把握することが可能である。また、手元のスマホから当日のデータを入手することで、出張先からでも、従業員へ個体ごとのチェック作業等、その時々合った指示ができるなど早期に適正な乳質管理や牛群管理ができる。

搾乳作業は搾乳ロボットにより機械化されており、牛はストレスがなく健康な牛を搾乳しているため、年間平均で体細胞数20万以下を維持している。

さらに、万歩計機能を活用し、1日の歩数管理を行っている。特に、夜間の発情兆候を確認することに活用しており、適期授精に努めている。

【健康な牛づくり】

牛舎での飼養頭数は、可能頭数の65%程度とし、ゆったりとした飼養環境に努めるとともに、「牛を大切に」をモットーに水槽の掃除や牛舎掃除など基本的な作業を徹底し、乳房炎や各疾病のワクチン接種、吸血昆虫対策、飼料中への生菌剤、敷料への5%消石灰散布などの疾病対策に精力的に取り組んでいる。



(写真6) 頸部に万歩計装着

【コスト低減の取り組み】

乾草などはコンテナ買いなどで低価格で購入し、耕畜連携による稲WCS活用、未利用資源のビール粕、しょうゆ粕、酒粕やオリジ

ナル濃厚飼料により飼料成分を一定に保ち、牛の体調管理に努めている。牛の調子が悪くなれば、飼料成分測定と技術者に相談を行い、常に最適な飼料給与体系を維持している。

さらに、牛舎の屋根に太陽光発電装置を設置し、輻射熱を少しでも低減させ、電力会社に売電している。

【日本の食卓に合うチーズ】

チーズ製造に当たっては、すべてをロボット搾乳の生乳を使用し、搾乳から加工までの時間の短かさや牛乳の風味を損なわないような取り扱いに注意し、日本の食卓に合う京丹波ならではのチーズを日々追求し、多くの日本人好みの風味であるフレッシュで牛乳そのものの風味を強く感じられるようなチーズになるよう工夫と努力をしている。



(写真7) 牧場の製造乳製品

地域に対する貢献

【耕畜連携・資源循環型農業】

農事組合法人丹波ユーキの構成員として、町内での堆肥利用を進めるとともに飼料用稲は、移植（田植え）などの作業は耕種農家が担い、収穫（稲WCS）は地元の農作業受託組合と丹波ユーキが分担するなど連携して取り組んでいる。

また、特産農作物に活用する耕種農家から



(写真8) 共同利用の堆肥化施設



(写真9) WCS共同収穫作業

の有機堆肥の注文に備え、約半年分をストックしておけるスペースを確保しており、年間供給量は2,000t超で、約80haのほ場へ農作物や飼料用稲向けに運搬・散布し、地域の資源循環型農業に貢献している。

【京丹波ブランドへの貢献】

健康な牛の生乳から製造したチーズは、京都縦貫自動車道路のパーキングエリアに隣接した「道の駅 京丹波^{あじむ}味夢の里」で販売され、地元住民、観光客にも好評で牧場の製造乳製



(写真10) 人気の京丹波ブランド

品の半分を売り上げている。

また、京阪神や東京の小売店、有名イタリアン料理店でも扱われほか、地元ネットショップやふるさと納税の返礼品にも取り扱われ、京丹波ブランドに貢献している。

【畜産業における人材育成の一翼を担う】

従業員（2名）には「動物にも人にも思いやりのある優しい気持ちを持ち続ける」ことが大切であると伝えている。このことによって知識や技術以上の力が発揮され、130頭の搾乳牛からは毎日健やかな牛乳が搾れると教えている。

男性スタッフは地元出身者で、酪農は未経験者であったが、40歳代でこの牧場で働き始め、今では酪農の幅広い知識と技術を備えたエキスパートに成長している。

女性スタッフは、京都府畜産人材育成制度で酪農の基礎を学んだ卒業生で、みんなに見守られながら搾乳や飼養管理、人工授精など将来の就農に向けて奮闘している。

【地域リーダーとしての活動】

裕亮氏は京都府の農林水産業人材確保育成戦略会議の委員、京都府立農芸高校の進路トークセッションや京都府知事との対談イベントのゲストとして日頃から発信し、京都の畜産の発展、畜産人材育成の確保等に尽力している。



(写真11) 知事との行き活きトーク

さらに、京都農業協同組合酪農部会青年部長として、酪農家の後継者たちの交流を通じ心構えや悩み相談など後継者育成に取り組むほか、近畿生乳販売農業協同連合会の京都府委員（生産者代表）として安全安心な生乳生産販売に貢献している。

女性活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

【6次産業化（チーズ工房）】

牧氏は、父の「酪農を後継者が育つ憧れの職業にする」夢に応え、高校では食品化学科に進み乳製品加工を学んだ。卒業後、北海道の乳製品加工工房で12年間修業し、技術を習得するとともに、経営管理についても学んだ。生乳は飼料や季節により味や色、風味が変化することや、加工技術者は乳酸菌をコントロールすることで品質のおいしいチーズを作ることができることに魅力を感じて帰郷し、牧場敷地にチーズ工房を併設して、製造から販売まで一貫して手がけている。

現在では、経営の中核の一部門として生きがいを持って取り組んでおり、モッツァレラなどのチーズは、町内の道の駅や京阪神のイタリアン料理店に販売し、ふるさと納税返礼品としても活用され京丹波ブランド製品になっている。



(写真12) 工房での慎重作業

【働きやすい職場づくりの取り組み】

畜産部門の就業は、午前6時30分～10時30分、午後3時～7時を基本として作業分担し、効率よく時間内に作業が終了するようにしている。

夜間分娩などの際もできるだけ所定の労働時間で終わるよう、就業時間の調整などに努め、ワークライフバランスに配慮した職場づくりを実現している。

さらに、女性従業員専用の休憩室を設けるなど、職場環境には配慮している。

将来の方向性

【今後の経営計画】

父が残した「牛を大事にした経営を」を大切にしながら、牛が乳量を伸ばし、健康な飼養管理体系の酪農経営を目指し、雇用や規模の拡大を行える畜産部門と、新商品の開発など6次産業の加工部門の発展を計画している。

また、耕種農家と連携をさらに強化して堆肥の有効利用や稲WCS等の飼料作物の増産を目指す。さらに酪農を通じて、地元産業の活性化に役立てていきたい。

【次世代への継承】

今後は、酪農経営の魅力を畜産を志す高校生や大学生などの若者に語りかけ、体験してもらい、酪農を広く深く知ってもらえるようにしたい。

また従業員を増やし、IT化を導入し作業負担の軽減や酪農教育を通じて、それぞれの専門の部門（搾乳ロボットのIT技術データを分析する牛群管理に特化した技術者など）を中心に活動する専門性のある人材を育成したい。

このことを通じて、京都の畜産の発展に貢献したい。

地域に根ざした家族経営で、安全・安心でおいしい備中牛生産

江草 孝一・真弓（肉用牛一貫経営・岡山県高梁市）

地域の概況

本牧場が所在する高梁市は、農地の多くが標高400m前後の高原地帯にあり、冷涼な気候を生かした果樹や野菜の栽培が盛んに行われている。特にニューピオーネ、夏秋トマトは県内屈指の産地となっている。

高梁地域の黒毛和牛は古くから備中牛と呼ばれており、品質と歴史・伝統を引き継ぐためにブランド化が進められている。

経営・活動の推移

本牧場は、岡山県立農業大学校を卒業した経営主（孝一氏）が、昭和57年に繁殖牛4頭、肥育牛6頭で経営を開始した。その後、徐々に規模を拡大し、平成2年には現在と同規模の肥育牛240頭（育成牛含む）となったが、増頭時の資金繰り悪化により、畜特資金を平成6年に5,000千円、平成10年に28,614千円を借り入れた。

その後、JAを中心とする指導機関とともに、経営改善に取り組み、投資の抑制や出荷成績の向上、コスト削減のための一産取り経産肥育等の工夫により、平成30年に畜特資金を完済した。

平成22年には精肉販売を開始、平成23年にはJAを事務局に肥育農家、精肉販売店とともに備中牛銘柄推進協議会を設立し、備中牛



（写真1）家族写真（上段左から国昭さん、真一さん、孝一さん、下段左から未来さん、お孫さま、真弓さん）

を商標登録した。本牧場は構成農家から備中牛として出荷される肥育牛の7～8割を生産している。

平成26年には、中国四国酪農大学校を卒業した長男が就農し、繁殖部門を拡大した。平成27年頃から妻（真弓氏）が哺乳を担当し、労働力は、本人、妻、弟、長男の4名となり、優秀な出荷成績を安定した作業体制により継続している。

経営・技術の特色等

本経営は、家族4人（経営主、妻、弟（別世帯）、長男（別世帯））による肉用牛一貫経営で、「地域に根ざしたゆとりある家族経営による、安全・安心でおいしい牛肉生産」を目標とした、地域ブランドである備中牛の中心的な生産農家である。経営成績は、上物率

(表 1) 経営・活動の推移

年次	飼養頭数 ※肥育牛は 育成含む	経営・活動の内容
昭和57年	繁殖牛 4 頭 肥育牛 6 頭	経営主が岡山県立農業大学校を卒業し肉用牛経営を開始。 労働力：本人、母
昭和59年	繁殖牛 4 頭 肥育牛100頭	畜産基地建設事業（公団事業）により、肥育牛舎を整備。トウモロコシ 1 ha（今の放牧地）、 イタリアン 2 haの生産を 3 年実施したが、石が多く生産性が悪かった。
昭和61年	繁殖牛 4 頭 肥育牛136頭	電柱を使い、肥育牛舎を自己資金で増設。弟が岡山県立農業大学校卒業し就農。 労働力：本人、弟、母
平成 2 年	繁殖牛 4 頭 肥育牛244頭	後継者資金で肥育牛舎を増設し、肥育部門が現在の規模になる。
平成 4 年	繁殖牛14頭 肥育牛244頭	繁殖牛舎、経産肥育用の肥育牛舎を増設。妊娠牛の放牧開始。 ※妊娠牛を導入し（一部は牧場で種付け）、生まれた子牛を肥育もと牛とし、経産牛を肥育 （一産取り経産肥育）し出荷。
平成 5 年	〃	経営主が結婚。妻は経理を担当。
平成 6 年	〃	急激な増頭による資金繰りの悪化により、畜特資金5,000千円借入（償還期間10年、据置 3 年）。
平成 7 年	繁殖牛34頭 肥育牛244頭	繁殖牛舎を増設。 繁殖成績の影響を受けず確実に分娩できる、一産取り経産肥育のため、九州から妊娠牛の導 入を開始。回転が早く資金繰り改善に大きな効果があった。
平成10年	〃	畜特資金を28,614千円借入（償還期間20年、据置 3 年）。
平成22年	〃	精肉販売を開始。当初はイベントで牛串の販売も実施。
平成23年	〃	備中牛銘柄推進協議会を設立し、備中牛が商標登録した。
平成26年	繁殖牛57頭 肥育牛244頭	家畜人工授精師・家畜受精卵移植師の資格を取得した長男が中国四国酪農大学校を卒業し就 農。繁殖牛舎を増設。 労働力：本人、弟、長男
平成27年	繁殖牛73頭 肥育牛244頭	育成牛舎を整備。放牧地を拡大。繁殖部門にモバイル牛温恵、養牛カメラを導入。 労働力：本人、弟、長男、妻
平成28年	繁殖牛100頭 肥育牛244頭	繁殖牛舎を増設し、現在の規模になる。 県枝肉共進会で最優秀賞首席（去勢）
平成30年	〃	畜特資金を計画どおり完済。 県枝肉共進会で最優秀賞首席（去勢）
令和 2 年	〃	繁殖部門にファームノートカラーを導入。 県枝肉共進会で最優秀賞首席（去勢）
令和 4 年	〃	県枝肉共進会で最優秀賞首席（雌）
令和 5 年	〃	県枝肉共進会で最優秀賞首席（去勢）
令和 6 年	〃	県枝肉共進会で最優秀賞首席（去勢）

100%、農業所得11,254千円（雇人費として計上している弟と長男の給与を合わせると20,454千円）を達成している。

【国産粗飼料の利用】

国産粗飼料を積極的に活用し、近年の飼料価格高騰以後は、取り組みを加速し、積極的に情報を集めて稲わらを中心に利用量を増やしている。令和 5 年からは、稲わらを繁殖牛に給与しているが、繁殖に影響はなく、飼料

費の抑制に寄与している。給与量は、「稲わら（200kg/個）：肥育牛 1 個/日、繁殖牛 3 個/日」、「稲WCS（330kg/個）：繁殖牛 1 個/日」、「イタリアン（150kg/個）：繁殖牛 1 個/3 日」で通年の給与量を確保している。

【妊娠牛の放牧】

牛の健康やストレス軽減、分娩事故の軽減、管理労力の削減、飼養場所確保のため、3カ所の放牧地で、分娩 2 ヶ月までの妊娠牛を最

大18頭飼養している。1ヵ所は牛舎と繋げており、残りの2ヵ所は簡易牛舎を整備している。

（表2）経営実績（令和6年）

経営の概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)		家族・構成員	2.1人	
			雇用・従業員	2.9人	
	成雌牛平均飼養頭数			98.5頭	
	飼料生産		実面積	0a	
	年間子牛分娩頭数			75頭	
	肥育牛 平均 飼養頭数		肉用種	204.5頭	
			交雑種	頭	
			乳用種	頭	
	年間 肥育牛 販売頭数		肉用種	132頭	
交雑種			頭		
乳用種			頭		
収益性	所得率			5.8%	
	出荷肥育牛 1 頭当たり生産費用			1,569,873円	
生産性	繁殖	成雌牛 1 頭当たり年間子牛分娩頭数			0.76頭
		成雌牛 1 頭当たり年間子牛販売頭数			0.01頭
		平均分娩間隔			12.9ヵ月
	肥育（品種・肥育タイプ） （黒毛和種去勢若齢）	肥育開始時	日 齢（月 齢）		266日
			体 重		325kg
		肥育牛 1 頭当たり	出荷時		841日
			出荷時生体重		831kg
		平均肥育日数			574日
		販売肥育牛 1 頭 1 日 当たり 増体重（DG）			0.881kg
		対常時頭数事故率			4.0%
		販売肉牛 1 頭当たり販売価格			1,247,752円
		販売肉牛生体 1kg当たり販売 価格			1,497円
		肉質等級 4 以上格付率 ※			100.00%
		もと牛 1 頭当たり導入価格			697,745円
		もと牛生体 1kg当たり導入価格			2,147円

【ICT技術の活用】

平成27年にモバイル牛温恵と養牛カメラを導入し、スマートフォンで分娩の兆候や状況を確認している。令和2年にはファームノートカラーを導入し、発情兆候や授精適期時刻を確認している。これらにより、100頭の繁殖牛を長男一人で余裕を持って管理できている。ファームノートカラーは、入力した情報を獣医と共有することで、情報伝達の効率化にも役立っている。

【肥育部門の取り組み】

肥育牛の配合飼料は、飼料価格高騰対策として、飼料会社とともに開発した「天空の匠」を中心としている。開発前に使用していた配合飼料から18.8%単価を抑えることができています。

肥育担当の経営主（孝一氏）と弟（国昭氏）は担当する肥育牛舎を分け、導入する肥育もと牛はそれぞれが決めている。枝肉共進会においてもそれぞれが出品し、切磋琢磨しながら肥育成績の向上に取り組んでいる。

【一貫経営の強みを活かした経営】

本牧場は肥育牛出荷頭数の55%が自家産である。一貫経営のメリットとして、子牛相場に左右されない肥育もと牛の導入、牛の移動ストレスがないこと、生産履歴が完全に把握できることと考えている。これらにより、令和6年岡山県枝肉共進会では自家産の牛が最



（写真2）牛舎と放牧地を結ぶ牧道



（写真3）放牧地と簡易牛舎



（写真4）カラス撃退レーザー

優秀賞首席となった。

また、肥育技術を生かし、繁殖の廃用牛を6ヵ月程度肥育し、高価格で販売しており、令和6年の販売額は14,202千円（27頭）である。

【受精卵の販売と利用】

年間10回程度、採卵を行っており、酪農家を中心に受精卵を販売している。令和6年の受精卵販売収入は3,356千円である。

採卵した受精卵は、本牧場でも利用しており、系統が悪い牛に受精卵移植を行っている。令和6年の岡山県枝肉共進会で最優秀賞首席となった牛は、この取り組みの最初の牛である。

【環境対策・衛生対策】

床替えは、肥育牛舎は3週間に1回、繁殖牛舎は2週間に1回行っており、牛舎の水槽は1週間に1回掃除している。冬場は週に1回、育成牛舎と哺育牛舎にプルスフォグ（ドイツ製のジェット煙霧機）で、畜舎の床を濡らさず、消毒剤を散布している。育成牛舎には、牛の暑熱対策のためミスト機を設置している。

カラス撃退レーザーを牧場に設置してお

り、定期的に設置場所を移動することで効果を継続させている。

地域に対する貢献

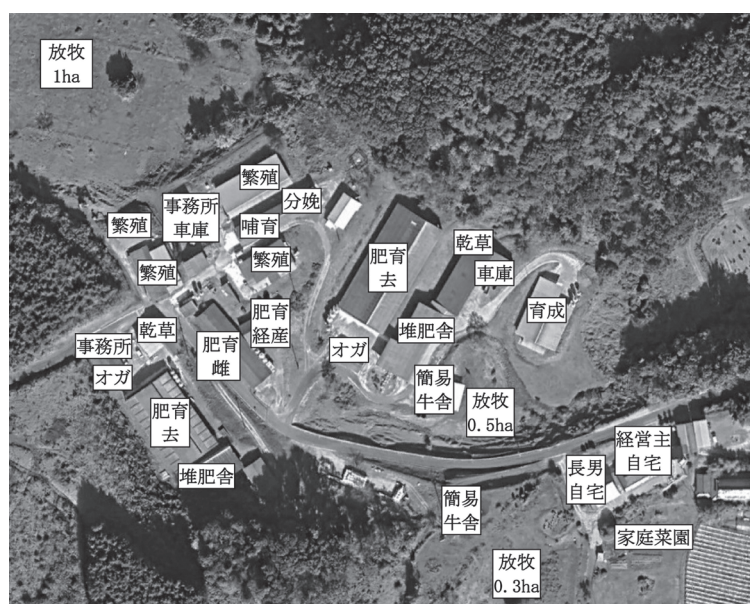
【耕畜連携】

堆肥はぶどうや野菜の生産者30戸に販売しており、市町村を超えての販売も多くある。稲わらや飼料作物を積極的に活用しており、各地域の農地活用や収益向上に貢献している。月に1回程度、地域の園芸農家や畜産農家を集めてバーベキューを行い連携を深めている。

【地域の畜産農家との連携】

地域の畜産農家と協力し、近隣の3戸専任の開業獣医師に繁殖検診、診療等を依頼している。

本牧場の近くで飼料生産を行っている畜産農家の圃場に堆肥を散布し、飼料生産と堆肥利用で連携している。小規模畜産農家に対しては、集めた稲わらやオガコを供給することで、地域の畜産農家の経費削減、経営継続に貢献している。



(図1) 牧場の配置

(表3) 岡山県枝肉共進会成績 (最優秀賞首席のみを記載)

年度	賞名		出品者
H28	最優秀賞首席 (去勢)	農林水産大臣賞	江草国昭
H30	最優秀賞首席 (去勢)	農林水産大臣賞	江草孝一
R2	最優秀賞首席 (去勢)	農林水産大臣賞	江草国昭
R4	最優秀賞首席 (雌)	岡山県知事賞	江草孝一
R5	最優秀賞首席 (去勢)	農林水産大臣賞	江草国昭
R6	最優秀賞首席 (去勢)	農林水産大臣賞	江草国昭

【地域のブランド化への貢献】

JAびほく肥育部会長に就任、備中牛銘柄推進協議会を設立し、備中牛の商標登録に尽力し、指定店の拡大や地産地消に取り組んでいる。現在、備中牛は肥育農家7戸で生産されており、販売指定店は精肉販売店や外食店を合わせて17店となっている。

本牧場は平成28年以降、岡山県枝肉共進会で最優秀賞首席を6度受賞しており、ブランド化に貢献している。また、精肉を直接販売することで、消費者と生産者の顔の見える関係を構築している。備中牛はふるさと納税返礼品に採用されており、地域の知名度向上に寄与している。

【食育や地域の文化醸成】

園児や中学生等を牧場に受け入れて牧場紹介、試食を行っている。高梁市内のこども園や小中学校の給食への備中牛の提供を発案し、市、JA、生産者で費用を負担し、備中牛の牛丼を提供している。この取り組みは好評で、保護者から「子どもがおいしかったと

言っているので、お肉を注文させてほしい」と連絡をもらうこともある。

【地域の雇用への貢献】

近隣のトマト生産者を1人臨時雇用しており、常勤の労働者が休みのときに作業を依頼している。

【その他の取り組み】

経営主は、農業士を始めとする地域の農業関係委員等を歴任している。令和2年には晴れの国岡山農協の理事に選出され、活躍の場を県域に広げている。また、同年に県和牛改良委員会アドバイザーに選任され、県の和牛改良の方向性について助言を行っている。

また、平川村定住推進協議会では会長を務めており、設立当初から就農・定住希望者への説明・面接を行い、就農・定住支援を行ってきた。地元消防団、伝統文化の備中神楽の継承など、農業分野を超える活躍も見せており、地域活性化に欠かせない存在である。



(写真5) 備中牛指定登録証



(写真6) 中学生が作成したポスター

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

経営主の妻は、哺乳と経理を担当している。経理は、農業普及指導センターと畜産協会の支援によりパソコン簿記をマスターしている。

長男の妻は、長男と同じく中国四国酪農大学の卒業生で、牛の飼養管理や牧場作業の経験を積んでいる。現在は3人の子を育てながら、週3回外部で働いている。将来は、長男とともに牧場の中心となる。

【働きやすい職場づくりの取り組み】

長男就農後は、ICT技術による省力化により、年20日の休みを交代で取れるようになった。現在はアルバイトに依頼することで、誰かが休みでも余裕のある作業ができています。

長男が幼い頃から肉用牛経営をしたいと考えていたのは、忙しい中でも、旅行等の家族の時間があつたからで、長男の目指す経営は「家族の時間を持てるゆとりある経営、子どもから継ぎたいと言われるような経営」である。

将来の方向性

【次世代への継承（経営の継続性）】

現在、長男は、繁殖部門担当だが、経営主や経営主の弟が不在のときは肥育部門の飼養



（写真7）後継者家族

管理も行っており、牧場全般の業務を担っている。長男の妻は、外部で働きながら、子育て中であるが、学校で畜産の経験を積んでおり、将来は長男とともに牧場を支えて行く予定である。

今から2～3年後に長男に経営継承を予定している。

【今後の経営計画】

当面は現在の労働力で、規模や出荷成績を維持し、将来は労働力減少を見据え、分散する肥育牛舎をまとめ、自動給餌機を導入し、肥育部門を効率化することを考えている。

放牧地は播種を行っていなかったが、センチピードグラスを播種し、支援組織とともに実証試験を行っている。今後、放牧地を1ha新たに広げる計画で、妊娠牛管理の効率化を計画している。

シン・タマゴ

ー鶏糞を信じ切れるかー

有限会社グリーンファーム久住（採卵鶏経営・大分県竹田市久住町）

地域の概況

有限会社グリーンファーム久住のある竹田市久住町は、熊本県、宮崎県と隣接しており、標高600mで寒暖差の大きな地域である。農業の概要は、令和5年度において、農業産出額は238億円で、うち養鶏が32億円と市の農業産出額の約13.4%を占めており、県内で養鶏の盛んな地域である。

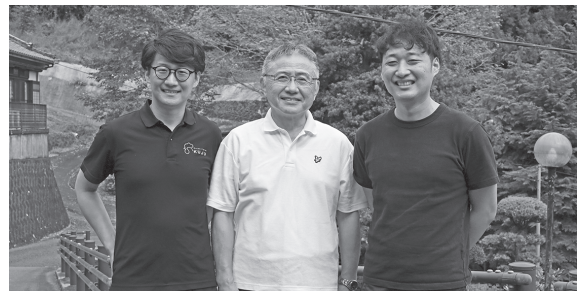
経営・技術の特色等

【経営の概況】

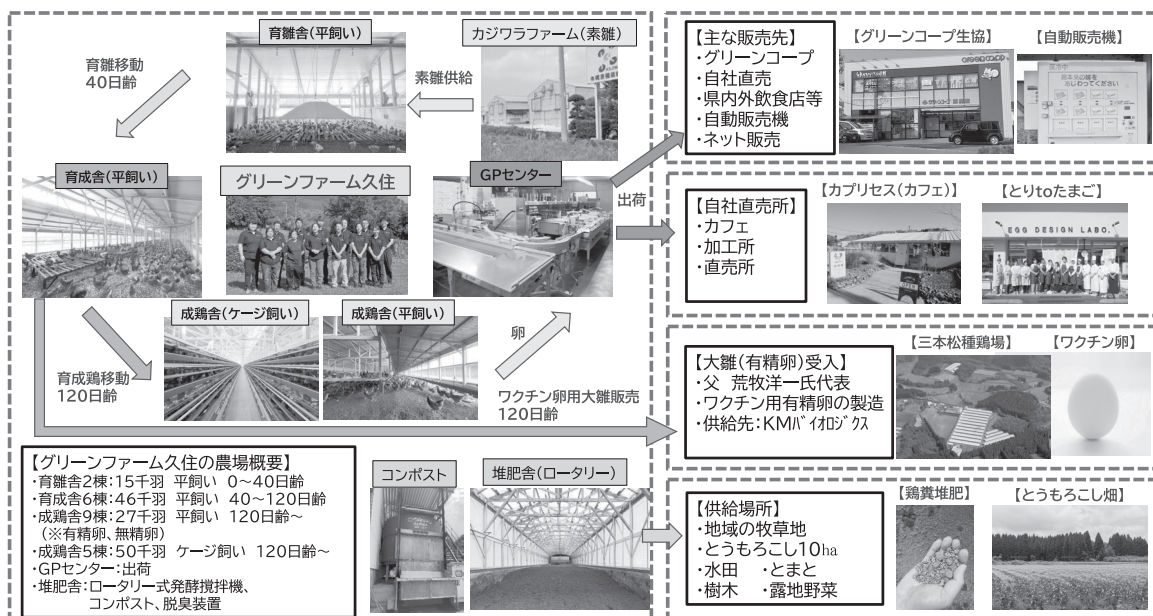
昭和39年に祖父が、「地域のみんなが豊かになるよう、地域振興につながる産業を作ろ

う」と発起人となり、15戸の農家が集まり『協栄養鶏組合』を設立した。

当時より、『平飼堆積発酵床』の飼養管理方法を確認させ、高品質な卵の生産により、『化学および血清療法研究所』の品質検査で、極めて高い品質の卵との評価を受け『ワクチ



(写真1) 家族写真（左から経営主の荒牧大貴氏、父 洋一氏、弟 修平氏）



(図1) グリーンファーム久住の取り組み

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養羽数	経営・活動の内容
昭和39年			・祖父「荒牧光」が発起人となり「協栄養鶏組合」を地域の15戸と設立し、初代組合長に選任（飼養羽数：200羽/戸、地域で3千羽飼養）
昭和40年～44年			・インフルエンザワクチン用有精卵の納入業者として「化学及び血清療法研究所（化血研）」に認められ、品質検査を受け、高い評価を受ける ・「化血研」で成績一位となり、「特別地域指定」を受ける
昭和45年			・「傘型育雛器（ブルーダー）」、「ホッパー自動給餌器」、「自動集卵機」を導入
昭和48年			・梶原種鶏場より「シェーパー鶏の種卵」の生産委託を受ける
昭和59年			・「有限会社三本松種鶏場」設立
平成4年～6年	採卵鶏	50千羽	・「グリーンコープ生協」から組合員向けの食用卵の生産依頼を受け、有限会社グリーンファーム久住を設立、父「荒牧洋一」が代表取締役となる ・平飼育雛舎1棟・平飼育成舎4棟、ゲージの開放高床式成鶏舎5棟を建設 ・BMW技術を用いた飲水の改善プラントを設置、ロータリー式発酵堆肥舎建設
平成17年～26年	採卵鶏	50千羽	・鶏卵自動販売機を設置 ・平飼成鶏舎2棟を建設 ・グリーンコープ生協おいた向けに平飼有精卵の生産、出荷を開始 ・「密閉式縦型コンポスト」、「太陽光パネル」を設置
令和4年	採卵鶏	50千羽	・カフェ「カプリセス」を出店
令和5年～現在	採卵鶏	90千羽	・事業継承を行い、「荒牧大貴」がグリーンファーム久住代表取締役に就任 ・畜舎特例法で平飼成鶏舎7棟、平飼育成舎2棟、平飼育雛舎1棟を建設 ・「新型自動給餌器」を設置 ・加工兼直売所「とりtoたまご」を2店舗出店

(注) 飼養羽数の数値は鶏舎全体の飼養可能羽数を示している。

ン用有精卵』として出荷している。この実績が、祖父の知人から『グリーンコープ生活協同組合連合会』に紹介され、組合員向けの生産農場としての依頼があり、2代目の父は、平成4年に(有)グリーンファーム久住を設立した。

同じく平成4年には、平飼育雛舎1棟、平飼育成舎4棟、平成5年にゲージの開放高床式成鶏舎5棟を建設し、50千羽の規模となった。

さらに、微生物の働きを活性化させるBMW技術を用いた飲水の改善プラントも設置し、給与飼料や飲水、環境に配慮した経営を継続してきた。

平成17年には、平飼成鶏舎2棟を新設し、規模拡大を図った。

環境対策として、攪拌式堆肥舎や平成24年に脱臭装置付きの「密閉式縦型発酵機」を設置するとともに、再生可能エネルギーの活用に向けて、太陽光発電パネルも設置した。



(写真2) グリーンファーム久住全景

令和5年に事業継承を行い、父より大貴氏が代表取締役を譲り受けた。

同年に、さらに規模拡大に向けて、県内で初めて畜舎特例法を活用し平飼成鶏舎7棟、平飼育成舎2棟、平飼育雛舎1棟を新設し、第2農場を持つこととなった。

現在、成鶏常時70千羽規模となり、年間1,200tの卵を生産し、出荷をしている。なお、成鶏の一部は、ワクチン卵用大雛として父が

(表2) 経営実績 (令和6年度)

経営概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	雇用・従業員	17.1人
	採卵鶏平均飼養羽数		69,800羽
	年間鶏卵生産量		1,180,200kg
	年間鶏卵出荷量		1,180,200kg
収益性	所得率		6.0%
	採卵鶏100羽当たり売上原価		725,487円
生産性	採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量		1691.0kg
	採卵鶏100羽 1日当たり産卵量		4.6kg
	鶏卵 1kg当たり平均販売価格		491.9
	GP		517.3円
	産直		466.6円
	直販割合		11.4%
	採卵鶏100羽 1日当たり飼料消費量		12.8kg
	飼料要求率	採卵鶏	1.99
	育成率 (初生雛)		98.9%
	育成率 (中大雛)		98.5%
	採卵鶏へい死率		0.8%
	採卵鶏補充率		97.4%
	鶏舎 1m ² 当たり年間鶏卵生産量		71.1kg
	鶏舎 1m ² 当たり採卵鶏飼養羽数		4.2羽



(写真3) 平飼成鶏舎

経営する(有)三本松種鶏場に供給している。

また、地域の活性化として、令和4年にカフェ「カプリセス」を出店し、本農場のブランド『風のたまご』を提供、令和6年からスイーツの製造と販売を中心とした加工兼直売所「とりtoたまご」2店舗も出店した。現在の従業員数は40名を雇用し、過疎化と高齢化が進む地域に一役かっている。

従業員の平均年齢は30代と若く、次世代の育成と地域貢献を行っており、県内でも有数な経営体である。

【技術の特色について】

技術の特色としては、祖父の代から引き継がれた飼養管理技術の『平飼堆積発酵床』により、鶏本来の姿の飼育が実現できていることである。

『平飼堆積発酵床』は、鶏糞が「土着菌」により発酵・分解が促進され、堆肥化〔完熟〕される仕組みである。長い期間で豊かな発酵床となり、鶏が走り回り「鶏の本能である土壌を掻く」行為により、床の発酵が更に促進され良質な堆肥となる。

さらに鶏の健康を維持するため、BMW技術を用いた飲水の改善プラントを設置することで、鶏の体調を整え、良質な卵を生産している。

この方式で育った鶏は疾病にかかりにくく、農場設立から一度も大きな疾病の発生がない。

育雛期の環境が成長に与える影響が大きいことから、雛から育て健康状態を確認し、鶏舎の温度・湿度や給餌、給水の場所、自由に行動する範囲を細かく調整している。

また、「鶏の本能を満たす行動」がとれるよう止まり木を設置し、雛の頃から1ヵ月をかけて従業員が見回り、『止まり木』に止まるように道具を使い鶏への教育を行っている。

床で寝ると、体が蒸れて寝汗をかき体調を崩したり、1ヵ所に集まり圧迫死する恐れがあり、成鶏を止まり木に問題なく登れるように育てることは、巢外卵対策としても極めて重要である。

飼料給与は、ポストハーベストフリーとして、グリーンコープの指定飼料を扱い、分別流通管理飼料(Non-GMO)の穀物、国産の飼料用米、さらに残留農薬や放射能検査等をクリアした飼料を給与している。

健康な鶏から生まれた卵の白身と黄身の盛り上がりが目でわかる美味しい卵に、「風



(写真4) 平飼堆積発酵床



(QR1) 平飼堆積発酵床の様子 (動画)



(QR2) 平飼堆積発酵床のメカニズム (PDF)



(QR3) BMW技術の概要 (PDF)



(写真5) 止まり木に整列して眠る成鶏



(写真6) 風のたまご

のたまご」のブランドをつけ、平飼いの有精卵・無精卵、ケージの無精卵と差別化して出荷・販売している。

この方式は飼養管理に手間がかかり、生産コストがかさむが、消費者には卵の価値を十分に理解してもらうことで、高価格帯で販売している。

【直面した課題と対策・経営改善対策】

①『平飼堆積発酵床』の確立まで

本農場が大切にしている鶏への環境づくりは、「鶏糞の発酵を信じ切れるか」である。

『平飼堆積発酵床』の循環には、少なくとも3年程度の期間を要する。事業承継後に、第2農場を建設した際、1・2年目の冬季に十分な換気ができず、床が湿り汚卵が多く発生した。

現在は、これまでの失敗経験を糧にしながら、床の一部を理想の『平飼堆積発酵床』にしていけるよう辛抱強く努力している。

②農場の数値化

事業承継後に、主眼をおいたのは農場のあらゆる数値化である。

鶏の生産技術等の数値管理を徹底し、経営分析により飼料の過剰摂取、飼料費改善に着手している。これまで鶏の育ちを肌感覚で判

断していたが、数値をもとに従業員と情報共有し、協議した結果をマニュアル化することで、従業員の意識改革を行った。

現在は、体重データ分析を行い、飼料設計を見直しているところである。飼料費の改善の成果として、令和6年常時飼養羽数の100羽当たりの飼料費は397,391円（税抜き）で、前年と比較して15%程度の削減が可能となった。

地域に対する貢献

本農場の地域貢献は、地域と共に『持続可能な畜産生産物』を提供するため、グリーンファーム久住独自の『みどり戦略』を行っている。

①環境負荷の軽減

環境対策として、堆肥の供給を行い地域との結びつきを大切にしている。

地域への臭気対策も含め、脱臭装置を併用した密閉式縦型コンポストやロータリー式発酵堆肥舎により、良質な堆肥を地域の牧野や酪農家が作付けしているトウモロコシ畑等に販売供給している。

特に、酪農家が作付けしているトウモロコシは、当農場の堆肥を還元することで肥料代

が3割程抑えられている。

②持続可能性及び生産性の構築

本農場は、動物福祉をめざし「鶏にも自然にも、人間にも良い環境づくり」をモットーとし自然サイクルの循環を構築し、地域の消費者へ、安全・安心で高品質な卵を提供し続けることが地域貢献としての使命と考える。

③労働環境の改善と次世代の育成

過疎と高齢化が進む地域として、地域雇用への貢献も視野に飼養規模を拡大してきた。

現在は、養鶏部門で18名、販売部門で22名、計40名の従業員を雇用している。また、竹田市の移住者促進の施策と連携し、移住者の雇用・定住にもつなげている。

従業員の平均年齢は30代であり、新入社員は、OJTやLINEを利用した農場の改善、悩み等を日報として提出し、上司や社長との意見交換を日頃から行い、スキルアップを図っている。

また、労働省力化としてもICT機器等を積極的に導入し労働環境の改善にも努めている。

④地域コミュニティの促進（地産地消）

企業理念の一つとして、若者や子育て世代が気軽に集える場をつくりたい思いで、地域に根付いたカフェ「カプリセス」を出店した。さらに、消費者の要望に応えるため、加工兼直売所「とりtoたまご」の店舗を2店舗も出店し、農場で生産した卵を使った商品を幅広く消費してもらいつつ、今後も地産地消を含めて地域コミュニティの促進を図っていきたいと考えている。

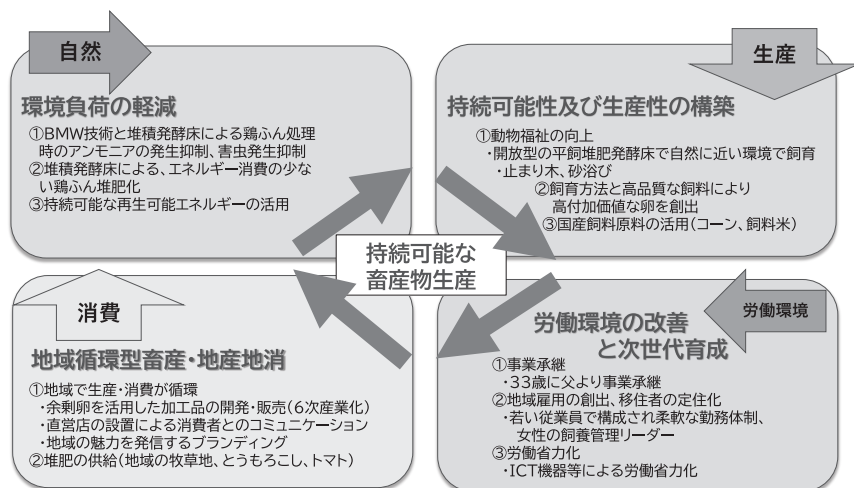
⑤その他の取り組み

毎年、インフルエンザの流行等でワクチン製造の重要性が高まる中、父が代表取締役の三本松種鶏場と連携し、強健でたくましい鶏を育成し、ワクチン卵用大雛として供給を行っている。

本農場では、職業体験および職業講話の実

施や高校生とのレトリカレーの共同開発や、さらには子ども食堂や福祉施設等への卵の寄付も行っている。

また、父は、日本養鶏協会の役員（監事）、大分県養鶏協会の会長、大分県畜産協会の理事を歴任しており、養鶏業への長年の貢献は関係者に幅広く認められている。



(図2) グリーンファーム久住のみどり戦略



(写真7) とうもろこし畑



(写真8) 農場従業員全体



(写真9) 店舗従業員全体



(写真10) カフェ「カプリセス」



(写真11) 直売所兼加工所「とりtoたまご」

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

グリーンファーム久住の女性従業員比率は67.5%で、GPセンター長を含め3名の女性管理職を配置し、細やかな目配りにより成績・収益の向上につながっている。

また、販売部門のカフェと加工直売所の3店舗は女性店長が担っている。女性ならではのアイデアが多数あり、店舗の改善に役立っている。

労働環境は、多忙な期間以外の残業はなく、月間7日の休日を確保し、有休も1時間単位で取得可能と、働きやすい環境となっている。今後、月間8～9日まで休日を増やしていく予定である。

また、福利厚生も充実しており、基本的な手当の他に自社商品購入の社割、ユニフォーム配布、資格取得の支援、外部研修会の参加や食事補助、永年勤続表彰を行っている。従業員のリクエストで更衣室やトイレのリフォームも行った。

これまで最も力を入れたのが、給与水準を引き上げたことである。現在の物価高に対応するため、賃上げ率として、直近3年間で約15%以上の水準までに引き上げてきた。

将来の方向性

今後の計画として、シンガポールに輸出している地域の大型養鶏場と連携し、5年後に輸出をする計画があり、今後も『平飼堆積発酵床』の仕組みを維持し、飼養規模羽数15万羽まで規模拡大を予定している。

また、国産自給飼料の確保対策として、県と市、関係者と連携し、飼料用トウモロコシの確保を今後の目標としている。

また、本農場の課題である「飼料費の削減」対策は、鶏の体重・卵重の斉一化に努めつつ、飼料費のさらなる削減を図る。

さらに省力管理への取り組みとして、飼養管理のデータ等をクラウドで一元管理できるシステムの構築を進めており、従業員がより鶏と向き合うことが出来る時間を創出したいと考えている。

グリーンファーム久住が地域の中核となり、竹田市の農業の魅力を創出する「竹田農業ブランド」を立ち上げる活動も進めていきたい。



(写真12) 女性従業員（農場内）



(写真13) 3名の女性店長

地域に愛されるブランドポークはまゆう豚

—人材は宝—

有限会社ハマユウ尾鈴ポーク（養豚経営・宮崎県川南町）

地域の概況

有限会社ハマユウ尾鈴ポーク（以下、「本経営」という）のある川南町は、宮崎県のほぼ中央部に位置し、東は日向灘に接している。町域は、東西約12km、南北約10kmの総面積90.12平方キロメートルで、森林と農用地が総面積のそれぞれ約40%を占め、温暖な気候



（写真1）役職員一同集合写真

と豊かな自然の中で、畜産を中心に全国有数の食料生産基地となっている。

畜産のほか、イチゴ、トマト、キュウリ等の施設野菜や菊、スイートピー、ユリ等の花きの栽培も盛んに行われている。町の農業産出額は令和5年で約251億円、うち畜産は約183億円で全体の約73%を占めている。

経営・活動の推移

【共同利用から独立経営への転換】

昭和54年に尾鈴農業協同組合（現：宮崎県農業協同組合尾鈴地区本部）が民間企業の農場を取得し、地域の共同肥育農場としてJAに所属する繁殖農家150戸の子豚を受け入れていたが、施設の老朽化と子豚生産農家の減少で事業継続が困難となった。

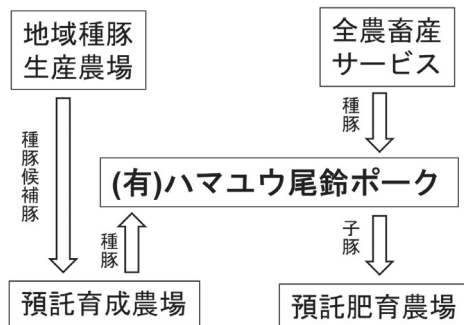
このため、地域の生産基盤の維持を目的と

（表1）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	経営・活動の内容
昭和54年	養豚（肥育）	肥育7000頭規模	地域生産子豚の受入のため、JA尾鈴が共同利用施設として取得（利用農家150戸）
平成7年	養豚（肥育）	肥育7000頭規模	利用農家が高齢化により40戸まで減少。地域養豚振興のため、事業をJAから分離し、新たに養豚一貫経営の会社設立を決定
平成8年	養豚（一貫）	母豚600頭規模	（有）ハマユウ尾鈴ポーク設立（農家11戸・JA・（株）ミヤチク出資）
平成20年	養豚（一貫）	母豚1200頭規模	自社の繁殖部門拡大のため、第2農場（尾鈴繁殖農場（母豚600頭規模））建設・稼働開始
平成22年	養豚（一貫）		口蹄疫発生（15,957頭全頭殺処分）
平成23年	養豚（一貫）	母豚1200頭規模	口蹄疫からの復興、飼養管理システムの変更
平成27年	養豚（一貫）	母豚1200頭規模	自社直売所オープン
令和4年	養豚（一貫）	母豚1200頭規模	第51回日本農業賞個別経営の部で優秀賞を受賞



(写真2) 農場全体風景



(図1) 飼養フロー

して、施設運営をJAから分離し、新たに養豚一貫経営を行う会社を設立することとなり、平成8年に農家11戸、尾鈴農業協同組合、(株)ミヤチクの出資で本経営を設立し、SPF豚の一貫生産農場として再スタートを切った。

平成20年には自社での繁殖部門拡大のために母豚600頭規模の第2農場（尾鈴繁殖農場）を整備し、地域の生産基盤の強化を図るとともに、地域で生産された種豚の受入先としての役割も担っている。

平成22年の口蹄疫発生後には、経営再開が困難となっていた農家を預託農家（育成農場1件、肥育農場2件の計3件）として受け入れるなど地域養豚農家の経営継続支援も行った。

経営・技術の特色等

【堅実かつ持続可能な経営】

平成22年に発生した口蹄疫では本経営にお

(表2) 経営実績（令和6年度）

経営の概況	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	従業員	22.2人
	種雌豚平均飼養頭数		1,183.7頭
	肥育豚平均飼養頭数		7,816.0頭
	年間子豚出荷頭数		0頭
	年間肉豚出荷頭数		27,362頭
収益性	所得率		1.1%
	種雌豚1頭当たり生産費用		1,113,336円
生産性	繁殖	種雌豚1頭当たり年間平均分娩回数	2.38回
		1腹当たり分娩子豚頭数	14.1頭
		種雌豚1頭当たり年間分娩子豚頭数	33.5頭
		1腹当たり哺乳開始子豚頭数	11.5頭
		種雌豚1頭当たり年間哺乳開始子豚頭数	27.4頭
		1腹当たり離乳子豚頭数	10.8頭
		種雌豚1頭当たり年間離乳子豚頭数	25.6頭
	肥育	種雌豚1頭当たり年間出荷頭数(子豚)	0.0頭
		種雌豚1頭当たり年間出荷頭数(肉豚)	23.1頭
		種雌豚1頭当たり年間出荷頭数(子豚・肉豚)	23.1頭
		肥育豚事故率 (離乳時からの事故率)	7.3%
		肥育開始時	日齢 72.0日
			体重 30.8kg
		肉豚出荷時	日齢 172日
			体重 114.8kg
		平均肥育日数	100.0日
		出荷肉豚1頭1日当たり増体重	0.840kg
		トータル飼料要求率	3.05
		肥育豚飼料要求率	2.68
		枝肉重量	74.3kg
	販売価格	肉豚1頭当たり平均価格	44,382円
		枝肉1kg当たり平均価格	597.3円
		枝肉規格「上」以上適合率	71.6%

いても15,957頭全頭が殺処分となったが、同年11月には家畜導入に踏み切り経営を再開した。売り上げがない期間が1年半続く中、「人材は宝」という経営者の理念に基づき、従業員の解雇はせず、国の助成金を活用し全従業員の雇用を継続した。口蹄疫後の経営再開の



(写真3) 口蹄疫後に建立された畜魂碑

ため借り入れた4億3千万円の資金は、借り換えや延滞することなく令和7年度で完済となり、他に長期借入金はなく、盤石な経営基盤によって、県内でも有数の堅実かつ持続可能な経営を実現している。

【バイオセキュリティの強化】

口蹄疫で無家畜となった地域全体を特定疾病（オーエスキー病、豚繁殖・呼吸器障害症候群（PRRS））フリー地域として再出発することを目標に、平成22年8月に、養豚生産者や畜産関係者が構成員となって発足した「新生養豚プロジェクト協議会」に参加し、種豚導入基準、地域防疫組織の強化、農場環境対策等、地域ぐるみで行うバイオセキュリティ向上の仕組みづくりに大きく貢献した。プロジェクトでの協議結果を受けて、本経営のバイオセキュリティの強化に取り組み、口蹄疫の経験を決して風化させないという姿勢は地域防疫のモデルとなっている。

【銘柄豚肉販売の取り組み】

本経営が生産する豚肉は「豚を健康に飼うことが美味しい豚肉につながる」をモットーに、飼料に生菌入り混合飼料を添加し、飲水には新鮮な水を用いるなど豚を健康に育てるため、こだわりを持った飼養管理が行われており、肉質・肉色も良いことに加えて、臭みがなく、うまみを感じやすいことが特徴である。

平成25年には本県ブランド豚肉である宮崎



(写真4) 宮崎ブランドポーク「はまゆう豚」



(写真5) 毎年開催されるはまゆう豚を扱ったフェア

ブランドポークの指定生産者認証を取得し、(株)ミヤチクを通して全量を販売している。

このうちの25%は平成26年から「はまゆう豚」などのプライベートブランドとして、県外へ販売している。価格条件は帯価格や付加価値価格での取引であることから、安定した収益確保につながっている。

また、販売先のスーパーで毎年「はまゆう豚フェア」を開催している。フェア期間中には役職員が店頭へ出向き販売に携わり、直接消費者の声を聞くことで仕事へのモチベーション向上につなげている。

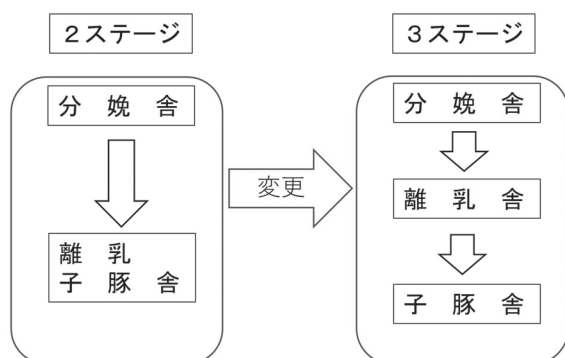
【生産性向上の取り組み】

従業員の生産技術向上を目的にNOSAI宮崎に依頼し、平成23年から月に1度、管理獣医師の巡回と合わせて従業員全体でミーティングを行っている。下痢や肺炎等の疾病への的確な治療・予防法などの知見が得られるほ

か、従業員間でのコミュニケーションが図られ、これまでは知る機会がなかった他部門の生産管理状況や課題等を全体で共有・検討することができ、早期の課題解決・改善につながっている。

【飼養管理フローの変更】

平成23年に飼養管理フローを2ステージから現在の3ステージへ変更を行い、離乳後の事故率低減を図った。変更前は離乳子豚が豚舎の環境変化によるストレスの影響で移動後の事故率が高くなる状況が続いていたが、3ステージに変更し、保温環境を改善したことで、移動工程が1段階増えたものの、離乳後の事故率は、平成21年（口蹄疫発生前）と比べ大きく低減している。近年は5%台で安定的に推移しており、母豚1頭当たりの出荷頭数の増加に貢献している。



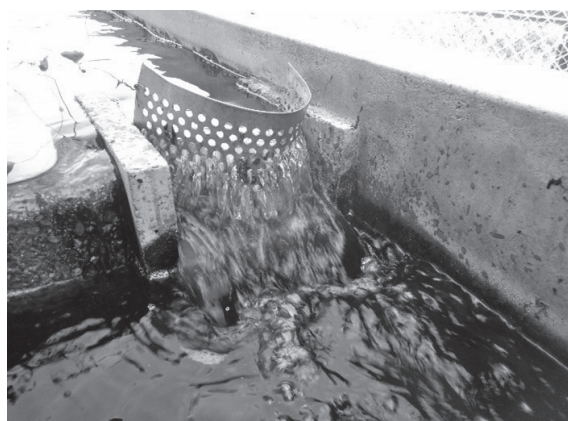
（図2）飼養管理フロー

【高い飼養管理技術の実証】

平成29年当時、これまで導入してきた種豚が高繁殖能力種豚に改良され、産子数が増加した一方で、虚弱子豚の増加が課題となったため、廃豚を使った2段階里子方式を取り入れ、これを実践した。里子方式は的確な里親の選択が重要であり難易度の高い取り組みであるが、女性の分娩管理担当者が母豚の特徴を細かく把握していることが成功のポイントとなっている。



（写真6）里子作業の様子



（写真7）浄化処理後の放流水



（写真8）完熟堆肥

地域に対する貢献

【環境保全】

豚の腸内の細菌バランスを正常に保持する効果を持つ添加物により、腸内環境が改善し、ふん尿の臭気を軽減するとともに、堆肥生産の際は発酵促進剤としても働くことで、良質

な堆肥生産につながっている。生産された堆肥は成分分析を行った上で、地域の園芸農家（主に大根、スイカ）へ供給している。

また、要望に応じて堆肥散布作業を受託し、利用農家の作業負担軽減を図っている。

尿処理については、浄化処理施設（活性汚泥法）を整備し、放流水は水質検査（自主的検査を含む月2回）によるモニタリングを実施し、検査項目すべてで排水基準を満たしている。

【地域雇用の貢献】

平成23年から隣接する高鍋町にある県立高鍋農業高等学校からインターンシップとして毎年約2名の生徒を受け入れるなど、養豚産業への理解醸成や職業選択の機会創出にも尽力している。

また、インターンシップ終了後も、夏休み期間中にアルバイトとして受け入れるなど、継続的に関わりを持ち、他企業が人材確保に苦慮する中でこれまでに10名もの卒業生を雇用している。

【地域との関わり】

「はまゆう豚」の魅力発信や地産地消推進の一環として、平成27年に精肉直売所をオープンした。新鮮な豚肉をリーズナブルな価格で販売し、消費者から好評を得ている。

また、地域との共存共栄を目指して、お中元やお歳暮として農場周辺の地区住民（30戸）に豚肉の贈呈や、近隣小学校のイベントでの豚肉無償提供、近隣地区の催事への協賛品（豚肉等）の提供等を行っている。

地域の美化活動を目的として、地元企業約20社で構成する「川南町東地域環境保全推進会議」の事務局を務めており、町おこしイベントの1つである「都農尾鈴マラソン大会」のコースとなっている県道302号線を4キロに渡り一斉清掃を実施している。さらに、農



(写真9) 直売所の様子



(写真10) 直売所の様子



(写真11) 清掃活動の様子



(写真12) 農場周辺の美化風景

場周辺に花壇を整備し、季節の花を植栽するなど地域の環境美化に貢献している。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

本経営では従業員20名のうち4名が女性で、男性従業員とは異なる視点で目配りができることから女性従業員を分娩舎担当に配置しており、離乳頭数が増加するなど成績向上につながっている。

また、産前産後休暇・育児休暇等の導入や、子育て世代の就業時間の見直し等の就業規則を整備するとともに、女性専用の更衣室（シャワー室付き）や、衣類洗濯機・乾燥機を導入するなど、女性にも働きやすい環境整備に努めている。



（写真13）女性専用更衣室

【ワークライフバランスを考慮した労働環境づくり】

「人材は宝」という理念のもと、新規採用者は3ヵ月間の研修期間を経て、性格や業務適性を判断し配置される。配置後は、3年間の技術育成期間を設け、OJTやセミナーを活用して飼養管理に必要な技術の習得を促し人材育成に取り組んでいる。また、定期的な配置換えにより、全体作業を全従業員が把握することで、誰がどの部門に入ってもサポートできる体制づくりを構築している。役割分担表（日勤表）の作成などにより、原則週休2日の就業体系を確保することで、従業員のワークライフバランスの充実につながっている。

また、住宅手当を賃貸住宅に限らず持ち家の住居形態にも支給するなど福利厚生の実施を図っており、採用後の定着率が高く、最長勤続年数は35年である。

将来の方向性

【今後の経営計画】

既存施設が稼働した当時に比べると、当農場の繁殖成績は格段に向上しており、また、預託肥育農場が上限収容頭数に近づいていることから、繁殖豚舎の増築（母豚100頭規模）、肥育豚舎の新設（1,800頭規模）を計画している。

最終目標としては、母豚2,000頭へ規模拡大し、継続的な地元雇用や新卒採用による雇用20名から30名への増員を目指している。

家族一体で突き進む ポジティブ肉用牛経営

一人と牛をハッピーにしたい

株式会社窪田畜産（肉用牛一貫経営・鹿児島県霧島市）

地域の概況

霧島市は、鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、北部は霧島連山、南部は錦江湾に面した広大な平野部で、山麓から天降川水系が流れる水田地帯である。主な産業は農業で、特に畜産が盛んである。令和5年度の農業産出額252億9千万円で、その約74%（189億円）を畜産が占め、そのうち肉用牛が49億3千万円となっている。

経営・活動の推移

窪田畜産は、昭和57年に経営主の父である繁氏が現在の霧島市郡田地区で成雌牛10頭から経営を開始、平成7年には叔父の豊氏が同地で肥育経営を開始した。平成17年に現経営



（写真1）経営者夫妻
左 加奈子さん 右 敏さん

主の敏氏が、妻の加奈子氏とともに鹿児島県立農業大学校を卒業後、海外研修を経て就農した。平成19年には敏氏が成雌牛50頭規模に

（表1）経営の推移

年次	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和57年	成雌牛10頭	5ha	現経営主の父、繁氏が畜産経営を開始
平成7年	成雌牛50頭 肥育牛20頭	10ha	叔父の豊氏が肥育経営を開始 肥育牛舎完成
平成17年	成雌牛120頭 肥育牛20頭	20ha	現経営主 敏氏、妻の加奈子氏が就農
平成28年	成雌牛200頭 肥育牛20頭	27ha	牛舎、堆肥舎を増設 鹿児島県環境衛生コンクールで最優秀賞を受賞
平成30年	成雌牛300頭 肥育牛20頭	29ha	父、叔父、本人の経営を統合し法人化 代表は繁氏
令和4年	成雌牛450頭 肥育牛74頭	29ha	売上高2億円達成、放牧飼養開始
令和5年	成雌牛450頭 肥育牛83頭	29ha	法人代表が敏氏へ 牛肉・加工品販売を始める

(表2) 経営実績

経営の概況	労働員数 (畜産)		家族・構成員	5.2人
			雇用・従業員	3.6人
	成雌牛平均飼養頭数			458.6頭
	飼料生産	実面積	2,900a	
	年間子牛分娩頭数			348頭
	年間子牛 販売頭数	雌子牛（肥育素牛生体販売）		120頭
		雄子牛（肥育素牛生体販売）		155頭
	肥育牛 平均 飼養頭数	肉用種		83.6頭
年 間 肥育牛 販売頭数	肉用種		85.0頭	
収益性	所得率			9.1%
	成雌牛 1 頭あたり生産費用			575,750円
生産性	成雌牛 1 頭当たり年間子牛分娩頭数			0.76頭
	成雌牛 1 頭当たり年間子牛販売頭数			0.60頭
	繁殖	平均分娩間隔		13.7 ヲ月
		雌子牛	販売日齢	277日
			販売体重	262kg
			日齢体重	0.946kg
			1 頭当たり販売価格	430,733円
		雄子牛	販売日齢	274日
			販売体重	294kg
			日齢体重	1.073kg
	1 頭当たり販売価格		573,313円	
	粗飼料	成雌牛 1 頭当たり飼料生産延べ面積		12.6a
肥育牛 1 頭当たり飼料生産延べ面積		69.0a		
借入地依存率		6%		
飼料TDN自給率		186%		

なったところで独立し、その後、それぞれ規模拡大をしてきた。増頭に伴い、母牛、子牛の疾病や事故が増加したことから、関係機関の助言指導により農場HACCPに取り組んだ。平成29年3月には推進農場の指定を受け、衛生管理の徹底や作業マニュアルを整備し飼養管理の斉一化が図られ、事故率が減少し生産率が向上した。

平成30年には成雌牛を300頭まで増頭し、3人(繁、豊、敏)の経営

生産性	(黒毛和種雌若齢)	肥育開始時	日齢	281日
			体重	226kg
		出荷時	日齢	863日
			体重	738kg
		平均肥育日数		582日
		販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		0.880kg
		対常時頭数事故率		6.3%
		販売肉牛1頭当たり販売価格		1,139,425円
		販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,548円
		枝肉1kg当たり販売価格		2,192円
		肉質等級4以上格付率 ※交雑種、乳用種の場合は3以上格付率		96.7%
		もと牛1頭当たり導入価格		255,288円
		もと牛生体1kg当たり導入価格		1,130円
	(黒毛和種去勢若齢)	肥育開始時	日齢	281日
			体重	217kg
		出荷時	日齢	830日
			体重	774kg
		平均肥育日数		549日
		販売肥育牛1頭1日当たり増体重(DG)		1.015kg
		対常時頭数事故率		11.1%
		販売肉牛1頭当たり販売価格		1,222,708円
		販売肉牛生体1kg当たり販売価格		1,580円
		枝肉1kg当たり販売価格		2,249円
		肉質等級4以上格付率 ※交雑種、乳用種の場合は3以上格付率		95.8%
		もと牛1頭当たり導入価格		255,944円
		もと牛生体1kg当たり導入価格		1,179円



(写真2) 農場全景



(写真3) ゆったりとした子牛舎

を統合し、現在の株式会社窪田畜産を設立した。設立に当たっては、地域において法人化に携わった経験のある識者がいなかったことから、敏氏が孤軍奮闘で一から書類整備を行い、苦労の末、法人設立に至った。この法人化により、それまでそれぞれが単独で行っていた経営管理を一本化することで、飼料作物栽培や出荷計画、疾病対策などが法人の中で定着し、構成員がそれぞれの役割に集中するようになり生産性が向上した。

令和2年2月以降、新型コロナウイルス等の影響により、鹿児島県においても子牛価格が下落し、さらに配合飼料価格の高騰の影響により、繁殖経営の収益性が悪化した。そのような状況下でも、窪田夫妻の持ち前のポジティブ思考から、牛舎の改修等を低コストで

行い、母牛の増頭を図ってきた。また、それまで発育不良の子牛を肥育して出荷していたが、産肉成績が良好だったことから、肥育牛の割合を増やすとともに、牛肉・加工品販売を本格的に事業化することで、収益性の改善に成功している。

経営・技術の特色等

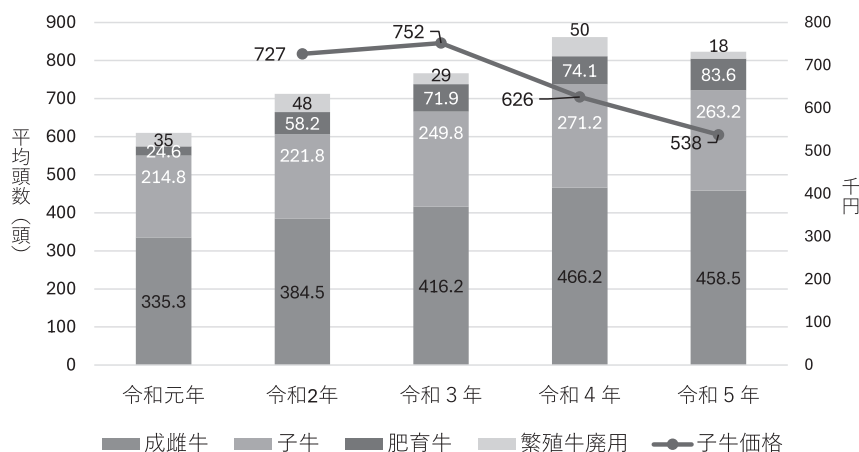
【経営の特色】

家族経営のメリットを生かし、構成員、従業員の得意分野を生かした役割分担をしている。また、必要に応じて大型農業機械やICTを導入し、さらに妊娠牛の放牧技術などを積極的に取り入れることで、省力化を図りながら規模拡大をしている。また、発育不良子牛の肥育に加え、経産肥育に取り組み、食肉・

(表3) 窪田畜産の役割分担

名前	関係	主な役割
敏(サトシ)	経営主	経営総括
加奈子(カナコ)	妻	経営補佐、6次産業化、広報
繁(シゲル)	父	飼料生産、施設整備・改修
敏和(トシカズ)	弟	繁殖牛管理、人工授精
豊(ユタカ)	叔父	肥育牛管理
航(ワタル)	従兄弟	加工・販売担当
和希(カズキ)	従兄弟	飼料生産、施設整備・改修

※子牛哺育・育成：雇用2名(女性)、ふん尿処理：雇用1名(男性)



(図1) 飼養頭数の推移

加工品販売部門の拡充により、情勢に柔軟に対応しながら所得向上を成し遂げている。

【技術の特色】

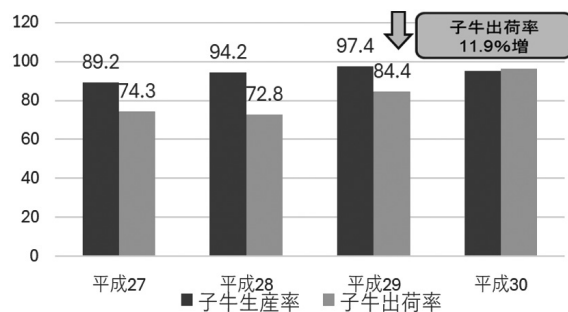
ポジティブ1：出荷率低下を衛生管理徹底で克服

増頭に伴い、母牛、子牛の疾病や事故が増加していたため、関係機関の助言により平成29年3月に農場HACCP推進農場の指定に取り組み、衛生管理の徹底やマニュアルの整備による作業の斉一化をはかり生産率が向上した。
ポジティブ2：先進技術の積極的導入による省力化

肉用牛の規模拡大に伴い、自給飼料の作付面積も拡大してきた。作業の効率化、省力化を図るため、平成30年にはトラクターの大型化を図るとともに、不耕起播種機やフロントモアコンディショナなどの最先端の機械を導入し、作業時間は従来の半分となった。

また、多頭化に伴い、令和2年には哺乳ロボットに加え、子牛個々の状態に合わせてミルクを供給できるようミルクモービルを導入・活用し、作業の省力化と子牛の商品性向上を図っている。

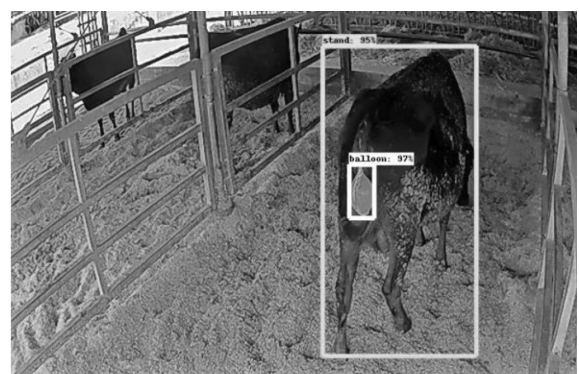
敏氏はスマート農業にもいち早く取り組み、分娩通知システムや首輪型センサーを用いた発情発見システム、分娩兆候監視カメラシステムなどのDX技術を積極的に取り入れ、繁殖管理の省力化を図りながら生産率の向上を達成している。



(図2) 子牛生産率、出荷率、市場平均価格比の推移



(写真4) ミルクモービル



(写真5) AIによる分娩検知

さらに、日ごろの作業の連絡調整にSNSを活用し、従業員間で牛の疾病などの情報共有を図り、早期に対応することで、急激な増頭にもかかわらず、子牛生産率、出荷率を維持し、市場平均価格並みの価格で売り上げている。
ポジティブ3：景気変動に負けずに増頭、規模拡大！

生産コストの上昇に加え、子牛価格が低迷する中、牛舎の整備・補修等を自分達で行いながらコストの圧縮を図り、成雌牛・肥育牛ともに増頭している。また、発育不良子牛、高産歴母牛などを肥育に仕向けることにより付加価値を高めるなど、所得向上に積極的に取り組んでいる。困難な状況にも諦めず立ち向い、工夫と努力で成果を上げる姿勢は、経営方針である「ピンチはチャンス！！ここを乗り越えると未来は明るい！今できることをきっちりやって現状を乗り越える！」精神で、



(写真6) 子供たちも補修のお手伝い



(写真7) 放牧管理

地域の畜産農家にとっても大きな励みとなっている。

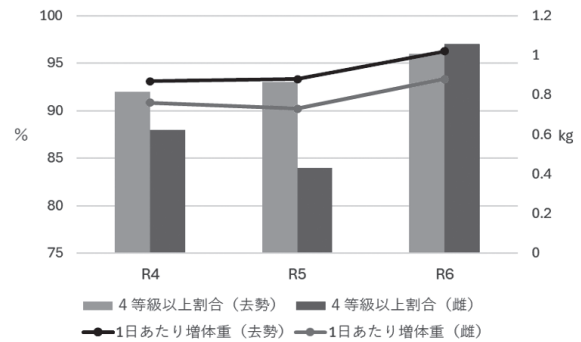
ポジティブ4：妊娠牛の放牧管理・アニマルウェルフェア

成雌牛の増頭に伴い、自己所有の草地・山林を放牧地として開拓し、常時15頭の妊娠牛を放牧管理している。放牧期間は、妊娠鑑定後から分娩の1ヵ月前までとし、牛舎での過密状態を解消するとともに、ゆったりとした環境でストレス無く飼養することができている。

地域に対する貢献

【ハッピーを届ける！：牛肉・加工品販売の拡大】
(一部一貫経営における高い肥育技術)

法人設立後、繁殖部門で生産した子牛の中で、虚弱体質や発育の遅い子牛を肥育して出荷している。叔父である豊氏の高い肥育技術



(図3) 窪田畜産肥育牛出荷頭数、産肉成績の推移

により、肥育期間は長いものの、一般の肥育牛と遜色のない成績が出ている個体もある。令和4年から肥育頭数を増加、肉量、肉質ともに向上し、窪田畜産の売上高の34%を占めるようになった。

虚弱子牛の肥育仕向けに加え、経産肥育にも取り組んでいる。加奈子氏は「痩せたままの子牛、長年働いてくれた母牛をセリ市場に出したくない。最後まで責任を持ちたい」と語っており、その言葉に強い思いと深い愛情が感じられる。

経営理念に「自然と命の恵みに感謝し人と牛を幸せにする！」を掲げみんなで協力し、なにごとにも感謝の気持ちを忘れず命を大切にし家族、地域、関わる全ての人をハッピーにする精神で取り組んでいる。

令和7年8月下旬には、夫婦二人の夢であった直営店をオープンさせた。地域にハッピーを届ける新たな挑戦が始まっている。

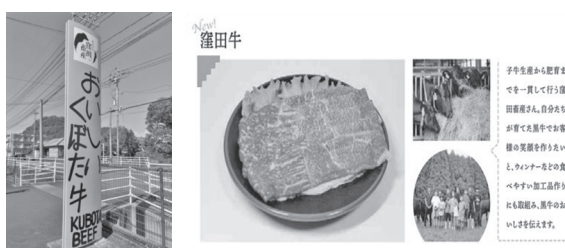


(写真8) 「全国モーモーママちゃんの集い」での活動

【地域のブランド化への貢献】

窪田畜産が生産する「窪田牛」は霧島市、霧島市商工会議所等が参画する霧島ガストロノミー推進協議会が認定する「ゲンセン霧島」の2023年度の6ツ星認定品に認定されており、霧島市の地域ブランド化に積極的に参画している。

また、霧島市が運営する物産館に常設の売り場が確保できるようになり、霧島市の地域振興にも貢献している。



(写真9) 直営店オープン時の看板・ゲンセン霧島6ツ星認定品

【後継者の育成】

毎年、地元農業高校生、農業大学生の長期宿泊研修や国、県職員等の短期技術研修に協力するなど、後継者の育成に尽力している。「研修生は常に受け入れたい」と考えており、地域に根ざした人材育成への熱意が感じられる。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

加奈子氏は始良地域（霧島市、始良市、湧水町）の和牛を飼養する生産農家の女性が令和2年に設立した「始♥LOVE和牛女子」の主要メンバーとして、生産者同士の技術を高めるための研修や、黒牛を消費者に知ってもらうための活動、子供たちへの出前授業など多岐にわたる活動に積極的に参加している。

令和5年には全国で展開する農業女子プロジェクトの鹿児島県代表を務め、地域の仲間とともに女性が働きやすい環境づくり、女性農業者グループの活動支援などに尽力している。令和7年6月に鹿児島県で開催された「全国モーモータマちゃんの集いinかごしま」では、プロジェクトメンバーとして、体験発表をし、自社のポジティブな経営をアピールしている。持ち前の元気さと明るさ、何事にも前向きに真摯に取り組む姿勢は、家族はもちろん周りの人たちを笑顔にさせ、「ポジティブで人をハッピーにする力」を存分に発揮している。

将来の方向性

現状では、頭数を大幅に増やすことはせず、自分たちの目の行き届く範囲（成雌牛500頭）で、徹底した飼養管理を行い、分娩間隔の短縮や生産率の向上を図り、さらに6次産業化の展開による付加価値創出を推進するために、自営販売店や直販チャンネルの整備を通じて、増収を図っていくこととしている。また、将来は繁殖800頭・肥育1000頭規模の一貫経営体制を確立し、相場変動に影響を受けない持続可能な企業づくりを目指していく。



(写真10) 家族一体の写真
中央 敏さん、妻 加奈子さん、
右隣 従兄弟 航さん、右端 敏和さん、
前列 子供たち



これまでの受賞事例（昭和61年度～令和6年度）

全国優良畜産経営管理技術発表会 これまでの受賞事例

※昭和61年度～平成5年度までは「全国優良畜産経営技術発表会」として開催。

平成6年度以降は「全国優良畜産経営管理技術発表会」として開催。

〔昭和61年度〕

開催期日：昭和61年7月28日

開催場所：東京都千代田区一番町 全国町村議会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	花岡 信重	香川県仲多度郡琴平町	肉用牛	肥育経営の精密経営を目指して
優秀賞	和田 八十三	長野県諏訪郡富士見町	酪農	我が家の経営改善と地域の酪農発展を目指して
	入沢 三郎	岡山県真庭郡八束村	酪農	ジャージー牛にかけるわが家の酪農経営
	上田 快晴	高知県高岡郡窪川町	肉用牛	野シバ草地による繁殖牛経営
	山下 正人	長崎県南松浦郡三井楽町	肉用牛	肉用牛専業経営を目ざして
	坂上 光芳	新潟県岩船群神林村	養豚	低豚価時代に対応する私の養豚経営の取り組み
	石田 勝彦	広島県広島市	養豚	父から引き継いだ私の養豚経営
	多田 菊久	京都府宇治市	養鶏	都市近郊における私の採卵養鶏経営の歩み

〔昭和62年度〕

開催期日：昭和62年7月21日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	矢田 栄蔵	島根県出雲市	肉用牛	未利用資源活用による肉用牛繁殖経営の確立（蚕糞、蚕渣、残桑）
優秀賞	渡辺 暁	岩手県胆沢郡金ヶ崎町	酪農	低コスト健全酪農の実践
	木口 源己	大分県大野郡野津町	酪農	低コスト生産を目指した私の酪農
	上路 光男	青森県下北郡東通村	肉用牛	林間放牧による肉用牛の低コスト生産
	山城 善彦	沖縄県国頭郡伊江村	肉用牛	私の肉用牛繁殖経営
	納田 伸春	徳島県板野郡上板町	養豚	養豚経営と地域のコミュニケーション
	末吉 広美	鹿児島県鹿屋市	養豚	養豚一貫経営の安定を目指して
	北川 富蔵	滋賀県神崎郡五個荘町	養鶏	簿記記帳を生かした養鶏経営について

※ 矢田 栄蔵氏は第26回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔昭和63年度〕

開催期日：昭和63年6月30日

開催場所：東京都千代田区二番町 番町グリーンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	宮良 當成	沖縄県八重山郡竹富町	肉用牛	離島における低コスト生産をめざした私の肉用牛経営
優秀賞	工藤 一幸	青森県東津軽郡平内町	酪 農	苦悩15年、そして明日へ（良質粗飼料生産に伴うコスト低減）
	大平賢一郎	新潟県南魚沼郡六日町	酪 農	安定した酪農経営をめざして
	伊藤 幸	宮城県桃生郡桃生町	肉用牛	地域とともに歩む和牛繁殖経営
	若山 巖	岐阜県高山市	肉用牛	私の和牛繁殖経営
	荒牧 弘幸	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛	試練から立直り肉用牛一貫経営（地域・経営内）への挑戦
	小林 秀雄	群馬県前橋市	養 豚	基本に忠実な我が家の養豚経営
	中西 嘉幸	和歌山県有田郡広川町	養 鶏	グループ活動と私のブロイラー経営

※ 宮良 當成氏は第27回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成元年度〕

開催期日：平成元年7月12日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	鈴木 孝則	宮崎県児湯郡新富町	肉用牛	肉用牛の専業農家をめざして
優秀賞	南 雄司	群馬県渋川市	酪 農	経営向上を目指す乳肉複合
	伊東 誠一	大分県宇佐郡安心院町	酪 農	兄弟で築くゆとりある酪農経営をめざして
	富田 重正	滋賀県東浅井郡浅井町	肉用牛	低コスト生産による収益性の向上
	植田 光隆	兵庫県美方郡温泉町	肉用牛	低コストを目指した肉用牛経営に取り組んで
	野尻 健一	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛	肉用牛の共同放牧と投資抑制による低コスト生産への挑戦
	昆野 雅敏	岩手県北上市	養 豚	種雌豚1頭当たり肉豚出荷24頭をめざして
	木村 勝芳	奈良県北葛城郡當麻町	養 鶏	一代でできずいた採卵養鶏経営

※ 鈴木 孝則氏は第28回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成2年度〕

開催期日：平成2年6月29日

開催場所：東京都千代田区永田町 全国町村会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	明見孝一郎	香川県綾歌郡飯山町	肉用牛	合理的な肉用牛肥育経営を目指して
優秀賞	佐久間貴弓	千葉県君津市	酪 農	低コストによる経営の安定を目指して
	高野 守康	群馬県佐波郡東村	酪 農	堅実な向上を目指す酪農経営
	星 正喜	宮城県登米郡迫町	肉用牛	肉用牛一貫経営の確立をめざして
	原田 道明	宮崎県西諸県郡高原町	肉用牛	粗飼料完全自給の肉用牛専業経営実現を目指して
	森本 芳雄	滋賀県蒲生郡安土町	養 豚	精密養豚に取り組んで25年
	中村 正則	岩手県上閉伊郡宮守村	養 鶏	開放鶏舎による山間寒冷地帯のブロイラー生産
	小林 倉雄	神奈川県津久井郡城山町	養 鶏	私の鉄分強化「もみじ卵」の生産販売について

※ 明見 孝一郎氏は第29回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞。

〔平成3年度〕

開催期日：平成3年7月3日

開催場所：東京都千代田区麹町 麹町会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	川村 千里	島根県大田市	肉用牛	自由化に打ち勝つための「川村家の戦略」一牛に学びながら一
優秀賞	泰藤 孝次	広島県賀茂郡福富町	酪 農	飼料作物の共同生産による安定経営をめざして
	山下 英雄	熊本県菊池郡七城町	酪 農	魅力ある酪農経営をめざして
	小松 久平	秋田県由利郡鳥海町	肉用牛	肉用牛一貫経営の定着・安定をめざし奮闘
	中西垣富夫	兵庫県豊岡市	肉用牛	ゆとりある農業を目指して
	阿部 茂昭	山形県酒田市	養 豚	ゆとりある養豚経営を目指して
	上原 章男	埼玉県秩父市	養 豚	魅力の農家養豚を継承して
	講殿 城明	滋賀県高島郡安曇川町	養 鶏	消費者ニーズを重視した私の養鶏経営

※ 川村 千里氏は第30回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成4年度〕

開催期日：平成4年7月1日

開催場所：東京都港区赤坂 三会堂ビル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	平岡 平一	石川県加賀市	養 鶏	アイデアを生かした堅実な養鶏経営
優秀賞	田中 久一	青森県東津軽郡平内町	酪 農	酪農生産技術の向上と経営安定に取り組んで一牛群検定成績を利用して一
	森島 定彦	岐阜県海津郡平田町	酪 農	河川敷草地を有効活用した酪農経営
	藤原 隆博	香川県観音寺市	肉用牛	一貫肥育経営で肉質向上をめざして
	甲斐 知博	大分県大野郡野津町	肉用牛	肉用牛の繁殖専業経営にかける
	平沢 良治	茨城県結城市	養 豚	規模拡大による養豚経営の安定を目指して
	斉藤 春敏	新潟県西蒲原郡巻町	養 豚	経営診断と共に歩む我家の経営
	葉山 義高	奈良県香芝市	養 鶏	産地直送による採卵経営

※ 平岡 平一氏は第31回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成5年度〕

開催期日：平成5年7月6日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	万庭 正勝	岡山県真庭郡八束村	酪 農	ジャージーに夫婦の夢とゆとりを求めて一脱サラ、33歳からの出発一
優秀賞	小関 徳男	宮城県柴田郡川崎町	酪 農	魅力ある「楽農」を目指して！
	内田 清文	三重県三重郡菰野町	酪 農	草作りで酪農経営の安定を目指して
	松田 典房	熊本県菊池郡合志町	酪 農	激動期を勝ち抜く一貫した堅実酪農経営を通して一
	藪内千恵子	兵庫県洲本市	肉用牛	繁殖和牛にロマンを託した女性の多頭経営
	山岡 正美	広島県高田郡美土里町	肉用牛	繁殖地域の中で取り組む肥育経営
	昆野 先男	岩手県北上市	養 豚	手づくりハム・ソーセージ加工を取り入れた農家養豚経営一家族労働力主体による地場産品化への挑戦一
	桜井富佐子	新潟県北魚沼郡広神村	養 豚	養豚後継者の道を選んで

〔平成6年度〕

開催期日：平成6年7月6日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	河合 将夫	岐阜県武儀郡上之保村	肉用牛	肉用牛一貫経営の定着、安定を目指して
優 秀 賞	瀧瀬 成喜	北海道野付郡別海町	酪 農	放牧新技術の導入による高収益経営の確立
	大上 浩也	広島県佐伯郡湯来町	酪 農	週休2日のゆうゆう酪農
	江藤 務	大分県宇佐郡安心院町	肉用牛	自由化の中「築きあげた夢の農業経営」を家族で守りぬくために

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	福元 和典	鹿児島県肝属郡高山町	養 豚	家族でささえるわが家の養豚経営
優 秀 賞	塩月 哲司	大分県南海部郡蒲江町	養 豚	ゆとりある養豚経営をめざして
	原 秀治	滋賀県彦根市	養 鶏	生産から販売まで地域密着型の経営
	笠原 勢一	徳島県名西郡神山町	養 鶏	山間傾斜地を利用したブロイラー専業経営の確立

※ 河合 将夫は第33回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成7年度〕

開催期日：平成7年7月6日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	東 義秋	熊本県阿蘇郡西原村	肉用牛	農業は面白い！ーあか牛で豊かな生活ー
優 秀 賞	樋口 一彦	山形県西置賜郡白鷹町	酪 農	創意工夫、発想の転換で築いた酪農専業経営
	興 勝幸	鹿児島県熊毛郡中種子町	酪 農	寄いらいき（相互扶助の心）で支える酪農経営の展開
	志賀チヨ子	大分県直入郡久住町	肉用牛	豊かな地域資源を生かした低コスト子牛生産

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	影山 和夫	栃木県下都賀郡藤岡町	養 豚	低コスト化と省力化へのチャレンジ
優 秀 賞	佐々木章一	宮城県登米郡豊里町	養 豚	系統豚「ミヤギノ」利用をした銘柄化に取り組んで
	金城 栄	沖縄県浦添市	養 豚	飼育基本を忠実に守り高所得を目指す養豚経営
	山田 衛	滋賀県大津市	養 鶏	地域周辺の宅地化に適合した採卵経営

〔平成8年度〕

開催期日：平成8年7月3日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	小松 正幸	高知県香美郡野市町	酪 農	住宅化が進行する中での効率的酪農経営を目指して
優 秀 賞	吉沢 和幸	長野県南佐久郡南牧村	酪 農	開拓地にはばたく、酪農親子鷹（親子三代にわたる酪農経営）
	落合 雄二	広島県比婆郡高野町	肉用牛	地域に根ざした和牛繁殖経営
	和気 修	愛媛県東宇和郡野村町	肉用牛	国際化に対応できる肉用牛経営の確立をめざして

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	有限会社清水養鶏場 清水 茂	静岡県静岡市遠藤新田	養 鶏	ブランド卵『美黄卵』で2.5倍の売上げ一直売所を養鶏場の顔としてー
優 秀 賞	立崎 明彦	青森県上北郡上北町	養 豚	夢はふくらむー自立養豚を目指して20年ー
	松沢 武弘	秋田県平鹿郡平鹿町	養 豚	地域農業と一体となって推める養豚複合経営
	村上 義満	高知県宿毛市橋上町	養 豚	生きのこりをかけての養豚経営

※ 有限会社清水養鶏場は第35回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成９年度〕

開催期日：平成９年７月２日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	中島 薫	佐賀県武雄市	酪 農	1万kgへの道のり
優 秀 賞	河又 潤	栃木県芳賀郡茂木町	酪 農	改良に夢をのせて
	中曽 謙二	広島県三次市	肉用牛	脱サラを決め農畜産業へ
	黒木 誠	宮崎県児湯郡都農町	肉用牛	生産性を重視した低コスト肉用牛一貫経営

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	芦沢 益彦	山梨県南巨摩郡増穂町	養 鶏	消費者と共に歩む採卵養鶏
優 秀 賞	高畑 孝市	石川県能美郡根上町	養 豚	地域との調和をめざすわが経営
	佐藤 弘子	長野県飯山市	養 豚	無我夢中で進んだ私の養豚経営－水害を乗り越えて－
	掛川銘柄豚振興協議会	静岡県掛川市	養 豚	ひと味ちがったおいしさ自慢！銘柄豚「かけがわフレッシュポーク」

※ 大家畜部門最優秀賞 中島 薫 氏は平成１０年度畜産大賞経営部門特別賞を受賞。

〔平成１０年度〕

開催期日：平成１０年９月２５日

開催場所：東京都目黒区大橋 こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	島仲 治伸	沖縄県八重山郡竹富町	肉用牛	親から受け継いだ牛飼いの道－放牧による低コスト経営を目指して－
優 秀 賞	千葉 正勝	岩手県下閉伊郡岩泉町	酪 農	草作り、牛作りで低コスト生産
	村田 信雄	富山県富山市	肉用牛	粗飼料自給率１００％を達成している大型肉用牛肥育経営
	瓜生 貞之	福岡県嘉穂郡筑穂町	肉用牛	自給飼料利用による良質牛肉の生産

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	山口 一広	愛知県宝飯郡御津町	養 豚	地域に融合した持続的養豚経営
優 秀 賞	山本 郁夫	群馬県吾妻郡中之条町	養 豚	土壌菌を利用し、悪臭防止と良質堆肥の生産を図り、地域密着型養豚経営を目指す
	原 幸雄	滋賀県彦根市	養 鶏	家族で築いた小規模企業型養鶏
	池端 武一	奈良県北葛城郡広陵町	養 鶏	消費者との対面販売を主体に精密管理を実践した採卵鶏経営

※ 大家畜部門最優秀賞 嶋中 治伸 氏は第３８回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）、平成１１年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成１１年度〕

開催期日：平成１１年１０月１５日

開催場所：東京都千代田区九段南 九段会館

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	前田 美雪	宮崎県都城市	肉用牛	女性でもやれる肉用牛繁殖１００頭経営－合理的経営で若者の夢を実現－
優 秀 賞	柳沢 明義	長野県木曽郡木祖村	酪 農	私の酪農人生－やればできる粗飼料１００％の山間地酪農－
	川合 省吾	岡山県真庭郡八束村	酪 農	自給飼料の高位生産利用による酪農安定経営の確立
	北崎 敏文	大分県豊後高田市	肉用牛	集落営農の中核的農家の肉用牛繁殖経営

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	七尾 久美	北海道北広島市	養 豚	ゆとりある生活をエンジョイする養豚経営
優 秀 賞	相馬 政春	新潟県新発田市	養 豚	夫婦で築く精密養豚経営
	川満 一郎	沖縄県沖縄市	養 豚	地道に築いてきた養豚経営
	清水 洋	大阪府茨木市	養 鶏	小規模でも工夫次第－企画と実践で儲かる養鶏経営－

※ 大家畜部門最優秀賞 前田 美雪 氏は平成１２年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成12年度〕

開催期日：平成12年10月13日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	川名 正幸	千葉県館山市	酪 農	循環型酪農をめざして －自給飼料生産基盤拡大、環境保全、計数管理のトータルマネジメント－
優 秀 賞	峯野 孝	静岡県引佐郡引佐町	肉用牛	牛を通じて人と自然の調和した経営を目指して －経営に携わる人々が畜産によって潤い、発展することを理想とする－
	洲上 吉隆	佐賀県杵島郡江北町	肉用牛	F1肥育で高品質牛肉生産がもたらす高所得・安定経営
	黒木 輝也	宮崎県西都市	肉用牛	“計り”と“パソコン”により、飛躍した肥育経営 －夫婦2人の経営努力の経緯－

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	北栄産業有限会社 市村 栄宗	石川県羽咋郡押水町	養 鶏	衛生管理と生産性向上を追求する環境保全型養鶏
優 秀 賞	生越 利男	新潟県十日町市	養 豚	夫婦で築く低コスト養豚経営
	有限会社協和養豚 黒藪 光廣	岡山県勝田郡奈義町	養 豚	地域との連携による養豚繁殖・肥育一貫経営の安定化
	有限会社三田鶏園 三田 悌二	栃木県足利市	養 鶏	嘘のないおいしい卵を生産（直売歴18年、売れる量だけ生産すること）

※ 大家畜部門最優秀賞 川名 正幸 氏は第40回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）、平成13年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

※ 中小家畜部門最優秀賞 北栄産業有限会社 市村栄宗 氏は第40回農林水産祭天皇杯（畜産部門）、平成13年度畜産大賞および経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成13年度〕

開催期日：平成13年10月19日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	小 原 春 美 美 鈴	大分県速見郡山香町	酪農	三代続く本物の酪農経営
優 秀 賞	青 木 雄 治 佐知子	埼玉県大里郡妻沼町	酪農	「牛づくり、草づくり、土づくり」日本一の酪農経営を目指して
	山 下 芳 明 広 子	鳥取県東伯郡大栄町	酪農	地域と共に歩む酪農経営
	池 田 寛 富美子	岡山県津山市	肉用牛繁殖	水田基盤に立脚した肉用繁殖雌牛100頭規模経営の確立を目指して

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	有限会社晶中有雛場 晶 中 兼 雄	福岡県嘉穂郡潁田町	育雛 採卵	経営を育雛から採卵・直売と多角化し、高付加価値化商品の開発とインターネットなどを活用した販売の取り組み
優 秀 賞	農事組合法人三沢農場 山 崎 伸	青森県三沢市	養豚	地元食肉処理センターを核としたセーフティーボークの安定生産と流通をシステム化した大規模経営
	黒 木 章 夫	宮崎県日向市	養豚	生産技術の確立により高所得経営へ！～負債農家からの脱却～
	有限会社杉山養鶏場 杉 山 哲 朗	静岡県御殿場市	採卵鶏	親しまれて、こだわりの「小さなタマゴやさん」 －安全・安心・愛情一杯・もう一度行きたい店を目指した23年の軌跡－

※ 大家畜部門最優秀賞 小原 春美・美鈴 氏は第41回農林水産祭天皇杯（畜産部門）、平成14年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

※ 中小家畜部門最優秀賞 有限会社晶中有雛場 晶中 兼雄氏は平成14年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成14年度〕

開催期日：平成14年11月18日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	藤 岡 数 雄 藤 岡 美江子	鹿児島県曽於郡大崎町	肉用牛繁殖	「低コスト化」追求で安定経営を築く子牛生産 ー楽しい牛飼いは人生を息子たちにー
優 秀 賞	木 戸 卓 仁 木 戸 和 子	兵庫県宝塚市	酪農・ 肉用牛肥育	20年後も、酪農家であり続けるために ー地域ブランドに支えられ、都市近郊で展開する乳肉複合メガファームー
	奥 野 吉 雄 奥 野 アキエ	宮崎県小林市	酪農	西南暖地に根付かせた堅実な酪農経営 ー自家育成の改良と自給粗飼料の確保ー
	白 岩 修	愛媛県北宇和郡三間町	肉用牛肥育	家族経営を核とした地域一貫経営体制によるF1生産への挑戦

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	有限会社小林ファーム 小 林 勝 彦	三重県亀山市	養豚	消費者との交流と声が育てる養豚経営
優 秀 賞	長崎県開拓農協南部種豚 改良組合「紅葉会」	長崎県西彼杵郡多良見町	養豚 グループ活動	“雲仙うまか豚「紅葉」”小さな養豚集団が成し遂げた地場消費の拡大と銘柄定着
	農業生産法人黒富士農場 向山 茂徳	山梨県中巨摩郡敷島町	養鶏	消費者と環境保全を重視する採卵養鶏

※ 大家畜部門最優秀賞 藤岡 数雄・藤岡 美江子 氏は第42回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成15年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成15年度〕

開催期日：平成15年11月7日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	大矢根 督	北海道網走郡津別町	酪農	放牧等自給飼料の高度利用による高収益家族酪農経営 ー土づくり・草づくりを基本としたゆとりある中規模酪農経営ー
	長友 明 長友 真理子	宮崎県宮崎市	肉用牛繁殖	遊休地を活用し経営規模拡大を目指す都市近郊肉用牛経営 ー「頭と体を使うと肉用牛経営は儲かる」を夢にー
	有限会社 大窪養豚	鹿児島県肝属郡高山町	養豚	自信と責任もてるブランド「かごしま黒豚」の生産をめざして
	株式会社 地主共和商会	三重県多気郡勢和村	採卵鶏	常に新しい夢にチャレンジ ー若者に魅力のある自作農家になりたいと願ってー
優秀賞	山之内 浩一	新潟県北魚沼郡広神村	酪農	親子2代で築いた豪雪地域に根ざす安定酪農経営
	高橋 英雄 高橋 ナミ	大分県玖珠郡玖珠町	肉用牛繁殖	夢がかなった肉用牛繁殖経営 ー増頭の道しるべとなるー
	菅原 健一 菅原 宏子	新潟県村上市	肉用牛肥育	妻と二人で築いた「村上牛」と「岩船米」作りの複合農業
	桜井 富佐子	新潟県北魚沼郡広神村	養豚	名物かあちゃんと家族で築く低コスト養豚経営
	日野出畜産 有限会社	愛媛県八幡浜市	養豚	“こだわり”の豚肉生産を目指して
	有限会社 北群ファーム	群馬県利根郡新治村	採卵鶏	規模拡大を山間地に求め創意工夫で難局を克服
	森長 克忠 森長 真弓	徳島県名西郡神山町	肉用鶏	地域と調和した山間地域での養鶏経営
	有限会社オコッペ フィードサービス	北海道紋別郡興部町	酪農 グループ活動	生産現場の知恵と意志が家族経営の限界をやぶった ー有限会社オコッペフィードサービスの実践ー

※ 大矢根 督 氏は第43回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞。

※ 長友 明・長友 真理子 氏は第43回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞(畜産部門)、平成16年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成１６年度〕

開催期日：平成１６年１０月２９日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	遠藤 昭男 遠藤 美智子	北海道標津郡中標津町	酪農	フリーストール方式の効率的な自給飼料活用によるゆとりある高収益経営
	石賀 博和 石賀 恵子	岡山県真庭郡川上村	肉用牛繁殖	地域資源を生かした低コスト肉用牛繁殖経営
	有限会社 大隅ポーク	鹿児島県曽於郡大隅町	養豚	高い生産性・収益性を生む養豚経営の実践
	有限会社 旭養鶏舎	島根県大田市	養鶏	採卵養鶏一途に３５年 ーコスト削減より安心安全な鶏卵生産を目指してー
優秀賞	有限会社フジタファーム	新潟県西蒲原郡岩室村	酪農	排畜連携による地域一体型農業の推進で食の安全と本物の味を消費者へ ～水田探索地域における酪農経営への展開方策～
	原澤 典雄 原澤かよ子	群馬県利根郡新治村	肉用牛繁殖	夏山・冬里方式の導入で「ゆとりある繁殖複合経営」の実現 ～放牧で得られた余剰労力を他部門に活かした和牛繁殖経営～
	手塚 正 手塚 優子	栃木県塩谷郡氏家町	肉用牛肥育	安心、安全な牛肉を低コストで消費者へ
	酒井 和昭 酒井 陽子	埼玉県大里郡岡部町	肉用牛肥育	兄弟で取り組む地域農業循環型肉用牛肥育経営
	村田 信雄 村田 秋美	富山県富山市	肉用牛肥育	大規模稲作との複合を目指す肉用牛経営
	有限会社gezunt農場	北海道虻田郡豊浦町	養豚	gezunt！ーおいさと安全への熱い思い 法人化、SPF化、そして、緻密な飼養管理と徹底した計数分析による、高位生産性と安定経営の実現、さらに、「gezunt農場産SPFポーク」の実現
	横田 清廣 横田サチ子	長崎県南高来郡深江町	肉用鶏	家族経営によるゆとりある肉用鶏専業経営 ～家族経営協定でサラリーマンを超える所得の実現～
	はぐくみ農業協同組合 国府酪農部	群馬県群馬郡群馬町	組織 グループ活動	完全協業システムを取り入れた自給飼料生産と合理的分配方式 ～地域に根づいた都市近郊畑作地帯の自給飼料給与型酪農の実践～

※ 石賀 博和・石賀 恵子 氏は第４４回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成１７年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

※ 遠藤 昭男・遠藤 美智子 氏は第４４回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞。

※ 有限会社 大隅ポーク は第４４回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞(畜産部門)、平成１７年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成１７年度〕

開催期日：平成１７年１０月２０日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	柴田 輝男 柴田 誠子	秋田県由利本荘市	酪農	地域社会と調和しながら確立した草地型酪農
	佐藤 貢 佐藤 雪子	北海道沙流郡平取町	肉用牛一貫	自給飼料を最大限に生かし、省力管理によって黒毛和種の大規模一貫経営を確立した家族経営
	三留 武	神奈川県三浦郡葉山町	肉用牛肥育	資源循環型環境にやさしい高級牛肉生産！
	有限会社 横山養豚	神奈川県横浜市	養豚	都市と共存できる養豚経営の確立
優秀賞	農事組合法人 箸荷牧場	兵庫県多可郡加美町	酪農	農村活性の町、「加美町」の中心で“農業振興”をさげぶ！！ ～地域農業の担い手のリーダーとして～
	有限会社 小野田牧場	愛媛県西予市	酪農	地域農業とともに歩む放牧を利用した酪農経営
	農業生産法人 有限会社 大海	沖縄県宮古島市	肉用牛繁殖	宮古地域の肉用牛振興を担う、先進的肉用牛繁殖経営
	漆間 平 漆間 マリ子	新潟県村上市	肉用牛肥育	和牛を肥育して32年・最愛の人にありがとう
	本宮 環 本宮 章加	愛媛県今治市	肉用牛肥育	地域と密着した肉用牛一貫経営の取組み ～酪農家・耕種農家との連携～
	有限会社 ブラウンエッグファーム	長野県佐久市	採卵鶏	日本で一番笑顔のあふれるたまご屋をめざして
	山下 盛通 山下 恵美子	三重県松阪市	採卵鶏	地域と共に歩む養鶏経営
	農事組合法人 尾鈴豚友会	宮城県児湯郡川南町	養豚 グループ活動	飼料事業の共同化をバネに高生産性・安定経営に成長した尾鈴豚友会グループ

※ 柴田 輝男・柴田 誠子 氏は第４５回農林水産祭天皇杯(畜産部門)を受賞。

※ 佐藤 貢・佐藤 雪子 氏は第４５回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞(畜産部門)を受賞。

〔平成18年度〕

開催期日：平成18年11月2日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	佐藤 智好 佐藤 さくら	北海道足寄郡足寄町	酪農	多額負債からの脱却と「ゆとり」経営の確立
	田口 正一	新潟県長岡市	肉用牛肥育	借入金ゼロに向かって努力を続けてきた和牛肥育経営
	有限会社 中村牧場	佐賀県唐津市	肉用牛肥育	「佐賀牛」の低コスト生産プロジェクト
	有限会社 富田養鶏場	愛知県豊橋市	採卵鶏	One & Only のたまごを目指して －HACCPに基づいた生産・販売一貫システムの確立－
優秀賞	松原 久美 松原 たみえ	岩手県岩手郡雫石町	酪農	持続的酪農と6次産業化プランで高位安定経営を実現
	土屋 貴志	長野県上水内郡信濃町	酪農	私の酪農経営 －楽で自由でおもしろい酪農経営をめざして－
	久保 峰夫 久保 富士子	広島県広島市	酪農	量より質を －プライベート・ブランド「久保峰夫牛乳」の生産－
	藤原 久義	徳島県三好市	肉用牛繁殖	山地の急傾斜地を放牧利用した和牛繁殖経営
	齋藤農園	群馬県前橋市	養豚	混住化地域で環境に配慮した黒豚生産と地域に根ざした養豚経営
	有限会社 白井農産	神奈川県厚木市	養豚	安心して美味しく食べられる豚肉生産
	中条 健	新潟県燕市	養豚	地域の若手リーダーとして魅力ある養豚経営と活性化を目指して
	富永 治 富永 悦子	愛知県喜多郡内子町	養豚	家族で行う地域と一体化したSPF養豚経営

※ 有限会社 富田養鶏場は第46回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成19年度〕

開催期日：平成19年11月2日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラルホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	小林 治雄 小林 富士子	北海道中川郡中川町	酪農	家族で楽しむ酪農生活 ー持続可能なシンプル経営ー
	増田 純一 増田 哉枝	宮崎県宮崎郡清武町	肉用牛繁殖	33年をかけ多頭経営を築き上げたモデル的肉用牛繁殖経営 ～極めて堅実な経営方針こそ着実な増頭につながる～
	農事組合法人 松永牧場	島根県益田市種村町	肉用牛一貫	国内食品残渣を活かした大型畜産経営の確立
	有限会社石井養 豚センター	徳島県名西郡石井町	養豚経営	生産効率よりも品質にこだわった養豚一貫経営
優秀賞	戸辺 久夫 戸辺 まちよ	茨城県久慈郡大子町	酪農	夢を求めて
	新海 益二郎 新海 尚子	長野県南佐久郡南牧村	酪農	私の酪農経営 ～ 家族を愛し、乳牛と共に歩む ～
	弓削牧場	兵庫県神戸市北区山田町	酪農	「論より食！ 農場で人を癒す、都会の牧場を現代の桃源郷に!!」 チーズづくりで切り開いた市街地の酪農経営
	有限会社 グリーンスト ック八幡	大分県玖珠郡玖珠町	肉用牛繁殖	コントラクターで地域を支え飼料の完全自給を目指す肉用牛経営
	山城畜産組合	沖縄県国頭郡伊江村	肉用牛繁殖	親子三代で築いた、肉用牛繁殖経営 ～地域特性に根ざした経営を目指して～
	有限会社 江 原養豚	群馬県高崎市上滝町	養豚	The 無投薬豚へのチャレンジ《抗生物質・合成抗菌剤完全不使用》 ー「次世代に贈ります」健やかなライフスタイルと信頼を！ー
	吉澤 博文	新潟県南蒲原郡田上町	養豚	高い生産技術と営業努力が実を結んだ養豚経営
	村田 重則 村田 里枝	石川県七尾市能登島別所町	養豚	地域ぐるみで耕畜連携を推進する養豚経営

※ 農事組合法人 松永牧場は第47回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成20年度〕

開催期日：平成20年11月7日

開催場所：東京都港区虎ノ門 虎ノ門パストラルホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	鷲頭 栄治 鷲頭 洋子	大分県玖珠郡	肉用牛 繁殖	経営条件を活かした肉用牛から6次産業への展開 〔肉用牛を基盤とした農家レストランなどの取り組み〕
	有限会社 藤原牧場	宮崎県児湯郡	肉用牛 肥育	地域資源活用型／低コスト肉用牛肥育経営 ～飼料価格高騰に対応するモデル的な取り組み～
	株式会社 南勢養鶏	三重県度会郡	採卵鶏	地域に根ざした採卵経営の実践 ～地元で生まれ育った信頼の経営～
	有限会社 熊野養鶏	愛媛県四国中央市	採卵鶏	「元気な鶏から最高のたまごが生まれる」をモットーに直販の実践
優秀賞	菊地 光男 菊地 イチ	北海道厚岸郡	酪農	大好きな牛飼いを次世代へとつなぐ ～パートナーと牛たちにやさしい酪農をめざして～
	細越 真利雄	長野県南佐久郡南牧村	酪農	酪農経営の高位安定へ向けた取り組み
	二若 信彦	岡山県真庭市	酪農	遊休農地を活用したジャージー牛経営 ー高品質牛乳生産ー
	八木山草地利用組合 渡辺 徹	新潟県東蒲原郡	肉用牛 繁殖	共同作業を基盤とした畜産基地入植者の和牛繁殖経営 ～地域農業活性化に向けた大きな役割を担って～
	大坪 操 大坪 秀子	佐賀県佐賀市	肉用牛 繁殖	酪農経営からの肉用牛経営への転換 ～「か・き・く・け・こ」の 実践～
	UKUカーフクラブ	長崎県佐世保市	肉用牛 繁殖	牛が主人公の島づくり 人口哺乳による多頭化と発育の向上を目指して
	有限会社マルナガファ ーム	島根県江津市	養豚	生産性（繁殖成績）向上で堅実な養豚一貫経営 ～適材適所でモチベーションアップ～
	株式会社 オクノ	兵庫県加古川市	採卵鶏	「信頼と絆」で広がる地産地消の輪 ～生産者主導の販売展開による100%有利販売の実現～

※ 鷲頭栄治・洋子夫妻は第48回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成21年度〕

開催期日：平成21年11月2日

開催場所：東京都文京区湯島 東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	生駒 一成 生駒 薫	岐阜県加茂郡富加町	酪農	ゆとりある乳肉複合経営を目指して！！
	松崎 隆 松崎 まり子	岡山県岡山市	酪農	今の私たち、酪農家冥利に尽きます！ ～市街化が進む中、土地循環型酪農で目指した地域のオアシス～
	有限会社 金子ファーム	青森県上北郡七戸町	肉用牛 肥育	地域と共存した資源循環型大規模畜産への挑戦 ～『三方良し』（消費者・生産者・地域社会）の商人道精神に根ざし て～
	曾山 文彦 曾山 照代	宮崎県西諸県郡高原町	養豚	人工授精技術を取り入れたモデル的養豚経営 ～家族で育てる「我が子」豚～
優秀賞	久保 隆幸 久保 美恵子	北海道紋別郡湧別町	酪農	地域に根ざした家族酪農 ～自然体で高レベル経営を実現～
	高田 茂 高田 静子	埼玉県児玉郡上里町	酪農	乳質改善と乳牛改良を求めて ～都市近郊型酪農経営で行う粗飼料生産～
	須藤 裕紀 須藤 陽子	千葉県館山市	酪農	創り出す喜び・まきばライフ ～未来へChallenge～
	神田 豊広 神田 麻子	新潟県阿賀野市	酪農	優れた生産技術が生み出す高品質牛乳の直販を取り入れた酪農経営
	吉井 英之	兵庫県朝来市	酪農	生乳の加工直販主体の新たな酪農経営を切り拓く！ ジャージー牛10頭の牧場で売上高4千万円の酪農経営
	大松 修二 大松 法子	徳島県阿波市	酪農	飼料生産基盤の脆弱な地域における「安定とゆとり」を追求した酪農 経営
	株式会社 多田ファーム	愛媛県大洲市	養豚	苦境に打ち勝つ養豚経営 ～枝肉出荷2000kgを目指して～
	有限会社 鈴鹿ポーター	三重県鈴鹿市	採卵鶏	低炭素社会に向けた養鶏モデル経営の挑戦

※ 松崎隆・まり子夫妻は第49回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成22年度〕

開催期日：平成22年11月8日

開催場所：東京都港区芝公園 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	榛澤 保彦 榛澤 恵美子	北海道釧路市	肉用牛 一貫	未利用資源の活用と「土-草-牛」が調和して高い飼料自給率を実現した、環境にやさしい牛肉生産の取り組み
	大井 幸男	岐阜県羽島市桑原町	酪農	データを活用した経営改善 高次元の経営をめざす！！ ～経営改善から生まれた「ゆとり」を地域貢献に活かす～
	株式会社 西垣養鶏場	兵庫県豊岡市但東町	採卵鶏	「本当に美味しい農産物を消費者に届けたい！」 地域農産物の6次産業化で過疎化地域の活性化を図る 山の中の行列店 ” たまごかけご飯専門店「但熊（たんくま）」
	有限会社 黒木養豚	鹿児島県肝属郡肝付町	養豚	高い生産性・収益性の実践と多様なニーズに応えられるかごしま黒豚の生産を目指して
優秀賞	有限会社 リゲルファーム	北海道紋別郡遠軽町	酪農	地域資源を万遍なく利用して、地域に適合して地域に優しい、地域と歩む大型酪農経営の展開
	渡辺 健介 渡辺 恵子	福島県伊達郡川俣町	肉用牛 繁殖	遊休資源を活かした中山間地域における私の「肉用牛繁殖経営」5カ 年のあゆみ！ ～0頭からの増頭戦略～
	有限会社 三喜鶏園	群馬県高崎市下里見町	採卵鶏	こだわりのたまごで挑んだ6次産業化 ～卵価に左右されない安定経営を目指して～
	関 克史	新潟県長岡市	肉用牛 一貫	新潟県中越地震からの復興への道のり ～美しい故郷で日本一の牛作りを目指して～
	網野 一雄 網野 喜久美	長野県伊那市	酪農	親から子へ ゆとりと資源循環型の酪農経営をめざして
	有限会社 河井ファーム肉よし	三重県志摩市阿児町	養豚	美味しさは健康な豚から、安全は基本に忠実な防疫意識から ～地元で愛される豚肉『パールポーク』に夢を託して～
	有限会社 関紀産業	大阪府泉佐野市	養豚	家族・仲間と築くエコブランド豚「川上さん家（ち）の犬鳴豚（いぬなきぶた）」
	永禮 淳一 永禮 明美	岡山県津山市	酪農	改革の序章 粗飼料地産地消への大転換 ～ 0 → 100 （零から百へ） ～

※ 株式会社 西垣養鶏場は第50回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 有限会社 黒木養豚は第50回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成24年度〕

開催期日：平成25年3月7日

開催場所：東京都港区芝公園 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜種	タイトル
最優秀賞	有限会社広野牧場	香川県木田郡三木町	酪農	経営管理の徹底による超効率経営でゆとりと地域活性化を実現
	関 克史	新潟県長岡市	肉用牛 一貫	震災を乗り越えた若き牛飼いの道のり ～美しい故郷で日本一の牛作りを目指して～
	有限会社哲多和牛牧場	岡山県新見市	肉用牛 一貫	地域資源フル活用で、地域を支える肉用牛牧場
	横田 清廣 横田 サチ子	長崎県南島原市	肉用鶏	雲仙普賢岳噴火災害で全てを失うが再起を誓い、 家族の経営参画で3億円を売り上げる
優秀賞	株式会社T・ユニオンデリー	福島県本宮市	酪農	T・から始める酪農 ―原発事故によって浜通りから中通りに経営移転―
	有限会社安瀬平牧場	広島県三次市	酪農	新規就農を支援する酪農経営 ―新たな経営継承にむけての一つの手法―
	高原 和光	長崎県南島原市	酪農	雲仙普賢岳噴火災害から共同で農用地を集積し酪農を再開
	埼玉県武州和牛組合	埼玉県本庄市	肉用牛 グループ	強力なリーダーシップと地域仲間の信頼で作り上げた埼玉ブランド 「武州和牛」
	大吉商店株式会社	滋賀県高島市	肉用牛肥育	地域資源を有効活用し、地域から世界に羽ばたく
	有限会社中野目畜産	福島県西白河郡泉崎村	養豚	地域の養豚経営と歩んだ復興 ―自身の農場再建の取り組みや食肉製品販売店舗が直面した課題と被災地域の活性化に向けた活動など―
	新生養豚プロジェクト協議会	宮城県児湯郡川南町	養豚 グループ	『特定疾病フリー』で新しい産地を目指す『新生養豚プロジェクト協議会』の取り組み
	株式会社会津地鶏ネット	福島県会津若松市	養鶏 グループ	原発事故による風評被害からの脱却を目指す会津地鶏

※ 横田清廣・サチ子夫妻は第52回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成25年度〕

開催期日：平成26年3月26日

開催場所：東京都千代田区 日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	村山 昭雄 村山 裕子	北海道足寄郡足寄町	酪農	苦農から酪農（楽農）への道のり ―酪農歴50年を目指して―
	佐藤 宏弥 佐藤 博子	茨城県常総市	肉用牛 一貫	水田活用で広がるドリームファームの歩み ―『常陸牛』率100%の一貫経営―
	向 靖弘	広島県神石郡神石高原町	肉用牛 一貫	自分の肥育素牛は自分で造る。肥育経営から始める、和牛繁殖・肥育 一貫経営
	有限会社鈴木養鶏場	大分県速見郡日出町	採卵鶏	人・鶏・環境いやさしい経営による地域農業の活性化を目指して
優秀賞	村田 一浩 村田 美幸	北海道広尾郡足寄町	酪農	「草から搾る」をモットーに経営収支を改善 ―既存経年チモシー牧草地へのペレニアルライグラス追播による草地植生改善―
	佐藤 弘	秋田県雄勝郡羽後町	肉用牛 繁殖	耕畜連携による粗飼料生産が経営改善の糸口になる
	有限会社 三重カドワキ牧場	三重県四日市市	肉用牛 肥育	カドワキ流肉用牛一貫経営 ―4本の矢で父の遺志を受け継ぐ6次化への道―
	有限会社 社中村ファーム	長野県千曲市	養豚	環境問題に取り組みながら HACCP を取り入れた、私の養豚経営

※ 佐藤宏弥・博子夫妻は第53回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成26年度〕

開催期日：平成26年11月14日

開催場所：東京都千代田区 日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	佐藤 匠	秋田県大仙市	肉用牛 繁殖	飼養管理技術の確立と資源循環型畜産への取り組み
	有限会社 星種豚場	栃木県那須郡那賀川町	養豚	消費者ニーズを重視した種豚改良と、そこから派生した六次化への取り組み
	東の匠 SPF 豚研究会	千葉県香取郡東庄町	養豚	安全安心を届ける新ブランド肉豚で町おこし ―大利根の大地が育んだ豚「東の匠 SPF 豚」―
	アルム 株式会社	岡山県赤磐市	採卵鶏	養鶏事業の多様性を切り拓く！（人とたまごの未来づくり）
優秀賞	有限会社 渡辺ファーム	宮城県角田市	酪農	東日本大震災からの復興、そして次の世代へ...
	合同会社 久井高原牧場	広島県三原市	酪農	第三者継承による安定した酪農経営の継続
	長興 和則 長興 輝代	長崎県東彼杵郡波佐見町	肉用牛 肥育	中山間地域における手作り牛舎による低コスト肥育経営の実践
	有限会社 松葉ビッグファーム	三重県いなべ市	養豚	昭和の庭先養豚から平成の6次産業化への道 ～親から受け継ぎ、子に引き継いだ養豚経営～
特別賞	長谷部将一	宮崎県児湯郡高鍋町	肉用牛 一貫	銘柄牛肉への取り組みと口蹄疫からの復興・再生

※ 有限会社 星種豚場は第54回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成27年度〕

開催期日：平成27年11月12日

開催場所：東京都千代田区 日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	株式会社竹信牧場	岡山県笠岡市	酪農	干拓地におけるトウモロコシ二期作生産による大規模酪農への挑戦
	黒木 松吾 黒木 小夜子	宮崎県串間市	肉用牛 繁殖	アンテナ高く、垣根は低く、一歩先を行く攻めの経営
	有限会社コマクサファーム	岩手県八幡平市	養豚	マルチサイトシステム
	農事組合法人 会田共同養鶏組合	長野県松本市	採卵鶏	環境のふるさと作りを目指した養鶏 ―目標：農業を営んで人生の意義と幸福を体得する！―
優秀賞	安達 政弘 安達 敏子	茨城県笠間市	肉用牛 肥育	高度な管理で臨む常陸牛生産 (経営管理で未来を見つめる)
	有限会社細川農興	秋田県横手市	養豚	繁殖技術改善による繁殖成績の向上
	有限会社 一志ピ ックファーム	三重県津市	養豚	「日本一美味しい豚肉の創造で共に幸せになる」をモットーに
	有限会社大成畜産	鹿児島県曽於市	養豚	地域ブランド認証品目の産地形成確立と信頼される「美味豚の探求」

※ 農事組合法人 会田共同養鶏組合は第55回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

※ 有限会社 コマクサファームは第55回日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成28年度〕

開催期日：平成28年11月22日

開催場所：東京都港区芝公園 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	守谷 学 守谷 恵里	北海道宗谷郡猿払村	酪 農	後輩農業者を育てながら、自給飼料を生かした先進的酪農経営に挑む ―放牧を取り入れたフリーストール酪農の実践―
	有限会社 高秀牧場	千葉県いすみ市	酪 農	中山間地域における国産飼料資源での自給率向上への挑戦（地域農業 とともに歩む循環型酪農と6次産業化の中で）
	株式会社 玉牧場	鹿児島県霧島市	肉用牛 繁殖	肉用牛の発育・生理を考慮した施設整備・飼養管理技術が高収益性を 実現―幅広い情報収集・共有化と細やかな心配りで家族の夢を叶える―
	有限会社 香川畜産	宮崎県児湯郡川南町	養 豚	口蹄疫からの復興と地域貢献
優秀賞	生駒 一成 生駒 薫	岐阜県加茂郡富加町	酪 農	ゆとりある乳肉複合経営を目指して PART2 ～全国優良畜産経営管理技術発表会を経験して～
	株式会社 桑原畜産	佐賀県嬉野市	肉用牛 肥育	中核企業としてブランド牛『佐賀牛』の生産と食肉販売等による地域 振興への取り組み
	種村 繁徳 種村 フサ子	長崎県島原市	肉用牛 一貫	酪農経営から議員活動と黒毛和種の経営内一貫経営による地域振興 を目指して
	有限会社 日笠農産	岡山県津山市	養 豚	こだわり黒豚の生産・加工・流通一貫経営、消費者の声で品質向上！

※ 有限会社 香川畜産は第56回天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 株式会社 玉牧場は第56回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成29年度〕

開催期日：平成29年11月30日

開催場所：東京都港区 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	牧舎みねむら 峯村 誠太郎 峯村 伊世	長野県東御市	肉用牛 一貫	家族と牛の「しあわせ」を目指して 家族経営の利点である、チームワークと各々のスキルを活かした卓越 した繁殖肥育一貫経営
	農事組合法人 伍協牧場	岡山県勝田郡奈義町	肉用牛 一貫	三世代にわたって歴史を刻む協業経営 ～地域と連携して協業と個別経営を両立させる多様な取組～
	株式会社 五十嵐ファーム	山形県鶴岡市	養豚	飼料米利用による養豚経営の改善と、堆肥を利用したアスパラガスを 主体とした野菜の栽培と六次化による経営改善
	近藤畜産 近藤 武雄	新潟県新潟市	養豚	家族で展開する地域に根ざした養豚6次産業化の取り組み
優秀賞	岩見 智成	大分県日田市	酪農	”牛と人と地域”の能力を最大限に引き出す基本に忠実な酪農経営
	佐藤 綾	山形県飽海郡遊佐町	肉用牛 繁殖	綿密な飼養管理と減反田を活用した十分な粗飼料確保による繁殖成 績の向上および堅実な規模拡大を目指して
	有限会社 秋吉台肉牛ファーム	山口県美祢市	肉用牛 一貫	中山間地域におけるエコフィードとWCSを活用した地域密着型国 産牛肉一貫経営 ～地域に愛される秋吉台高原牛ブランドづくりを目指して～
	有限会社横山養豚	神奈川県横浜市	養豚	都市型養豚として環境や地域貢献に注力 3人の後継者と共に更なる規模拡大を目指す

※ 牧舎みねむら 峯村誠太郎・伊世夫妻は第57回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

※ 株式会社 五十嵐ファームは第57回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成30年度〕

開催期日：平成30年11月27日

開催場所：東京都港区 機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	きもつき大地 ファーム株式会社	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	肉用牛1,000頭の大規模繁殖経営における分業体制の構築 ～肉用牛繁殖と子牛育成の分業体制による繁殖牛生産基盤の維持・拡 大に資する～
	株式会社百姓屋	佐賀県伊万里市	肉用鶏	逆境をバネに「挑戦と工夫」でブロイラー経営 ～百姓屋に夢をのせて～
	有限会社安富牧場	岡山県岡山市	酪農	地域・信頼・思いやり ～消費者に届ける、信頼と安全の酪農を目指して～
	株式会社オーケー コーポレーション	群馬県北群馬郡榛東 村	養豚	「むりをしない」「むだをしない」「むらをつくらない」養豚経営の挑 戦 ～群馬の中山間地域が育んだ豚「榛名ボーク」～
優秀賞	有限会社中川スワ インファーム	大分県豊後高田市	養豚	家畜・地域・消費者・経営に、バランス感覚に富んだ持続可能な養豚 経営
	株式会社あずみ野エコ ファーム	長野県大町市	養豚	エコフィード飼料も活用したブランド肉の 確立と作業効率の向上
	株式会社能登牧場	石川県鳳珠郡能登町	肉用牛 肥育	「能登牛 かわいいよ 能登牛」 ～ニートの僕が牛飼いになって能登牛を全国へ届けたい～
	高橋 正	秋田県横手市	酪農	経営改善に向けて ～飼養規模と個体に合わせた飼養管理の実践～

〔令和元年度（平成31年度）〕

開催期日：令和元年11月25日

開催場所：東京都文京区 東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	ヨシダファーム有限公司	北海道枝幸郡枝幸町	酪農	計画的な規模拡大と従業員雇用でゆとりある高収益経営 ～家族経営から地域NO.1の酪農法人～
	有限会社花田養豚場	新潟県十日町市	養豚	第三者継承により養豚経営に参画したイケメン Twins の挑戦 ～仲間とともに広げる地域農業活性化の輪～
	宮崎 陽輔さん 宮崎 舞さん	佐賀県唐津市	肉用牛 肥育	経営診断が「きっかけ」で儲かる肉用牛肥育経営の実践 ～素牛選定から枝肉出荷まで、全ては肥育成績の詳細分析から始まる～
	株式会社中野ファーム	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	ICT等を活用した家族で築くゆとりある肉用牛繁殖経営
優秀賞	野脇 広夢	北海道勇払郡むかわ町	肉用牛 繁殖	手間を掛けない飼養管理で高所得を実現 ～繁殖牛1年1産！子牛の早期出荷と高単価販売を実践する経営～
	有限会社小田切畜産	長野県東御市	肉用牛 一貫	地域社会に貢献する愛される牧場をめざして
	荒牧 光博 荒牧 慶子	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛 一貫	阿蘇の草資源を利用した褐毛和種の繁殖・肥育一貫で低コスト経営を実現 熊本県
	末吉 久美 末吉 富美子	長崎県松浦市	肉用牛 繁殖	建設業からの参入による定休型ヘルパーを活用した 「ゆとりある肉用牛繁殖経営」を目指して

〔令和2年度〕

開催期日：令和2年11月25日

開催場所：東京都文京区 東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	久保 拓也 久保 環	北海道紋別郡湧別町	酪農	Working hours 1920 ～子供たちにカッコイイと思ってもらえる農業がやりたい～
	有限会社飯田養豚場	青森県横浜町	養豚	家族パワーで築く堅実な養豚経営 ーブランド肉豚「ほろよい豚」の生産拡大をめざしてー
	株式会社老岐ファーム	宮崎県児湯郡新富町	肉用牛 一貫	仲間と共に取り組む黒毛和牛一貫経営の発展 ～肉用牛の新たなビジネスモデルとして～
	森岡 良輔 森岡 恵理香	鹿児島県曽於市	肉用牛 繁殖	両親からのバトン 異業種夫婦の肉用牛繁殖経営への挑戦（取組） ー細やかな飼養管理技術による高収益性を実現ー
優秀賞	武熊 俊明 武熊 浩美	茨城県石岡市	養豚	地道なデータ蓄積と、常に前向きにチャレンジし続ける養豚経営
	株式会社渡辺農場	新潟県上越市	肉用牛 一貫	次世代に繋ぐ畜産経営を模索する ～笑顔で働ける、儲かる牛飼いを目指して～
	農事組合法人中国牧場	島根県仁多郡奥出雲町	肉用牛 一貫	地域と共に歩む畜産経営を目指して ー行政と連携した地域への堆肥供給と自然交配を生かした一貫経営を実践ー
	有限会社大西海ファーム	長崎県西海市	養豚 肉用牛繁殖	J A 出資法人による「所得増大」、「生産拡大」、そして「地域活性化」への取り組み ～大西海ファームの取り組みは第4ステップへ～

※ 森岡 良輔・恵理香夫妻は第60回天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 有限会社飯田養豚場は第60回日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔令和3年度〕

開催期日：令和3年11月26日

開催場所：東京都千代田区 都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	株式会社なごみ農産	山形県天童市	肉用牛 肥育	安全で美味しい国産原料 100%飼料の牛肉で地域を活性化 ー地域農家・企業と共に育つ「和の奏（なごみのかなで）」ブランドー
	株式会社小野ファーム	神奈川県横浜市	肉用牛 一貫	都市の中での乳肉複合による多角経営 ーゲノミック評価の活用による肉用牛生産の取り組みー
	農事組合法人萩原養豚生産組合	宮崎県都城市	養豚	生き残りをかけた経営基盤の再編 ー進化を続ける「観音池ボーク」ー
	山中 健治 山中 菜美	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	夫婦2人で実現した効率的肉用牛繁殖経営
優秀賞	石田 敦 石田 紀子	北海道別海町	酪農	酪農は天職 ー牛さんにうまい草を腹一杯たべさせたいー
	株式会社鬼や福ふく	新潟県津南町	養豚	フリーストール豚房と ICT 技術による母豚の健康維持と繁殖成績の向上 ー豚の幸せが私たちの幸せですー
	妹尾 始 妹尾 睦美	岡山県岡山市	酪農	これが 家族経営の生きる道
	平川 修 平川 美穂	大分県日田市	肉用牛 繁殖	指導員から実践へ、そして、今、家族型肉用牛経営のインフルエンサーへ

〔令和4年度〕

開催期日：令和4年11月25日

開催場所：東京都千代田区 都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	農業生産法人株式会社 アイオイ	山形県鮭川村	肉用鶏	ゼロから創めて40年、10億円肉用鶏への挑戦 ー地域の飼料用米を活用したブランド「やまがた最上どり」の確立に向けてー
	倉持ビッグファウム株式会社	茨城県下妻市	養豚	おいしい笑顔が見たいから ー伝説の下妻金豚ー
	株式会社有田牧場	熊本県球磨郡錦町	肉用牛一貫 酪農	地域粗飼料資源をフル活用して資材価格高騰と温室効果ガス削減に挑む
	有限会社高田牧場	大分県豊後高田市	肉用牛肥育	地域に根ざし、100年続く経営作り ー伝統的技術の継承と先進的技術の融合ー
優秀賞	中野 浩一 様	新潟県新発田市	酪農	酪農を未来につなげる ー循環型農業で地域をひとつにー
	株式会社いちがお畜産	京都府京丹後市	肉用牛繁殖	集落と連携し、景観保全と「丹後牛の里」を実践する法人経営 ー畜産を活かした地域づくり、人づくり、絆づくりー
	守川 仁	熊本県山鹿市	肉用牛繁殖	牛にも人にも優しい！ ー積極的に ICT を活用した肉用牛繁殖経営ー
	浏上 浩一 浏上 加奈子	佐賀県杵島郡江北町	肉用牛肥育	がんばる後継者、親父（おやじ）に負けるな！ ー地元での粗飼料調達による低コスト和牛スモール肥育経営の挑戦ー

※ 株式会社有田牧場は第62回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 倉持ビッグファウム株式会社は第62回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔令和5年度〕

開催期日：令和5年11月29日

開催場所：東京都千代田区 都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	株式会社蔵王ファーム	山形県山形市	肉用牛 一貫	繁殖から肥育・加工・販売まで一貫体制による安全・安心な牛肉を提供 ―創業から変わらない原点、それは牛への愛情―
	さかもと養鶏株式会社	奈良県五條市	採卵鶏	若き姉妹が仲間たちと挑戦する「6次産業化」と「ふれあい事業」 ―亡き父が遺した白鳳卵を守る―
	丸山 昭博 丸山 都々子	岡山県真庭市	酪農	日本一のジャージー産地を支えたい ―仲間とともに地に足がついた経営の実践―
	株式会社上鶴畜産	鹿児島県錦江町	肉用牛 繁殖	夫婦で築いた地域一番の堅実経営 ―夢は後継者へ―
優秀賞	成田 芳樹	北海道広尾町	酪農	人も牛もゆとりの放牧酪農
	有限会社福田農場	北海道本別町	肉用牛 肥育	経営中止の危機からの逆転 ―土づくりが生む絶品「美蘭牛 福姫」―
	有限会社河井ファーム肉よし	三重県志摩市	養豚	豚に真珠で付加価値を！ ―伊勢志摩の自然豊かな中で大切に育てました―
	植木 俊輔 植木 美和	大分県竹田市	肉用牛 繁殖	大規模化と省力化に向けた三方よし ―牛よし・地域よし・家族よし―

※ 株式会社蔵王ファームは第63回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔令和6年度〕

開催期日：令和6年11月28日

開催場所：東京都千代田区 都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜 種	タイトル
最優秀賞	菅原 雅継 菅原 真美	岩手県一関市	酪農	優れたリスクマネジメントによる高品質乳の安定生産 ―人にも牛にもやさしい酪農経営―
	平野 耕平 平野 博子	岡山県笠岡市	酪農	自給飼料を軸に地域とともに、家族でやっていく
	株式会社ヤマニファーム	高知県大月町	肉用鶏	四国1位から全国1位肉用鶏に！ ―誰でもできる飼育・管理をめざして！―
	株式会社丸福・ 有限会社荻町高原 総合農場	大分県竹田市	養豚	地域を結束（丸）させ地域の幸福（福）を目指す『丸福』 ―半世紀を超えて築き上げた「我が社のモットー 生産即消費の流通体系で地域を支える」―
優秀賞	兵藤 幸悦	山形県酒田市	肉用牛 肥育	家族と関係者の協力で実現した安定的な肉用牛肥育経営 ―30年にわたり辛抱強く取組んだ経営再建―
	株式会社イソシンファーム	栃木県大田原市	肉用牛 肥育	祖父から孫へ、「愛」のバトンリレー ―地域に根差した耕畜連携・循環型農業の実現―
	田辺 竜太	山梨県忍野村	採卵鶏	持続可能な養鶏を追求する ―価値と魅力の再発見―
	有限会社長門アグリ リスト	山口県長門市	肉用鶏	外的要因に負けない肉用鶏を起点とした経営 ―地鶏・循環・6次化で地域をリード―
特別賞	旭市飼料用米生産者協議会 旭市飼料用米利用者協議会	千葉県旭市	飼料生産 組織	畜産、耕種、行政がタッグを組んで飼料用米増産への調整機能を発揮 ―循環型農業を進め水田を次世代に継承する―

※ 株式会社ヤマニファームは、第64回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

※ 有限会社荻町高原総合農場は、第64回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

IV

令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領

令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領

6年度発中畜第5417号

令和7年1月20日

1 趣 旨

公益社団法人中央畜産会（以下「中央畜産会」という。）は、中央畜産会の会員団体等（以下「畜産会等」という。）が行う支援活動を通じて明らかにされた優秀な実績を収めている畜産経営またはグループ（以下「畜産経営」という。）ならびに経営の課題解決に取り組んでいる畜産経営を広く求め表彰するとともに、全国優良畜産経営管理技術発表会（以下「発表会」という。）を開催し、もってこれら畜産経営の成果とそれを支えた経営管理技術の普及拡大に資する。

2 主催者（実施主体）

この発表会は、中央畜産会が主催する。

3 参加資格

- 1) 畜産会等が行う支援活動の対象となった畜産経営であって、以下の条件のいずれか1つ以上を満たすもの。
 - (1) 優良な実績を収めており、その実績の内容ならびにそれを支える経営管理技術の内容が明確であるもの。
 - (2) 経営の課題解決のための取り組みを行っており、その取り組みや活動の内容ならびにその過程が明確であるもの。
 - (3) 個人又は組織の活動における女性の活躍を推進し、又は女性が顕著な貢献をしている取組又は経営管理を行っているもの。
- 2) 当該年度において、他の団体・機関の開催する「農林水産祭」参加行事に出品財「経営」で出品していないこと。
- 3) 当該年度前2カ年間に農林水産祭参加行事において、出品財「経営」での農林水産大臣賞を受賞していないこと。
- 4) 個別経営における家畜の飼養規模は、以下のとおりとする。
 - (1) 酪農経営にあつては、経産牛10頭以上。
 - (2) 肉用牛経営にあつては、繁殖牛・肥育牛5頭以上。
 - (3) 養豚経営にあつては、80頭以上の経営。ただし繁殖専門経営の場合は、子取りめす豚10頭以上の経営。

- (4) 採卵鶏経営にあっては、成鶏700羽以上。
- (5) 肉用鶏経営にあっては、年間出荷30,000羽以上。

4 参加畜産経営等の推薦

畜産会等は、参加畜産経営を5の2)の審査の視点に基づき事例を選定し、中央畜産会が別に定める様式により、中央畜産会へ正副2部提出するものとする。

5 審査の方法と視点

1) 審査の方法

中央畜産会は、学識経験者等を中心として構成する審査委員会により、畜産会等からの推薦のあった書類に基づき、最優秀事例、優秀事例を選考する。なお、審査委員会が必要と認めた場合は現地確認を行うことができるものとする。

2) 審査の視点

審査の視点は、畜産経営の生産性・収益性等の経営実績、それを支える経営管理技術および課題解決のための取り組みや活動の内容、その成果に関する以下の諸点とする。

- (1) 経営展開上の合理性、堅実性、普及性、持続・安定性
- (2) 地域との融和等に関する合理性、普及性、持続・安定性

6 表彰

1) 表彰の種類

- | | |
|--------------------------|----------|
| (1) 最優秀事例：農林水産大臣賞 | 4点（予定） |
| 地方競馬全国協会理事長賞 | 4点（予定） |
| 中央畜産会長賞（最優秀賞） | 4点 |
| (2) 優秀事例：農林水産省畜産局長賞 | 4点（予定） |
| 中央畜産会長賞（優秀賞） | 4点 |
| (3) その他：審査委員会が特に必要と認める場合 | |
| 中央畜産会長賞（特別賞） | 必要と認める場合 |

2) 表彰の対象

次に掲げる事項のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる個人経営の場合にあっては、夫婦連名で表彰することができるものとする。ただし、表彰の対象は、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞、農林水産省畜産局長賞、地方競馬全国協会理事長賞、中央畜産会長賞（最優秀賞・優秀賞）および審査委員会が特に必要と認める場合（中央畜産会長賞（特別賞））に限る。

- (1) 家族経営協定を締結していること。
- (2) 経営主の配偶者の作業分担、経営主の従事日数に対して配偶者の従事日数が概ね5割に達していることが確認できること。
- (3) 農業改良普及センターまたは類似の普及指導組織等による意見書が添付されていること。

7 行 事

1) 発表会

参加畜産経営者等ならびに畜産会等関係者の参集のもと、令和7年11月に東京都内において発表会を開催し、優秀な実績および特色ある取り組みや活動内容について普及拡大に資する。

2) 農林水産祭への参加

この行事は「農林水産祭」に参加する予定である。

8 費用の負担

この事業に要する費用は、中央畜産会が負担する。

9 告知日

令和7年4月1日

10 その他

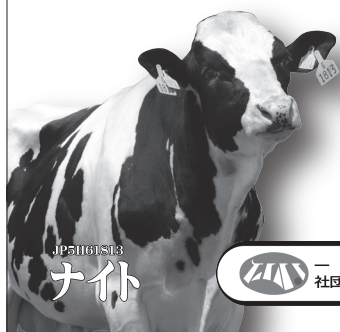
本要領に定めのない事項については、中央畜産会会長が別に定める。

協賛団体・企業一覧

一般社団法人家畜改良事業団
一般社団法人全国酪農協会
一般社団法人中央酪農会議
一般社団法人酪農ヘルパー全国協会
よつ葉乳業株式会社
一般社団法人日本ホルスタイン登録協会
協同組合日本飼料工業会
全国酪農業協同組合連合会
全国肉牛事業協同組合
日本養豚事業協同組合
一般社団法人日本養豚協会
一般社団法人日本養鶏協会
一般財団法人生物科学安全研究所
公益社団法人日本獣医師会
一般社団法人日本草地畜産種子協会
公益社団法人日本食肉格付協会
公益財団法人日本乳業技術協会
公益財団法人日本食肉生産技術開発センター
公益社団法人畜産技術協会
公益社団法人全国農業共済協会
一般財団法人畜産環境整備機構
一般社団法人日本畜産物輸出促進協会
日本酪農政治連盟
株式会社農林放送事業団
株式会社イシイ
オリオン機械株式会社
全農畜産サービス株式会社
ヨシダエルシス株式会社
デラバル株式会社
株式会社中嶋製作所
東西産業貿易株式会社
デザミス株式会社
株式会社日本農業新聞
株式会社コトブキソリューション
株式会社大建情報システム
株式会社南日本情報処理センター
京和工業印刷株式会社
株式会社博秀工芸社
株式会社富士工芸社
日本印刷株式会社

畜産の発展に貢献

- ▶ゲノミック評価で遺伝的能力向上
- ▶牛群検定の普及・定着と情報発信
- ▶最新の DNA 型検査と繁殖技術の提供



一般社団法人 **家畜改良事業団**

〒135-0041 東京都江東区冬木 11-17 イシマビル
TEL : 03(5621)8911(代) FAX : 03(5621)8917



P1184 つるひめしげ
鶴姫重

一般社団法人 **全 国 酪 農 協 会**

会 長 砂 金 甚太郎
副 会 長 佐 藤 哲
副 会 長 隈 部 洋
常 務 理 事 三 国 貢

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館 5 階
TEL03-3370-5341 FAX03-3370-3892

一般社団法人 **中央酪農会議**

会 長 山 野 徹



〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町2-6-1
堀内ビルディング 4F
TEL 03-6688-9841
FAX 03-6681-5295
URL <https://www.dairy.co.jp>

酪農家をサポートする酪農ヘルパー事業

一般社団法人 **酪農ヘルパー全国協会**

会 長 隈 部 洋

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目37番2号 酪農会館 6 階
TEL. 03-5577-5135 FAX. 03-5577-5136

酪農ヘルパー全国協会
ホームページ



1967年、
「酪農家がつくる、酪農家のための会社」
として私たちは生まれました。

多くの困難があった。
そんな中でも、私たちは想いつづけた。

ミルクを飲んでくれる人はたいせつ。
同じくらい、牛を世話し、育てる人もたいせつ。

酪農家とお客さまを結ぶ「架け橋」として、
きょうも、あなたのもとへ届けます。

北海道のおいしさを、まっすぐ。

✿よつ葉

どの牛が牛群内で優れているか
一目で分かります
→ 子牛の頃からの選抜・交配計画
が可能です

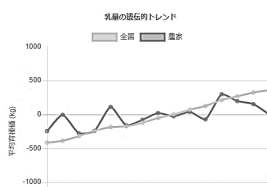
GenIUS

ゲノミック
情報利活用システム



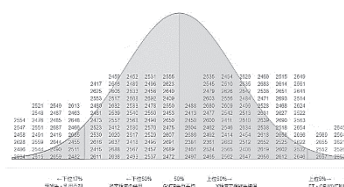
遺伝的トレンド

形質を選択：乳量



未誕産年分布

※配入牛のデータは本図で表示する年以降のデータは未表示です。また、データはすべて子牛のデータに基づいています。



一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会

〒164-0012 東京都中野区本町四丁目38番13号

電話03(3383)2501

北海道支局 〒001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-5

電話011(726)3111

日本の畜産を力強く支えていきます

協同組合 日本飼料工業会

〒106-0041 東京都港区麻布台2丁目2番1号

TEL 03-3583-8031 FAX 03-3583-8020

<http://www.jafma.or.jp/>

❖北海道支部

❖関東支部

❖中部支部

❖関西支部

❖九州支部

各支部連絡先：支部支援室【住所・TEL・FAXは上記と同じ】

< 実現したい未来 >

消費者の食卓が牛乳や乳製品によって

笑顔で満たされるように

酪農家の食卓もまた、笑顔で満たしたい



全国酪農業協同組合連合会（全酪連）

[本所] 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目37番2号 TEL (03) 5931-8001 (代) <https://www.zenrakuren.or.jp>



組合への加入を歓迎します！



全国肉牛事業協同組合

理事長 佐々木 信弘

肉用牛及び酪農経営コストを低減し儲かる経営のため、預託、共同購買、福利厚生事業等を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル

TEL 03-3503-8380 FAX 03-3503-8382

URL <https://jcic-f1.jp>

日本の養豚家を元気にする！日本養豚事業協同組合は生産者による生産者のための組織です。



日本養豚事業協同組合

Japan Swine Farm Business Cooperation

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10 八重洲早川第2ビル6階

TEL:03-6262-8990 FAX:03-6262-8991

URL:<https://tonjikyو.or.jp> e-mail:info@tonjikyو.or.jp



日本豚
JAPANESE PORK

一般社団法人 日本養豚協会 (JPPA)

JPPA (Japan Pork Producers Association)

会長 香川 雅彦



〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

TEL (03) 3370-5473 FAX (03) 3370-7937 [URL] <http://pig.lin.gr.jp/>

「国産豚肉 農場トレーサビリティ」(通称:豚トレ) [URL] <http://www.butatrace.com/>



一般社団法人

日本養鶏協会

会長 齋藤 利明



〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館

代表 TEL (03) 3297-5515 FAX (03) 3297-5519

URL:<https://www.jpa.or.jp>



一般財団法人生物科学安全研究所

動物の感染症検査、畜産物の残留検査等を受託しています

★ 牛伝染性リンパ腫、豚繁殖・呼吸障害症候群等の各種感染症検査
(抗体検査、遺伝子検査、細菌検査等)

飼料・畜産物への動物用医薬品等の残留検査、黒豚 DNA 検査、環境毒性試験等
検査の詳細、「料金表」のご要望は、HP の「お問い合わせフォーム」からお願いします



神奈川県相模原市緑区橋本台 3 丁目 7 番 11 号

TEL : 042-762-2775(代) URL : <https://www.riasbt.jp>

RIAS

検索



公益社団法人

いのちみつめる。いのち育む。

日本獣医師会

会 長	藏 内 勇 夫
副 会 長	鳥 海 弘
副 会 長	西 山 治 生
副 会 長	栗 本 まさ子
専務理事	伏 見 啓 二

〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 23 階

電話 03-3475-1601 FAX 03-3475-1604

国産粗飼料で持続的な畜産の推進を!



〈話題の新品種〉



オーチャードグラス

きよは

オーチャードグラス

まきばゆうか

イタリアンライグラス

はやまき 18

イタリアンライグラス

Kyushu1

ペレニアルライグラス

夏ごしペレ

極短穂 WCS 用イネ

つきはやか

極短穂 WCS 用イネ

つきあやか

極短穂 WCS 用イネ

つきすずか



一般
社団法人

日本草地畜産種子協会

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8 NCO神田紺屋町ビル TEL (03) 3251-6501 FAX (03) 3251-6507



公益社団法人

日本食肉格付協会

会長 大野 高志



〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-1-2 (NCO神田淡路町 2F)

電話 03(3257)0220 (代) FAX 03(3257)0224

URL: <http://www.jmga.or.jp>



牛乳・乳製品 おいしさと信頼のために



食品衛生法・登録検査機関
ISO/IEC 17025 認定機関

公益財団法人 日本乳業技術協会

乳・乳製品の試験・検査、検査技術研修、外部精度管理調査（技能試験）、
校正用試料乳の配布などを行っています。

お問い合わせ： 〒102-0073

東京都千代田区九段北1-14-19 乳業会館

TEL 03-3264-1921 FAX 03-3264-1569

Email: info@jdta.or.jp

ホームページ: <http://www.jdta.or.jp>



公益財団法人日本食肉生産技術開発センター
東京都港区赤坂6-13-16 (アジミックビル4F)

TEL. 03-5561-0786 FAX. 03-5561-0785

理事長 飯高 悟



公益社団法人 畜産技術協会

会長 石原 哲雄

月刊「畜産技術」

「全国畜産関係者名簿」

「牧草・毒草・雑草図鑑」

「和英・英和畜産用語集」

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9 TEL 03(3836)2301 FAX 03(3836)2302

<https://jlta.jp>

一緒に見つけませんか



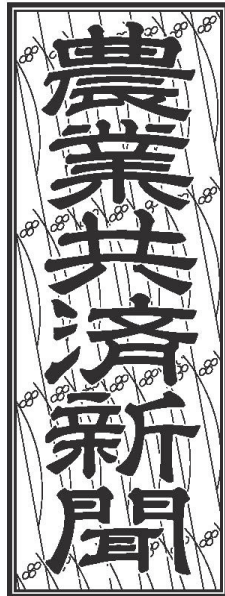
家畜診療

農業共済獣医師陣唯一の
技術指導専門誌

月刊・定価一〇〇〇円

毎週水曜日発行

月ぎめ 四九五円
年ぎめ 五五二〇円



農業の明日

営農、暮らし、地域の活性化へ



どんな地方でも…
各戸に郵送される農業専門紙
中央と全国の農家とを
固く結ぶ定期便です

価格はともに送料・消費税込み

発行所 公益社団法人 全国農業共済協会
東京都千代田区一番町19番地

E-mail kouhou@nosai.or.jp
☎03 (3263) 6413



NOSAIの定期刊行物は
こちら



ちくかんリースで、日本の畜産を元気に

畜産環境整備機構は、畜産農家の皆さまを機械や施設等のリースで応援しています。また、畜産環境の技術開発や堆肥の分析なども行っています。

一般財団法人 畜産環境整備機構
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-12-1
☎ 03-3459-6300 FAX 03-3459-6315



一般社団法人 日本畜産物輸出促進協会

(認定農林水産物・食品輸出促進団体：認定番号第14号)

Japan Livestock Products Export Promotion Council (J-LEC)

会長 井 出 道 雄



〒101-0021

東京都千代田区外神田2丁目16番2号 (第2ディーアイシービル9F)

TEL: 03-5577-5004 HP: <https://jlec-pr.jp>

ひとしずくの鼓動！

日本の躍動へ。

日本酪農政治連盟

委員長 柴田 輝男

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館5階
TEL 03(3370)1741(直通) FAX 03(3370)1779

受賞者の皆様 おめでとうございます。

がんばる！畜産！

（公社）中央畜産会の畜産映像情報は2つのメディアでご覧になれます。

（公社）中央畜産会ホームページ <http://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/>

BS234ch グリーンチャンネル 毎週月曜～金曜午前7時～7時30分



（株）農林放送事業団

東京都千代田区神田淡路町2-23-2 TEL 03-6260-7617

はじまり 起源は小さなヒヨコでした

- *ブロイラーひなの生産及び販売
- *ブロイラーの飼養受託及び販売
- *インフルエンザワクチン製造用鶏卵の生産及び販売
- *養鶏機器の輸入・販売及び施工

- *孵卵場機器の輸入・販売及び施工
- *システム鶏舎の建設及び販売
- *ワクチン卵内接種機のシステム契約による技術サービス
- *オーガニックペットフードの輸入及び販売

株式会社 イシイ

〒779-3223 徳島県名西郡石井町高川原字高川原 71 番 1
TEL : 088-679-1410 FAX : 088-679-1411



叶えよう 家族と牛と 豊かな未来

ORION

オリオン カーフステーション<OCS>

●子牛用
フィード
ステーション
給飼データ

●カーフフィーダー

●子牛見守りサービス
分析データ

ユーザー
データ確認

Calf Cloud

Calf Cloud
PREMIUM

●体重計
体重計データ

●哺乳ボックス
哺乳データ

子牛の哺乳・給飼・体重のデータから
哺育状況を自動的に配信するサービスです。

- ▶ 子牛見守りレポート(毎朝の注意牛確認・疾病の早期発見)
- ▶ 子牛見守りログ(子牛の発育状況を確認)

※子牛見守りサービスの利用は、カーフクラウドまたはカーフクラウドプレミアムの利用が必要です。

毎日のミルク哺乳量、スターター給飼量、増体量を管理します。
スムーズな固形飼料の移行による第一胃の形成や、増体を確認しながらの
給与量設定などにより、健康で価値のある子牛育成に寄与します。

オリオン機械株式会社
www.orionkikai.co.jp



牛乳で
スマイル
プロジェクト

私たちは、いのちを育み、豊かな食を創造し、
みんなの笑顔をサポートします。



全農畜産サービス株式会社
ZEN-NOH LIVESTOCK CO., LTD.

家畜（種豚・乳牛・素ひな）、畜産一般資材やICT機器、建設資材などを販売する畜産専門会社です。



〒135-0041 東京都江東区冬木11-17 TEL:03-5245-4871 FAX:03-5245-2424
北九州営業所 TEL:092-715-8787 南九州営業所 TEL:099-482-2521
北海道駐在 TEL:070-4422-8092



全自動養鶏システム



ヨシダエルシス株式会社

https://www.yoshida-lsys.com

代表取締役 吉田 卓司

本社・工場 和歌山県御坊市藤田町吉田155
〒649-1342 TEL 0738-22-2111 FAX 0738-22-8885

東京支店 東京都千代田区飯田橋3-2-10-103
〒102-0072 TEL 03-3511-0033 FAX 03-3511-3400

YOUR VMS™ YOUR WAY

選んでよかった
VMS™



“ VMS™V300には
色々なオプションがあり
自分の考えている計画に合わせ
柔軟に機能を選択できます

妊娠鑑定なども獣医師がすぐに来られない場合や、
獣医師自体の数が減少していく中で、牛が200頭、300頭と
増頭していくことになったとき、スタンション設備がない私の牧場では
従業員自身が対象牛を捕まえるのは大変です。VMSが持つ機能では
搾乳した乳汁で調べることが可能で、流産までもすぐに調べられます。

続きはこちらの
QRコードから



株式会社ミルクファームすぎやま様 京都府京丹波町
導入機器:VMS™ V300 1台
搾乳頭数:約100頭(2023年2月現在)

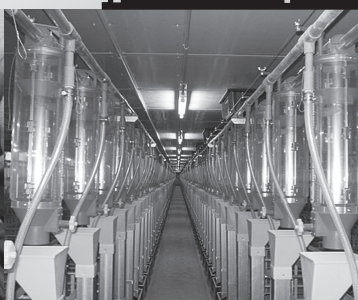
デラバル 株式会社

〒060-0807 北海道札幌市北区北7条西1丁目 2-6 NCO札幌14F
TEL:011-738-2311 www.delaval.com/ja/

※お客様の声は、デラバル製品を実際に使用された経験を反映しています。その声の内容は検証されたものではなく、当社はそ
の結果が典型的であると主張するものではありません。実際のパフォーマンスと改善は、以前の搾乳方法や牛の種別、牧場と牛
群の飼養管理方法など、多くの要因によって異なります。お客様の声は、サービスや性能の保証を意味するものではありません。



想いを集め技術をカタチに



株式会社 **中嶋製作所**

中嶋製作所

検索

【本社・工場】

〒388-8004 長野市篠ノ井会33番地
TEL.026-292-1203(代表)
FAX.026-293-1611



SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

長野県登録[182]号



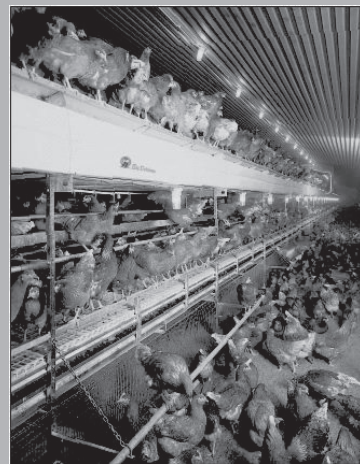
Big Dutchman

飼養条件から選ぶ3つの世界標準

多段式平飼システム **Natura**

EU採用の多段式平飼いシステム

- EU 基準対応のエイビアリーシステムで放し飼いにも対応可能
- 従来の平飼いよりも飼養密度を高めることができます
- 鶏舎内で鶏が自由に行動でき自然に近い飼育ができます
- 給餌、給水、除糞、集卵の自動化により、労力削減ができます
- 給餌・給水、休息、遊び場、産卵の各エリアで構成されています
- ネストシステムで巢外卵の抑制、フレッシュエア―糞乾システムでアンモニアの抑制ができます



エンリッチドケージシステム **EV-EU**

有益で高品質卵生産システム



- EU 基準対応の群飼育のエンリッチドケージです
- 産卵性能を引き出し、清潔で破卵率の低い卵の生産が行えます
- 従来ケージシステムと同等の給餌、給水、集卵、除糞システム
- ネスト、止まり木、遊び場、爪研ぎが設置されます

成鶏ケージシステム **UV-L639A-JP**

効率的な鶏卵生産を追及

- フレッシュエア―乾燥システムにより鶏糞処理も容易です
- 新型集卵機 EggCellent でより効率的な集卵が可能です



人と卵に優しいシステムを提供します



東西産業貿易株式会社

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-17-8

Tel : 03-3815-3147 FAX : 03-3135-2208

待望の耳標型登場！



GOOD DESIGN
AWARD 2023

耳標みたいな
軽いセンサー

イヤタグ
センサー
出ました！

※肥育のみ対象
(他営農形態は順次開発予定)



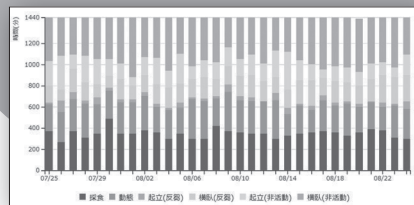
U-motion®

牛のモニタリングシステム【ユーモーション】

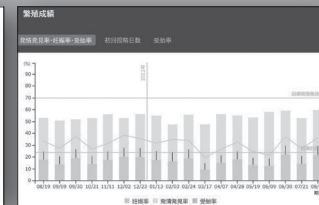
U-motionでは
何が
わかるのですか？

疾病傾向・発情兆候
分娩兆候・起立困難
などをお知らせします。

それ以外にも、疾病になりやすい牛をラベリングしてリスト化したり、タイムラインに体調変化やワクチン接種などの記録・コメントを残したりと、牛の観察をサポートする様々な機能を備えています。



活動量グラフ



繁殖成績

タイムライン

2022	表示のカテゴリを選択
01/15	妊娠確認 受胎 250日前 詳しく見る
01/05	急性(夜)アラート
01/05	急性疾病アラート
01/04	急性疾病アラート
2021	
12/25	離乳 移住 271日前

タイムライン

牛の1日の行動がグラフで一目瞭然。
餌を食べていない、横になっている時間が長いなどの
異変を見える化し、こまめに牛を見る時間がない時の
観察をサポートします。

For
Veterinarian

U-motion® と情報連携できる
獣医師様向けの診療記録・遠隔診療ツールも
ございます



※発情兆候は酪農、肥育、一貫のみ、起立困難は肥育のみ、分娩兆候はオプションです。

デザミス株式会社
desamis.Co.,Ltd.

〒135-0064 東京都江東区青海 2-7-4 the SOHO 417
TEL : 03-6380-7239 Mail : contact@desamis.co.jp
Web : https://www.desamis.co.jp

U-motionを
もっと詳しく



U-motionと
連携できるサービス



U-motion ユーザーの
牧場様とのコラボ動画



獣医師様の
活用
シーンも！

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

購読料

※クレジットカード払いのみ

地域のリーダー的な農家やJA役職員が読者の8割を占めており、関係省庁・団体・地方自治体、農業関連企業、生協、市場関係やスーパーなど幅広い層の方々に読まれています。



MICはICTを通して畜産業をサポートします！



MIC Minaminihon Information Processing Center
株式会社 南日本情報処理センター

〒891-0115 鹿児島市東開町4-104 TEL: 099-269-9711

●総合印刷●情報関連●総合企画・デザイン●出版関連

京和工業印刷(株)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目18番地6号

TEL.03(3356)3591(代) FAX.03(3356)3593

Eメール: kyouwakougyou@ia0.itkeeper.ne.jp

新しい発想でさまざまな変化を受入れ 素早く適応し
より経験豊富なチームで動きはじめています

グラフィック(DTP・展示・WEBサイト)
企画・デザイン及び印刷業務、シンポジウム運営業務



株式会社 博秀工芸
代表取締役 村瀬 科博

〒113-0034 東京都文京区湯島3-21-4 第1三倉ビル7F
Tel. 03-3836-3680
<http://www.hakushu-arts.co.jp/>



空間をカタチにする

博覧会・展示会・見本市・企画・設計・施工・監理

すばらしき、仲間たち。

株式
会社 富士工芸社

本社/〒454-0981 名古屋市中川区吉津5-817 TEL(052)431-0291(代) FAX(052)431-8010
<https://www.fuji-kogei.co.jp> E-mail: eigyou@fuji-kogei.co.jp

社会人1年目。
お客様に
「ありがとう」
って言われた

社会人20年目。
お客様に
「ありがとう」
って言われた

BUILD  A STRONG PARTNERSHIP

お客様に「強く必要とされる存在」であり続けます

NPC 日本印刷株式会社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-41-24



今、畜産業は担い手不足や国際化の進展など、大きな変化の局面にあります。そんな中、飼料を自ら生産したり、省力化を図ったりと、さまざまな工夫で素晴らしい経営を行っている生産者がたくさんいます。

このサイトでは、そうした各地の優れた畜産経営や、後継者の活躍、おいしくて安全な畜産物を消費者の方々に届けるまでを映像で紹介します。

この映像情報を生産者の方はもとより消費者の方々と共有することで、元気で健全な畜産の発展につなげることを目指しています。



畜産トレンド発見!

このコンテンツでは、生産現場での省力化技術や、飼料用米やエコフィードなどの活用による飼料コスト削減など、「技術」に着目して各地の事例を紹介します。

●配信中的内容●

特別編 ヨーロッパアルプ酪農の力とチーズ街道 オーストリア・ブレゲンツァーヴァルト／総集編 天皇杯を受賞した畜産経営と登竜門・全国優良畜産経営管理技術発表会／和牛の成り立ちの大きな存在「蔓牛」竹の谷蔓 岩倉蔓 周助蔓 ほか

ドキュメント! 畜産の新主役たち

このコンテンツでは、畜産物の安全性確保や6次産業化の取り組み、女性、障がい者など多様な担い手の活躍を「人」に着目して紹介します。

●配信中的内容●

日本畜産学会100周年 第132回大会 総集編／全日本ホルスタイン共進会に向けて ～高校生たちの奮闘～ 群馬県立吾妻中央高等学校 第8回九州連合ホルスタイン共進会 ほか

なるほど! 畜産現場

このコンテンツでは、畜産物ができるまでや、現場を支える職人たち、馬事文化などあまり知られていない様々な畜産現場を紹介します。

●配信中的内容●

国際養鶏養豚総合展2024 総集編／総集編 畜産に携わる若者と女性の力／令和6年度全国畜産縦断いきいきネットワーク大会 ほか

グリーンチャンネル
でも放送中

--- 放送日 ---
毎週月～金曜日
朝7時～

「がんばる! 畜産! 9」

URL: <https://jlja.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/>

(お問合せ先)

公益社団法人中央畜産会 経営支援部 (情報)

TEL: 03-6206-0846 FAX: 03-5289-0890



これからの
未来のために

医療の
普及

教育施設
の充実

畜産の
振興

地域への
貢献

暮らしの チカラに、地方競馬

地方競馬の売上げの一部は、畜産振興および
地方財政の改善に活用されています。



地方競馬全国協会

<https://www.keiba.go.jp/>



くわしくは、地方競馬情報サイト「KEIBA.GO.JP」からご覧になれます。

